CAMEDIA
デジタルカメラ

C-7070 Wide Zoom

取扱説明書

応用編

カメラを使いこなすための
すべての機能について説明しています。

カメラの基本操作

基本的な撮影

高度な撮影

いろいろな再生

プリント

パソコンでの活用

カメラの設定

- ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、海外旅行などの大切な撮影の前には試し撮りをしてカメラが正常に機能することをお確かめください。
- 取扱説明書で使用している液晶画面やカメラのイラストは、実際の製品とは異なる場合があります。

このカメラの使い方

パソコンに•••

カメラの画像をパソコンに保存し、付属のOLYMPUS Masterを使うと、画像の編集・閲覧・プリントなどをもっと楽しむことができます。

カードに•••

撮影した画像はxDピクチャーカードなどのメディアに記録されます。カードにプリント予約してプリントショップやプリンタ（PictBridge対応）でプリントすることができます。

プリンタに•••

プリンタ（PictBridge対応）からカメラの画像を直接プリントすることができます。

テレビに•••

カメラの画像やムービーをテレビで再生することができます。

ダイレクトボタンで•••

フラッシュの設定や画像の削除、プロテクトなどダイレクトボタンで簡単に操作することができます。

モードダイヤルで•••

撮影や再生の操作を選びます。
SCENE は7種類の撮影シーンから撮影状況に合わせた設定を選択することができます。

十字ボタン・OK/MENUボタンで•••

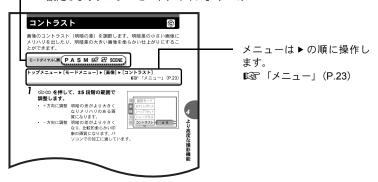
メニューの選択や設定のほか、再生画面のコマ送りのときも使います。

メニューで•••

液晶モニタに表示されたメニューで撮影や再生、カメラに関する設定を行います。

取扱説明書の使い方

●表記について

本書の各機能説明ページの表記について説明します。撮影・再生を始める前にご確認ください。ボタン・メニューの操作方法の詳細については、各参照ページをご覧ください。

このページは説明のためのサンプルです。実際のページとは異なる場合があります。

ご注意

故障やトラブルになるような、重要な注意事項が書かれています。絶対に避けていただきたい操作も書かれています。

ヒント

活用するために、知っておくと便利なことや役に立つ情報などが書かれています。

☞

本書での参照先のページを書いています。

●「基本編」と「応用編」について

このカメラの取扱説明書は、基本編と応用編（本書）の2冊で構成されています。

基本編　まず、カメラを手に取って使ってみましょう。撮影して再生するまでを簡単に説明しています。

応用編　カメラの使い方に慣れたら、カメラの他の機能も使ってみましょう。もっときれいに、もっと楽しく撮れるように多くの機能が用意されています。

取扱説明書の構成

各章の扉ページには、それぞれの章に関連したコラムを記載しています。ぜひご覧ください。

もくじ

4 より高度な撮影機能 56

5 いろいろな撮影機能 - - - - - - - - - 86

6 再生 - - - - - - - - - 98

7 設定 - - - - 118

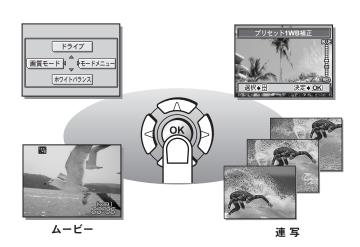
8 プリントする - - - - 140

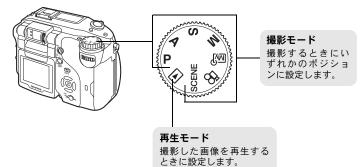
9 パソコン接続 - - - - - - - - - - 158

10 付録 - - - - - - - - - - 173

1

カメラの基本操作

高度な撮影や編集はプロカメラマンだけの技術だと思っていませんか？
彼らは長年の経験とプロならではの技を活かし、多様で微妙な調整をしながら撮影します。
デジタルカメラを使うあなたはボタンを操作するだけ。メニューを設定すれば、取り込む光の量を調節する、ピント合わせの範囲を変えるなど、高度な機能を簡単に使いこなすことができます。
メニューの設定は、液晶モニタを見ながらボタン操作で行います。各機能の説明を読む前に、まずはボタンとメニューの操作方法をマスターしましょう。

モードダイヤル

このカメラには撮影モードと再生モードがあります。モードはモードダイヤルを使って設定します。撮影モードにはさらに7種類のモードがあります。目的のモードを選んで電源を入れてください。

●モードダイヤルの種類

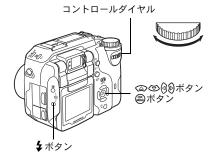
撮影モード	P	被写体の明るさに応じて、最適な絞り値とシャッター速度の組み合わせをカメラが自動的に決めます。また、適正露出の状態で絞り値とシャッター速度の組み合わせを変更できるプログラムシフト機能があります。☞P.57
	A	絞り値を自分で設定します。シャッター速度はカメラが自動的に設定します。☞P.57
	S	シャッター速度を自分で設定します。絞り値はカメラが自動的に設定します。☞P.59
	M	絞り値とシャッター速度を自分で設定します。☞P.60
	My	撮影に関する各種機能を設定してマイモードとして登録し、オリジナルの撮影モードとして使います。☞P.62
	ムービー	ムービーを撮影します。音声も録音できます。☞P.87
	SCENE	撮影状況に合わせた7種類の撮影シーンから選択します。☞P.42
再生モード	▶	静止画またはムービーを再生します。音声も再生できます。☞P.99

ヒント

- モードダイヤルの位置によって、ダイレクトボタンの機能やメニューの内容が異なります。☞「ダイレクトボタン」（P.16）、「メニュー」（P.23）、「メニュー一覧」（P.194）
- モードの変更はカメラの電源が入っている状態でも行えます。

機能の設定方法

このカメラでは、いろいろな機能を設定したり操作するときダイレクトボタンやメニューを使います。
ダイレクトボタンで設定できる機能はメニューを使って設定することもできます。☞「ダイレクトボタン」（P.16）、「メニュー」（P.23）

例）フラッシュに関する設定を行う場合

メニューを使って設定する場合

㊎を押してメニューを表示させ、［モードメニュー］－［撮影］タブ－［フラッシュ］を選択します。
- ㊤㊦㊧㊨㊎を使ってフラッシュに関する設定を行います。

ダイレクトボタンを使って設定する場合

ボタンを押してから、コントロールダイヤルを回します。
- 液晶モニタに設定画面が表示されます。
- フラッシュモードを選択しボタンを押します。フラッシュモードが確定し、撮影画面に戻ります。
- さらにフラッシュに関する設定を行う場合は、画面下の操作ガイドにしたがって設定します。

ドライブ 単写
ISO感度 オート
フラッシュ オート発光
AF/MF AF
測光 ESP

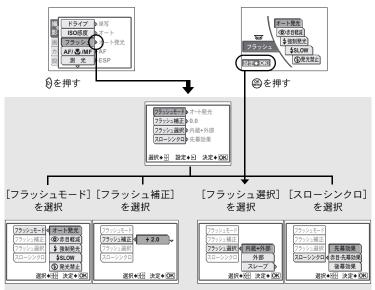
㊨を押す

オート発光
赤目軽減
強制発光
SLOW
発光禁止
フラッシュ
設定 OK

㊎を押す

フラッシュモード オート発光
フラッシュ補正 0.0
フラッシュ選択 内蔵+外部
スローシンクロ 先幕効果
選択 設定 決定 OK

［フラッシュモード］を選択　［フラッシュ補正］を選択　［フラッシュ選択］を選択　［スローシンクロ］を選択

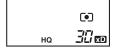
オート発光 / 赤目軽減 / 強制発光 / SLOW / 発光禁止
+ 2.0
内蔵+外部 / 外部 / スレーブ
先幕効果 / 赤目·先幕効果 / 後幕効果
選択 決定 OK

ダイレクトボタン、モードメニューとも、同じ画面で設定を行います。

☞「メニュー」（P.23）

ヒント

- ボタンを押してコントロールダイヤルを回し、直接フラッシュ補正を行うこともできます。

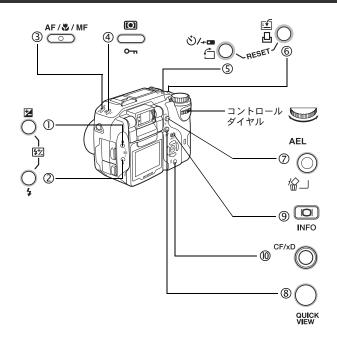
液晶モニタを閉じた状態で機能を設定するには

→ダイレクトボタンを使って設定します（ボタンを除く）。コントロールダイヤルを回すとコントロールパネルに設定内容が表示されます。

ダイレクトボタン

ダイレクトボタンは、1つのボタンが撮影モードと再生モードでそれぞれ異なった機能を持っています。
ダイレクトボタンを押した後、コントロールダイヤルを回して設定項目の選択や設定値の変更など各機能の設定を行います。ダイレクトボタンを繰り返し押して設定する場合もあります。

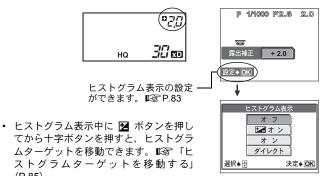
ヒント

- ダイレクトボタンを押すと各設定メニューが表示されます。もう一度押すと撮影画面に戻ります。
- ダイレクトボタンとコントロールダイヤルを使って設定する際の、ダイレクトボタンの動作を切り換えることができます。☞「ダイヤル」(P.138)

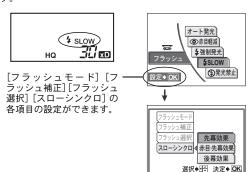
撮影モードのダイレクトボタン操作

①（露出補正）ボタン ☞P.73

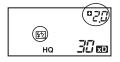
露出補正値を変更します。
ボタンを押すと、次の画面が表示されます。コントロールダイヤルを回して設定します。

ヒストグラム表示の設定ができます。☞P.83

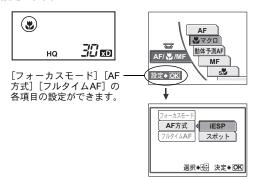
- ヒストグラム表示中に ボタンを押してから十字ボタンを押すと、ヒストグラムターゲットを移動できます。☞「ヒストグラムターゲットを移動する」（P.85）

②（フラッシュモード）ボタン ☞P.47

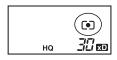
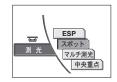
フラッシュモードを［オート発光］、［赤目軽減］、［強制発光］、［SLOW］、［発光禁止］から選択します。
ボタンを押すと、次の画面が表示されます。コントロールダイヤルを回して設定します。

［フラッシュモード］［フラッシュ補正］［フラッシュ選択］［スローシンクロ］の各項目の設定ができます。

①+② （フラッシュ補正）ボタン ☞P.51

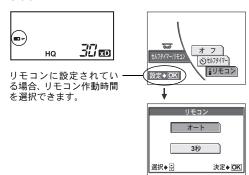
フラッシュの発光量を補正します。
ボタンとボタンを同時に押すと、次の画面が表示されます。コントロールダイヤルを回して設定します。

③ AF/🌷/MF（AF／マクロ／MF）ボタン ☞P.46, 63, 66

フォーカスモードを［AF（オートフォーカス)］、［🌷マクロ］、［動体予測AF］、［MF（マニュアルフォーカス）］、［S🌷（スーパーマクロ）］、［S🌷MF（スーパーマクロMF)］から選択します。
AF/🌷/MFボタンを押すと、次の画面が表示されます。コントロールダイヤルを回して設定します。

［フォーカスモード］［AF方式］［フルタイムAF］の各項目の設定ができます。

④ （測光）ボタン ☞P.69

測光方式を［ESP測光（表示なし)］、［スポット測光（）]、［マルチ測光（MULTI）]、［中央重点測光（）］から選びます。
ボタンを押すと、次の画面が表示されます。コントロールダイヤルを回して設定します。

⑤	(セルフタイマー/リモコン)ボタン	P.91, 94

セルフタイマー撮影( )とリモコン撮影( )を切り換えます。
ボタンを押すと、次の画面が表示されます。コントロールダイヤルを回して設定します。

リモコンに設定されている場合、リモコン作動時間を選択できます。

⑥	(カスタム)ボタン	P.136

カスタムボタン設定で登録した機能の設定をします。

ドライブを登録した場合

⑤+⑥	RESET(カメラリセット)ボタン	P.119

同時に3秒以上押すと、カメラ内の設定がリセットされます。

⑦	**AEL**(AEロック)ボタン	P.71

露出を固定します。押すたびにロックと解除を繰り返します。

⑧	QUICK VIEWボタン
	QUICK VIEWボタンを押すと、最後に撮影した画像が液晶モニタに表示されます。通常の再生モードと同様の各機能を使うことができます。 ☞「6 再生」(P.98) もう一度**QUICK VIEW**ボタンを押すか、シャッターボタンを半押しすると撮影モードにすぐ戻り、撮影準備ができます。
⑨	[INFO]（INFO）ボタン
	撮影モードで電源を入れると、液晶モニタが点灯し撮影情報が表示されます。[INFO]を押すたびに、以下の順番で画面が切り換わります。

詳細な撮影情報が表示されます。*1
☞「液晶モニタの表示」(P.212)

撮影待機画面が表示されます。*1

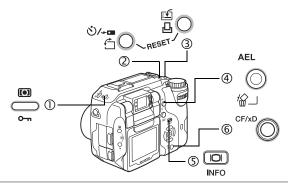
AF ターゲットマークのみが表示されます。

消灯します。*3

*1 ［罫線表示］が［オン］の場合は罫線が表示されます。☞「罫線表示」(P.85)
*2 ［ヒストグラム表示］が［オン］の場合はヒストグラム表示画面が表示されます。☞「ヒストグラム表示」(P.83)
*3 ［スーパーコンパネ］が［オン］の場合はスーパーコンパネが表示されます。☞「スーパーコンパネ」(P.133)

⑩	CF/xD（カード切り換え）ボタン ☞P.40
	2種類のカードを入れているときに、使用するカードを切り換えます。

再生モードのダイレクトボタン操作

①	O┳（プロテクト）ボタン	☞P.115

画像を選択してO┳ボタンを押すとプロテクト（保護）が設定されます。

②	（回転再生）ボタン	☞P.102

静止画を選択してボタンを押すと、撮影した画像を回転して表示します。ボタンを押すたびに、画像が反時計方向に90度、時計方向に90度、元の位置の順に回転します。

③	（プリント予約）ボタン	☞P.151

ボタンを押すと、次の画面が表示されます。
カードにプリント予約します。画面下の操作ガイドにしたがって操作します。

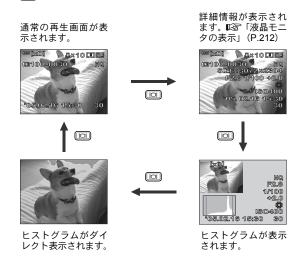
②+③	RESET（カメラリセット）ボタン	☞P.119

同時に3秒以上押すと、カメラ内の設定がリセットされます。

④	🗑（消去）ボタン	☞P.116

画像を選択して🗑ボタンを押すと、次の画面が表示されます。画像を消去します。画面下の操作ガイドにしたがって操作します。

⑤	[IOI]（INFO）ボタン

[IOI]を押すたびに、以下の順番で表示される情報が切り換わります。

⑥	CF/xD（カード切り換え）ボタン	☞P.40

2種類のカードを入れているときに、使用するカードを切り換えます。

メニュー

OK/MENUを押すと液晶モニタにメニューが表示されます。

メニューの種類

使用できるメニュー項目はカメラのモードによって異なります。

トップメニュー

ショートカットメニューとモードメニューで構成されています。

ショートカットメニュー

モードメニューから選択する項目を直接選択できます。オン／オフを切り換えるショートカットメニューもあります。

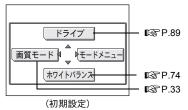
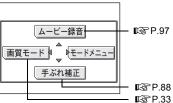
モードメニュー

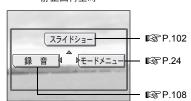
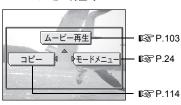
設定項目が機能ごとにタブで分類されています。

ショートカットメニュー

●撮影モード

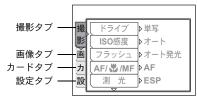
P A S M MY SCENEモード（静止画撮影時）

（初期設定）

ムービーモード（ムービー撮影時）

●再生モード（▶モード）

静止画再生時

ムービー再生時

ヒント

- ショートカットメニューに登録した機能をモードメニューからも設定することができます。また、🎥 ▶モード以外ではショートカットメニューを変更することができます。☞「ショートカット設定」（P.134）

モードメニュー

●撮影モード

撮影タブ	撮影に関する設定をします。
画像タブ	画質やホワイトバランスなど画像に関する設定を行います。
カードタブ	カードをフォーマットします。
設定タブ	カメラの基本的な設定や使いやすくするための設定を行います。

●再生モード（▶モード）

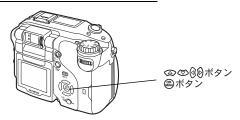
編集タブ	撮影した画像を編集します。
カードタブ	カードのフォーマットや全コマ消去をします。
設定タブ	カメラの基本的な設定や使いやすくするための設定を行います。

ヒント

- 🎥モードでは、撮影モード・再生モードともモードメニューの内容が異なります。詳細については「メニュー一覧」（P.194）を参照してください。
- 撮影モード、再生モードのモードメニューの各項目については「メニュー一覧」（P.194）を参照してください。

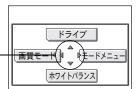
メニューの操作方法

メニューは十字ボタンと㊋を使って設定します。
メニュー画面に使用する十字ボタンや操作ガイドが表示されますので、それにしたがって選択、設定します。ここでは、メニュー画面とその操作について説明します。

例：[**BKT**]（オートブラケット撮影）を設定する場合

1 撮影モードで㊋を押します。

- トップメニューが表示されます。

2 ▷を押して［モードメニュー］を選択します。

十字ボタン（△▽◁▷）を表しています。

3 △▽を押して［撮影］タブを選択し、▷を押します。

- 画面に表示された十字ボタンにしたがって選択、設定します。

十字ボタン（▽▷）を表しています。

4 を押して［ドライブ］を選択し、を押します。

- 画面に表示された十字ボタンにしたがって選択、設定します。
- 設定できない項目は選択できません。

選択した項目は凹んで見えます。

5 を押して［BKT］を選択し、を押します。

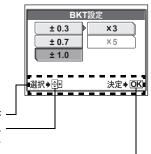
- 画面に表示された十字ボタンにしたがって選択、設定します。

6 を押して［±0.3］［±0.7］［±1.0］から露出差を選択し、を押します。を押して［×3］［×5］から撮影枚数を選択し、を押します。

- 画面下の操作ガイドにしたがって、十字ボタンを押して選択、設定します。

操作ガイド

を押して項目を選択します。
を押して設定項目を移動します。

を押して設定内容を決定します。

ヒント

- 本書では上記の手順1〜5までのメニュー操作を次のように表記しています。
トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［撮影］▶［ドライブ］▶［BKT］

撮影前に知って
おきたいこと

2

モードダイヤルを **P** に合わせてシャッターボタンを押すだけで、ほとんどの場合は上手く撮ることができます。でも、どうしても被写体にピントが合わない、被写体が暗く撮れてしまうなど、思い通りに撮れない・・・・ということはありませんか？
そんなとき、ちょっとした撮影のコツを活用したり、カメラの簡単な機能を使うだけで、問題が解消する場合もあります。
また、撮影後の画像の利用方法に合わせて画像サイズを選択して撮影すると、1 枚のカードにより多くの画像を記録することができます。これも“ちょっとしたコツ”のひとつです。

カメラの正しい構え方

撮影した画像を見ると、被写体の輪郭がはっきりしないときがあります。このようなときはシャッターボタンを押し込んだ瞬間にカメラを持つ手がぶれたり、カメラが動いていることがあります。

被写体の輪郭がはっきりしない画像

このような失敗を防ぐために、カメラは脇を締めて両手でしっかり持ちましょう。カメラを縦位置で持つときは、フラッシュがレンズより上になるように持ちます。レンズとフラッシュに指やストラップがかからないよう、ご注意ください。

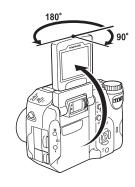
横位置

縦位置

上面図

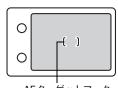
液晶モニタ・ファインダについて

液晶モニタの可動範囲

- 液晶モニタは右図の範囲で動かせます。レンズ側に液晶モニタを向けると、対面撮影ができます。
- 液晶モニタは可動範囲内でゆっくりと動かしてください。

ファインダを見やすくする

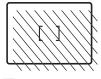
お使いになる方の視力に合わせてファインダを見やすく調整します。

1 **ファインダをのぞきながら、視度調節ダイヤルを少しずつ回します。**

2 **AFターゲットマークがはっきり見えるところに視度調節ダイヤルを合わせます。**

液晶モニタとファインダを使い分ける

液晶モニタを見て撮る方法と、ファインダを見て撮る方法があります。それぞれの特徴に合わせ、使い分けてください。
液晶モニタを点灯または消灯する場合は、[IOI]を何回か押します。
☞「ダイレクトボタン」(P.16)

	液晶モニタ	ファインダ
長所	撮影する範囲を正しく確認できます。	手ぶれしにくく、周囲が明るくても被写体がはっきり見えます。電池の消耗が少なくなります。
短所	手ぶれが起こりやすく、周囲が明るいときや暗いときは見えにくいことがあります。電池の消耗が早くなります。	近くのものを撮影するとき、ファインダで見える範囲と撮影できる画像との間にずれが生じます。
こんな撮影に	実際に写る範囲を確認しながら撮影したいときに。人物や花のアップの撮影、マクロ撮影などをするときに。	スナップや風景写真など、気軽に撮影したいときに。

ファインダ

- ファインダで見た構図より、実際にはやや広い範囲が撮影されます。
- 写すものとの距離が近いと、左図のように実際に撮影される画面の範囲（斜線部）は、ファインダで見ている範囲と多少異なります。

ヒント

液晶モニタが自動的に消灯した

→ 3分以上何も操作をしないと、液晶モニタは消灯します。シャッターボタンやズームレバーを操作すると再び点灯します。

液晶モニタの明るさを調節したい

→［モニタ調整］で設定します。☞「モニタ調整」(P.130)

液晶モニタが見にくい

→ 晴天下のように明るい場所では、液晶モニタの画像に縦スジ（スミア）が入ることがありますが、撮影画像への影響はありません。

ピントの合っている範囲を確認したい

→ シャッターボタンを半押ししているときに[IOI]を押すと、ピントの合っている範囲が拡大表示されます。もう一度[IOI]を押すと、元に戻ります。デジタルズーム領域では拡大できません。☞「デジタルズームを使う」(P.45)

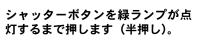
ピントが合わないとき

カメラは撮影する構図の中で、自動的にピントを合わせるべきものを検出します。被写体を検出する際、コントラストの強さも判断の基準になります。被写体のコントラストが周囲に比べて弱いときや、よりコントラストの強い部分が構図の中にあるときは、カメラは判断を誤る場合があります。その場合のもっとも簡単な対処法にフォーカスロックがあります。

ピント合わせの方法（フォーカスロック）

1 **ピントを合わせたいものにAFターゲットマークを合わせます。**

- ピントが合いにくいものや速く走るものの場合、まず撮影したいものとほぼ同じ距離のものにカメラを向けます。

AFターゲットマーク

2 **シャッターボタンを緑ランプが点灯するまで押します（半押し）。**

- ピントと露出が固定されると、緑ランプが点灯します。
- 液晶モニタを使用しているときは、ピントの合った位置にAFターゲットマークが移動します。
- 緑ランプが点滅したときは、ピントと露出が固定されていません。シャッターボタンから指を離し、ピントを合わせる位置を少しずらしてもう一度シャッターボタンを半押ししてください。

シャッターボタン

3 **半押しの状態のまま撮影したい構図にします。**

緑ランプ

4 シャッターボタンを押し込みます（全押し）。

ヒント

ピント合わせをする構図と露出を合わせたい構図が異なる

☞「AEロック撮影」（P.71）

ピントを画面中央で合わせたい

☞「AF方式」（P.63）

オートフォーカスの苦手な被写体

次のような場合、オートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。

緑ランプ点滅
このようなものにはピントが合いません。

コントラストがはっきりしない被写体

画面中央に極端に明るいものがある場合

縦線のないもの

緑ランプは点灯するが、写したいものにピントが合わない。

遠いものと近いものが混在する場合

動きの速いもの

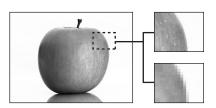
ピントを合わせたいものが中央にない

いずれの場合も、被写体と同距離にあるコントラストのはっきりとしたものでピントを合わせた後、構図を決めて撮影してください。また、縦線のない被写体の場合は、カメラを縦位置に構えてピントを合わせた後、構図を横に戻して撮影しても効果的です。
いずれの方法でもピントが合わない場合は、マニュアルフォーカスを使用してください。☞「マニュアルフォーカス」（P.66）

画質について

撮影する画像の画質を設定します。プリント用、パソコンでの加工用、ホームページ用など、用途に合わせて画質モードをお選びください。各画質モードでの画像サイズやカードへの撮影可能枚数・時間については、P.35の表をご覧ください。

静止画の画質モード

画質モードは、記録する画像のピクセル数と圧縮する度合いの組み合わせを表しています。
画像はピクセル（点）の集まりでできています。ピクセル数が少ない画像を拡大するとモザイク状に表示されます。ピクセル数が多い画像は 1 枚の画像のファイルサイズ（データの量）が大きくなり、カードに記録できる枚数が少なくなりますが、密度が高く精細になります。圧縮率が高いほどファイルサイズは小さくなりますが、画像を表示したときに粗く見えます。

ピクセル数が多い画像

ピクセル数が少ない画像

●通常の画質モード

画像が精細になる ←

画像サイズが大きくなる ↑

<table>
<tr><th>用途</th><th>圧縮
画像サイズ</th><th>非圧縮</th><th>低圧縮</th><th>高圧縮</th></tr>
<tr><td rowspan="7">プリントサイズに合わせて選択</td><td>3072 × 2304</td><td rowspan="8">TIFF</td><td>SHQ</td><td>HQ</td></tr>
<tr><td>2592 × 1944</td><td rowspan="4">SQ1
高画質</td><td rowspan="4">SQ1
標準</td></tr>
<tr><td>2288 × 1712</td></tr>
<tr><td>2048 × 1536</td></tr>
<tr><td>1600 × 1200</td></tr>
<tr><td>1280 × 960</td><td rowspan="3">SQ2
高画質</td><td rowspan="3">SQ2
標準</td></tr>
<tr><td>1024 × 768</td></tr>
<tr><td>小さいプリントやホームページ用</td><td>640 × 480</td></tr>
</table>

画像サイズ
画像をカードに記録する際の大きさ（横の画素数×縦の画素数）です。画像をプリントするときは、大きな画像サイズで記録しておくときれいにプリントされます。

圧縮
TIFFモード以外の画質モードでは、画像を圧縮して保存します。圧縮率が高いほど画質は粗くなります。

●特殊な画質モード

画質モード	特徴	画像サイズ
RAW	画像処理を行わない撮影したままの生データです。	3072 × 2304
3：2 （SHQ、HQ）	写真店でプリントするときに適しています。	3072 × 2048

RAWデータ
ホワイトバランス、シャープネス、コントラスト、色変換などの処理を行っていない未加工のデータです。パソコンで画像として表示するにはOLYMPUS Masterを使います。Photoshopで再生するためのプラグインソフトもあります（当社ホームページからダウンロードできます）。一般のソフトウェアで表示したり、プリント予約することはできません。
このカメラで、画質モードをRAWデータに設定して撮影した画像を編集することができます。☞「RAW編集」（P.104）

3：2
通常、画像の横と縦の比は4：3の比率になっていますが、3：2に設定することで、写真店でプリントする際に画像の端が切れないでプリントできます。

3:2に設定したときの
モニタ表示

ムービーの画質モード

●SHQ、HQ、SQ1、SQ2
Motion-JPEG形式でムービーを記録します。

カードの記録可能枚数・撮影可能時間

撮影可能枚数・時間は、カードをカメラに入れたときにコントロールパネルや液晶モニタに表示されます。

静止画の場合

画質モード	画像サイズ		圧縮	ファイル形式	カードの記録可能枚数（枚）32MBカードの場合	
					音声あり	音声なし
RAW	3072 × 2304		非圧縮	ORF	3	3
TIFF	3072 × 2304		非圧縮	TIFF	1	1
	2592 × 1944				2	2
	2288 × 1712				2	2
	2048 × 1536				3	3
	1600 × 1200				5	5
	1280 × 960				8	8
	1024 × 768				13	13
	640 × 480				33	33
SHQ	3072 × 2304		低圧縮	JPEG	6	6
	3:2 3072 × 2048				6	6
HQ	3072 × 2304		高圧縮		17	18
	3:2 3072 × 2048				20	20
SQ1	2592 × 1944	高画質	*		8	8
		標準			24	25
	2288 × 1712	高画質			10	11
		標準			31	32
	2048 × 1536	高画質			13	13
		標準			39	40
	1600 × 1200	高画質			22	22
		標準			60	64
SQ2	1280 × 960	高画質			33	34
		標準			90	99
	1024 × 768	高画質			51	53
		標準			132	153
	640 × 480	高画質			117	132
		標準			248	331

*高画質→低圧縮／標準→高圧縮

ムービーの場合

画質モード	画像サイズ	ファイル形式	撮影可能時間（秒）	
			32MBカードの場合	
			音声あり	音声なし
SHQ	640 × 480（30コマ／秒）	Motion-JPEG	17秒	17秒
HQ	640 × 480（15コマ／秒）		34秒	35秒
SQ1	320 × 240（30コマ／秒）		47秒	48秒
SQ2	320 × 240（15コマ／秒）		93秒	96秒

? ヒント

- 撮影した画像をパソコン上で見る場合に表示される画像の大きさは、パソコンのモニタ設定によって異なります。たとえば、1024 × 768 ピクセルの画像サイズで撮影された画像は、パソコンのモニタ設定が1024 × 768のとき画像を等倍（100％）で表示すると、モニタ全体に表示されます。モニタ設定がそれ以上（1280 × 1024など）になると、モニタの一部にしか表示されません。

撮影可能枚数

撮影可能時間

! ご注意

- カードの撮影可能枚数・時間はおおよその目安です。
- 撮影可能枚数は撮影対象やプリント予約の有無などによっても変わります。撮影や画像の消去を行っても枚数が変わらないことがあります。

画質モードを変更する

モードダイヤル P A S M My SCENE

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［画像］▶［画質モード］

☞「メニュー」（P.23）

- ショートカットメニューから［画質モード］を選択することができます。

1 画質モードを［RAW］［TIFF］［SHQ］［HQ］［SQ1］［SQ2］から選択します。

- ［RAW］を選択した場合は、「●JPEG同時記録」（P.38）を参照してください。

静止画の場合

ムービーの場合は、画質モードを［SHQ］［HQ］［SQ1］［SQ2］から選択します。☞手順3

ムービーの場合

2 選択した画質モードの画像サイズを選択します。

［SQ1］［SQ2］を選択した場合は画像サイズを選択後▷を押し、さらに［高画質］または［標準］を選択します。

SHQ設定
3072×2304
3:2 3072×2048
選択　決定 OK

3 OK/MENUを押します。

●JPEG同時記録

画質モードを［RAW］にして撮影したときに、RAWデータと同時にJPEG形式の画像も保存することができます。JPEG形式の画質モードは［SHQ］［HQ］［SQ1］［SQ2］から選択できますが、画像サイズの選択はできません。各画質モードで現在設定されている画像サイズで記録されます。

1　画質モード選択画面で［RAW］を選択し、Ⓓを押します。

2　JPEG 記録形式を［オフ］［SHQ］［HQ］［SQ1］［SQ2］から選択します。

- ［オフ］を選択すると、RAWデータのみ保存されます。

3　Ⓞを押します。

別売のカードを使う

このカメラにはカードスロットが2つあります。xDピクチャーカードと同時にコンパクトフラッシュまたはマイクロドライブを使用することができます。

xDピクチャーカード

16～512MBのxDピクチャーカードが使用できます。

コンパクトフラッシュ（CF）（別売）

大容量かつ堅牢性の高いフラッシュメモリーカードです。市販のカードが使用できます。

マイクロドライブ（別売）

CF+TypeII（コンパクトフラッシュの拡張規格）準拠のマイクロドライブが使えます。大容量で小型軽量のハードディスク・ドライブです。340MBのマイクロドライブは使用できません。「マイクロドライブについてのご注意」（P.185）を必ずご覧ください。

別売のカードを入れる／取り出す

1 **パワースイッチがOFFの位置に合っていることを確認し、カードカバーを開けます。**

2 **コンパクトフラッシュまたはマイクロドライブを入れます。**

- 手前の挿入口に、図の向きにまっすぐ奥まで差し込みます。

3 **カードカバーをカチッという音がするまで閉じます。**

コンパクトフラッシュ／マイクロドライブを取り出す

- イジェクトボタンを押すと、イジェクトボタンが出てきます。再度奥までゆっくり押し込みます。カードが出てきますので、指でつまんで取り出します。

ご注意

- カードはペンなどの先のとがったものや硬いもので押さないでください。
- カメラの電源が入っているときは絶対にカードカバーを開けたり、カードや電池を取り出したりしないでください。カード内のデータが破壊されるおそれがあります。破壊されたデータの復旧はできません。

使用するカードを切り換える

xD ピクチャーカードと同時にコンパクトフラッシュまたはマイクロドライブを使用することができます。
使用しているカードはコントロールパネルまたは液晶モニタに表示されます。2種類のカードを入れているときは、操作するカードのタイプを選んでください。

1 CF/xD（カード切り換え）ボタンを繰り返し押して、使用したいカードを選択します。

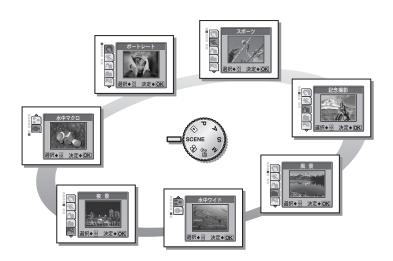
- コントロールパネルの表示が交互に切り換わります。

xD ：xDピクチャーカード

CF ：コンパクトフラッシュ、または マイクロドライブ

基本的な撮影機能

3

カメラマンは被写体に合わせて、露出の調整やピントの合わせ方、フィルムの選択などを常に考慮した上でより最適な設定で撮影しています。
デジタルカメラで撮るあなたは難しい設定を覚える必要はありません。デジタルカメラには被写体にあわせた設定がすでに用意されています。風景、夜景、ポートレートなど、あなたが撮りたい！　と思うものに合わせた撮影シーンを選ぶだけで、最適な露出や色合いをカメラが設定してくれます。
さあ、あなたはシャッターボタンを押すだけです。

撮影シーンに合わせた撮影

撮影シーンや撮影状況に合わせて選択すると、カメラが自動的に撮影に適した条件を設定します。

● SCENEモードの種類

ポートレート

人物撮影をするのに最適です。背景をぼかし人物だけにピントが合うようにすることで、人物を背景から浮き出させる効果があります。

スポーツ

スポーツなどの動きのある被写体を撮るのに最適です。すばやい動きのものでも、止まっているように撮影することができます。

記念撮影

人物と風景をいっしょに撮るのに最適です。近くの被写体と背景の両方にピントを合わせるように撮ります。空・緑・人物をきれいに撮影します。

風景

風景を撮るのに最適です。近景から遠景までピントが合うように写します。また、青や緑の色をよりきれいに再現するので、自然のなかでの撮影には効果的です。

夜景

夜の景色を撮るのに最適です。通常の撮影よりも遅いシャッター速度で撮影します。**P**モードで街灯が輝く街の夜景を撮影すると、明るさが不足するので光っている点だけの画像になってしまいます。夜景撮影では、街の様子も写し出します。夜景撮影時は、シャッター速度が遅くなりますので、カメラを三脚などで固定して撮影してください。

水中ワイド

魚群など広範囲の水中の景色を撮るのに最適です。水中で背景の青がより鮮やかに見えるように撮影します。別売の防水プロテクタを使って水中撮影するときに選択します。☞「アクセサリー（別売）」（P.97）

水中マクロ

水中で近接撮影をするときに設定します。魚など水中の生物に近接して撮るのに最適です。水中の自然な色を再現して撮影します。また、フラッシュを使用すると赤色を強調した撮影が可能です。別売の防水プロテクタを使って水中撮影するときに選択します。☞「アクセサリー（別売）」（P.97）

モードダイヤル SCENE

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［撮影］▶［SCENE］▶
［ ］／［ ］／［ ］／［ ］／［ ］／［ ］／［ ］

☞「メニュー」（P.23）

- 各シーンを選択すると、画面の右側に撮影シーン例が表示されます。

? ヒント

- モードダイヤルをSCENEに合わせると、自動的にSCENE選択画面が表示されるよう設定することができます。☞「マイモード／SCENE 選択画面」（P.139）

遠くのものを拡大して撮る

光学ズームとデジタルズームを使用して望遠の撮影ができます。光学ズームは、レンズの倍率を変えることによってCCDに拡大された像が写り、CCDの画素がすべて画像になります。デジタルズームは、CCDに写っている像の中心部分を切り出し、設定した画像サイズまで拡大します。小さいサイズを切り出して拡大するので、デジタルズームでの拡大率が大きくなるほど画像は粗くなります。
このカメラで可能なズームの倍率は以下のとおりです。

光学ズーム	4倍（35mmフィルムカメラ換算：27mm～110mm）
デジタルズーム	5倍
光学+デジタルズーム	最大約20倍

高倍率になるほど手ぶれが起こりやすくなりますのでご注意ください。

光学ズームで拡大する

モードダイヤル P A S M My SCENE

1　ズームレバーを回します。

ズームレバー

広角：
ズームレバーをW側に回す

望遠：
ズームレバーをT側に回す

ご注意

- ムービー録音をオフに設定すると、🎥モードでの撮影中でも光学ズームを使用することができます。☞「ムービー録音」(P.97)
- 🎥モードでは、デジタルズームの倍率は最大3倍になります。

デジタルズームを使う

モードダイヤル P A S M My 🎥 SCENE

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［撮影］▶［デジタルズーム］▶［オン］／［オフ］ ☞「メニュー」(P.23)

1 ズームレバーをT側に回します。

- ズームバーの白い部分が光学ズームの領域です。デジタルズームが設定されると、ズームバーに赤い領域が表示されます。光学ズームで最大までズームアップすると、デジタルズームになります。
- 液晶モニタを消灯すると、デジタルズームがオフになります。

ズームの拡大率によってカーソルが上下に移動します。デジタルズームの領域に入るとカーソルがオレンジになります。

接近して撮る（マクロ／スーパーマクロ／スーパーマクロMF） S SMF

通常の撮影では、近接した被写体（20～80cm）にピントを合わせるのに時間がかかりますが、マクロモードにすると、近接撮影のピント合わせが早くなります。

マクロ 名刺サイズをほぼフレームいっぱいに撮影できます（光学ズームをもっとも広角にして、20cmまで近づいて撮影した場合）。

スーパーマクロ 被写体に約3cmまで接近して撮影できます。約2.1 × 2.8cmの被写体をフレームいっぱい撮影できます。スーパーマクロは通常の撮影距離にも対応しますが、ズーム位置は自動的に固定されて変更はできません。

スーパーマクロMF 被写体に近づいて撮影する場合、被写体が影になりやすく、オートフォーカスではピントが合いにくくなることがあります。この場合は、スーパーマクロMFに設定してマニュアルフォーカスで撮影します。

マクロ

スーパーマクロ

モードダイヤル P A S M My SCENE

1 AF/ /MFボタンを押してコントロールダイヤルを回します。［ ］［S ］［S MF］から選択してAF/ /MFボタンを押します。

「ダイレクトボタン」（P.16）

- ［S MF］に設定すると、液晶モニタに被写体とマニュアルフォーカスの距離表示が表示されます。 を押してピントを合わせ、 を押すとピント位置が固定され、画面に赤く［MF S ］と表示されます。

ご注意

- 被写体との距離が近いと、ファインダ内の画像と実際に写る範囲にずれが生じます。撮影には液晶モニタをお使いください。
- フラッシュ使用時は影が目立ったり適正な明るさにならないことがあります。
- スーパーマクロ撮影では、内蔵フラッシュは使えません。外部フラッシュは使用できますが、フラッシュの光がけられる場合があります。撮影した画像は液晶モニタで確認してください。

フラッシュ撮影

撮影状況や目的に合わせてフラッシュの設定を選びます。フラッシュの発光量を補正することもできます。

フラッシュの到達距離
広角時：約0.8m～3.7m
望遠時：約0.8m～2.2m

オート発光（表示なし）

暗いときや逆光のとき、フラッシュが自動的に発光します。

赤目軽減（◉）

暗い場所でフラッシュを使って人物を撮影するとき、目が赤く写る現象を軽減します。本発光の前に数回の予備発光を行い、目が赤く写ってしまう現象を起こりにくくします。

目が赤く写ります

ご注意

- 最初の予備発光からシャッターが切れるまで約1秒かかります。カメラをしっかり構えて手ぶれを防いでください。
- フラッシュを正面から見ていない場合や、予備発光を見ていない場合、距離が遠い場合などや個人差により、赤目軽減の効果が現れにくくなります。

強制発光（⚡）

フラッシュを必ず発光させます。木かげなどで顔にかかった陰をやわらげるときや、逆光、蛍光灯などの人工照明下での撮影のときに使用します。

ご注意

- 非常に明るい状況下では、効果が現れにくくなることがあります。

発光禁止（⚡）

暗いところでも発光させたくないときに使用します。フラッシュを使用できない場所での撮影に使用します。フラッシュが届かない遠景・夕景を撮りたいときにも使用します。

ご注意

- 暗いところの撮影ではシャッター速度が長くなりますので、カメラぶれを防ぐため三脚のご使用をおすすめします。

スローシンクロ（⚡SLOW1 ⚡SLOW2 👁⚡SLOW）

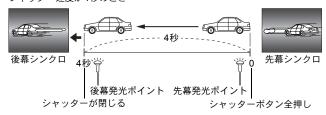
遅いシャッター速度でフラッシュを発光させます。通常のフラッシュ撮影では手ぶれを防ぐため、シャッター速度が遅くならないように設定されていますが、このとき夜景などをバックに撮影すると、フラッシュの光が背景まで届かないため、暗くつぶれてしまいます。遅いシャッター速度で撮影すると背景を写し込むことができ、被写体と背景の両方を撮影することができます。シャッター速度が遅いので、背景がぶれないように三脚などでカメラを固定してください。スローシンクロの初期設定は［先幕効果］です。設定を変更することができます。

☞「スローシンクロ」（P.51）

先幕効果（先幕シンクロ） ⚡SLOW1

フラッシュはシャッター速度にかかわらず、シャッターが開いた瞬間（直後）に光るようになっています。これを先幕シンクロといい、一般的にフラッシュ撮影はこの方法で行なわれます。

後幕効果（後幕シンクロ） SLOW2

シャッターが閉じる直前にフラッシュが光るようになっています。フラッシュを発光させるタイミングを変えることで、夜間走行中の車のテールライトが後方に流れる様子を表現するなど、作画に変化をつけることができます。シャッター速度が遅いほうがより効果的です。
最長のシャッター速度は、撮影モードにより異なります。
Mモード ： 15秒
P、**A**、**S**、モード ： 4秒

赤目・先幕効果 SLOW

スローシンクロを使ってフラッシュ撮影をしながら、赤目軽減効果も得たいときに使用します。夜景などをバックにして人物を写すときに、赤目現象を起こりにくくします。後幕シンクロでは予備発光から撮影までにかかる時間が長くなり、赤目軽減効果が得られにくいため、先幕シンクロのみの設定となります。

1 ボタンを押してコントロールダイヤルを回します。フラッシュモードを選択してボタンを押します。

☞「ダイレクトボタン」（P.16）

2 シャッターボタンを半押しします。

- フラッシュが発光する条件のときは、⚡マークが点灯します（フラッシュ発光予告）。

3 シャッターボタンを全押しして、撮影します。

ヒント

オレンジランプまたは⚡（フラッシュ充電）マークが点滅した

→ フラッシュ充電中です。ファインダ横のオレンジランプと⚡マークが消灯するまでお待ちください。

フラッシュ発光時（オート発光・赤目軽減・強制発光）のシャッター速度について

- オレンジランプまたは⚡（手ぶれ警告）マークが点灯するとフラッシュは自動発光しますが、シャッター速度は手ぶれが起きにくい秒時に固定され、それより遅くはなりません。また、固定される秒時はズームの位置によって変わります。

ズーム位置	シャッター速度
広角側	1/30秒
望遠側	1/100秒

モードによる機能制限について

- **S**、**M** モードでは、オート発光、赤目軽減発光、強制発光、赤目・先幕効果は設定できません。

ご注意

- 以下の場合、フラッシュは使用できません。
  連写（高速連写・連写・AF連写・オートブラケット撮影）／スーパーマクロ撮影／パノラマ撮影
- マクロ撮影でズームが W（広角）側にあるときは、特に画面内で光の量がムラになることがあります。必ず再生して画像を確認してください。
- コンバージョンレンズを取り付けた場合、内蔵フラッシュの光はけられます。外部フラッシュを使用してください。

フラッシュ補正

フラッシュの発光量を増減します。
被写体が小さい、被写体の背景が遠いなど、場合によってはフラッシュの発光量を調節した方がよいときがあります。また、コントラスト（明暗差）を意図的につけたいときにもこの機能が便利です。

モードダイヤル P A S M My SCENE

1 ボタンと ボタンを同時に押してコントロールダイヤルを回し、調節します。

☞「ダイレクトボタン」（P.16）

2 ボタンと ボタンを同時に押します。

ヒント

- 補正値は［1/3EV］または［1/2EV］刻みで設定できます。☞「露出ステップ」（P.122）

ご注意

- シャッター速度が1/300より速い場合は、フラッシュ補正の効果が十分に得られないことがあります。
- ［ダイヤル］を［カスタム1］に設定しているときは、ボタンを押してからを押し、表示されたメニューから［フラッシュ補正］を選択します。

スローシンクロ

ボタンを押して［スローシンクロ］を選択したときの設定を選びます。

モードダイヤル P A S M My SCENE

1 ボタンを押してコントロールダイヤルを回します。［スローシンクロ］を選択してを押します。

☞「ダイレクトボタン」（P.16）

3 基本的な撮影機能

2 **［スローシンクロ］から［先幕効果］［赤目・先幕効果］［後幕効果］を選択し、OKを押します。**

フラッシュ選択

専用外部フラッシュを使って撮る

専用外部フラッシュオリンパスFLシリーズで、多彩なフラッシュ撮影を行うことができます。専用外部フラッシュのみでの撮影だけでなく、内蔵フラッシュと併用しての撮影も可能です。
専用外部フラッシュを使うと、カメラのフラッシュモードと露出設定を自動的に検出するなど、内蔵フラッシュと同様に扱うことができます。専用外部フラッシュは、カメラ上部のホットシューに取り付けて使うか、専用フラッシュブラケットFL-BK01（別売）と専用ブラケットケーブルFL-CB02（別売）を組み合わせて使います。

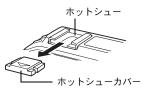
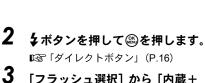
ここでは専用外部フラッシュFL-20をホットシューに取り付けて撮影する方法を説明します。

モードダイヤル P A S M My SCENE

1 ホットシューカバーを矢印の向きにスライドさせて外します。専用外部フラッシュを取り付けます。

- 専用外部フラッシュの取り付け方は、専用外部フラッシュの取扱説明書をご覧ください。
- ホットシューカバーはなくさないように保管し、専用外部フラッシュを取り外したあとは、もう一度取り付けてください。

2 ⚡ボタンを押して(OK/MENU)を押します。

☞「ダイレクトボタン」（P.16）

3 [フラッシュ選択] から [内蔵＋外部] [外部] を選択し、(OK/MENU)を押します。

内蔵＋外部 ：内蔵フラッシュと併用して、専用外部フラッシュを使う場合

外部 ：専用外部フラッシュのみを使う場合

4 専用外部フラッシュの電源を入れます。

- 「TTL-AUTO」にモードダイヤルを設定します。
- フラッシュの電源は、必ずフラッシュをカメラに取り付けてから入れてください。

5 ⚡ボタンを押してコントロールダイヤルを回します。フラッシュモードを選択して⚡ボタンを押します。

☞「フラッシュ撮影」（P.47）

ご注意

- 近距離撮影時は露出オーバー（明るすぎ）になることがありますので、その際は内蔵フラッシュのみで撮影してください。
- 内蔵フラッシュと専用外部フラッシュを両方発光させる場合は、内蔵フラッシュは補助光源として発光します。専用外部フラッシュの光量が不足する場合は露出が不足することがあります。
- 広角側での撮影では、フラッシュの照射角度が27mmレンズ（35mmフィルムカメラ換算）の画角をカバーしていることをご確認ください。
- ワイドパネルをご使用の場合、フラッシュの到達距離が短くなります。

市販の外部フラッシュを使って撮る

市販の外部フラッシュは、ホットシューに接続できるものであれば、使うことができます。使用できる市販の外部フラッシュについてはP.186をご覧ください。オリンパスFLシリーズ以外の市販の外部フラッシュは、カメラから発光量の調整をすることはできません。

モードダイヤル M

1 外部フラッシュをホットシューに取り付けてカメラと接続します。

- 外部フラッシュの取り付け方は、外部フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

2 シャッター速度と絞り値を設定します。

☞「マニュアル撮影」（P.60）

- シャッター速度を遅く設定した場合、画像がぶれて撮影されますのでご注意ください。また、フラッシュの効果を出すために、シャッター速度は1/200～1/300の間に設定されることをおすすめします。

3 外部フラッシュの電源を入れます。

- フラッシュの電源は、必ずフラッシュをカメラに取り付けてから入れてください。

4 外部フラッシュ側で、発光量を自動（オート）に設定し、外部フラッシュのISOと絞り値をカメラのISOと絞り値に合わせます。

- 外部フラッシュ側のモードの選択方法は、各フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- カメラのフラッシュモードは、市販の外部フラッシュには適用されません。カメラのフラッシュモードが［発光禁止］でも発光します。
- お使いになる外部フラッシュがカメラに同調するか、あらかじめご確認の上、ご使用ください。

スレーブモードを使って撮る

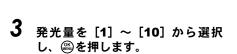
フラッシュ光に同期して発光する市販のスレーブフラッシュを使う場合などに設定します。
フラッシュの発光量を10段階に設定できます。連写を設定してもフラッシュを発光させることができます。ただし、発光量を大きくすると、連写の間隔が長くなります。

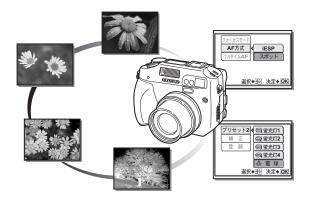
オート発光、赤目軽減 ： 強制発光に設定が自動的に変更されます。
赤目・先幕効果 ： 先幕効果に設定が自動的に変更されます。

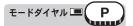
1 **ボタンを押してを押します。**

☞「ダイレクトボタン」（P.16）

2 **［フラッシュ選択］から［スレーブ］を選択し、を押します。**

3 **発光量を［1］～［10］から選択し、を押します。**

4 より高度な撮影機能

カメラにお任せの撮影モードは手軽で簡単、でもそれだけではもったいない。基本の撮影をマスターしたら、カメラの楽しみはこれからです。撮影条件を自由に調整し、もっと多彩な表現に挑戦してみましょう。
たとえば花を撮影するとき、絞り値を小さくして手前の桜にピントを合わせれば、背景がぼけて花が引き立ちます。
夜桜の撮影なら、夜空の色合いにも変化をつけてみましょう。ホワイトバランスを［電球］に設定すると、暗い空が青みを帯びた色合いに仕上がります。
使い方ひとつで思いがけない効果を得られます。いろいろ試して、カメラの可能性を引き出してみてください。

プログラムシフト

P（プログラム撮影）モードのプログラムシフトを使って、適正露出のまま、絞り値とシャッター速度の組み合わせを変更することができます。

1 **△▽を押して、シャッター速度と絞り値を変更します。**

- コントロールパネルにSが表示されます。
- △を押してプログラムシフト中に▽を1回押すとリセットされます。または、▽を押してプログラムシフト中に△を1回押すとリセットされます。
- 撮影モードを変更しても、プログラムシフトは解除されます。
- 被写体の明るさやフラッシュの設定により、シフトしない領域があります。

絞り優先撮影 A

絞り値を自分で設定できます。シャッター速度はカメラが自動的に設定します。絞り値（F値）を小さくすると、ピントの合う範囲が狭くなって、背景のぼけが強くなります。絞り値を大きくすると、ピントの合う範囲が前後に広くなって、背景にもピントが合いやすくなります。背景の描写に変化をつけたいときに、このモードをお使いください。

絞り値（F値）を小さくする

絞り値（F値）を大きくする

1 コントロールダイヤルを回して、絞り値を設定します。

右に回す：絞りが絞られ（絞り値が大きくなり）ます。

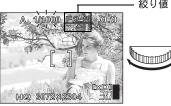
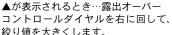
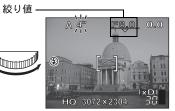
左に回す：絞りが開き（絞り値が小さくなり）ます。

設定範囲：
W側：F2.8～F11、T側：F4.8～F11

- 絞り値の設定幅は変更できます。☞「露出ステップ」（P.122）
- シャッターボタンを半押しすると、コントロールパネルにシャッター速度が表示されます。

コントロールパネル		液晶モニタ	意味
2000 F2.8 HQ 30 xD	点灯	緑の絞り値表示	適正露出
	点滅	赤の絞り値表示	適正露出が得られません。液晶モニタを点灯させているときは、以下のように対応してください。

絞り値

▲が表示されるとき…露出オーバー
コントロールダイヤルを右に回して、絞り値を大きくします。

▼が表示されるとき…露出アンダー
コントロールダイヤルを左に回して、絞り値を小さくします。

ご注意

- フラッシュがオート発光、または強制発光に設定されているとき、シャッター速度は、ズームの設定がもっとも広角側（W端）で1/30秒、もっとも望遠側（T端）で1/100秒よりも低速にはなりません。
- ［ダイヤル］を［カスタム 1］に設定しているときは、絞り値と露出補正を十字ボタンで設定します。☞「ダイヤル」（P.138）

シャッター優先撮影 S

シャッター速度を自分で設定できます。絞り値はカメラが自動的に設定します。目的に応じて、シャッター速度を設定してください。

シャッター速度を速くすると、すばやい動きをとらえて止まっているように撮影します。

シャッター速度を遅くすると、動いているものはぶれて撮影されます。このぶれが躍動感や動きのある仕上がりになります。

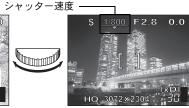
1 コントロールダイヤルを回して、シャッター速度を設定します。

右に回す：シャッター速度が速くなります。

左に回す：シャッター速度が遅くなります。

設定範囲：4"～1/2000

- シャッター速度の設定幅は変更できます。☞「露出ステップ」(P.122)
- シャッターボタンを半押しすると、コントロールパネルに絞り値が表示されます。

コントロールパネル		液晶モニタ	意味
1600 F2.8 HQ 30 xD	点灯	緑のシャッター速度表示	適正露出
	点滅	赤のシャッター速度表示	適正露出が得られません。液晶モニタを点灯させているときは、以下のように対応してください。

▲が表示されるとき…露出オーバー
コントロールダイヤルを右に回して、シャッター速度を速くします。

▼が表示されるとき…露出アンダー
コントロールダイヤルを左に回して、シャッター速度を遅くします。

ご注意

- シャッター速度を遅く設定して撮影するときは、カメラぶれを防ぐために三脚のご使用をおすすめします。
- シャッター速度の設定範囲はフラッシュの設定や絞り値により変わります。
- ［ダイヤル］を［カスタム 1］に設定しているときは、シャッター速度と露出補正を十字ボタンで設定します。☞「ダイヤル」（P.138）

マニュアル撮影 M

絞り値とシャッター速度を自分で設定し、独自の撮影意図を反映することができます。適正露出かどうかは、露出レベル表示で確認できます。

モードダイヤル M

1 コントロールダイヤルを回して、シャッター速度を設定します。

右に回す：シャッター速度が速くなります。

左に回す：シャッター速度が遅くなります。

ボタンを押してコントロールダイヤルを回し、絞り値を設定します。

右に回す：絞りが絞られ（絞り値が大きくなり）ます。

左に回す：絞りが開き（絞り値が小さくなり）ます。

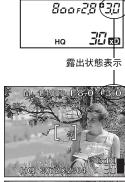
設定範囲：

絞り値　　　　：F2.8～F11

シャッター速度：15"～1/4000

ボタンを押して絞り値を確定します。

- 絞り値とシャッター速度の設定幅は変更できます。☞「露出ステップ」（P.122）
- シャッターボタンを半押しすると、設定されている絞り値とシャッター速度から算出される露出と、カメラが算出する適正露出との露出差が–3.0～+3.0EVの範囲で、表示されます。
- コントロールパネルの露出状態表示が点滅、または液晶モニタの露出状態表示が赤く表示されたときは、露出差が–3.0EVよりも小さい、または+3.0EVよりも大きいことを示しています。

- **AEL** ボタンを押すと右図のような露出差を示すバーが表示されます。

ヒント

長時間露出（バルブ）撮影するには

1 コントロールダイヤルを左に回して、シャッター速度を BULB に設定します。
2 シャッターボタンを押している間、シャッターが開き続けます。
   - バルブ撮影は最長120秒まで可能です。
   - パワーバッテリーホルダーを使うと、リモートケーブル（別売）を使用できます。

ご注意

- シャッター速度を遅く設定して撮影するときは、カメラぶれを防ぐために三脚のご使用をおすすめします。
- シャッター速度の設定範囲は絞り値によって変わります。
- ［ダイヤル］を［カスタム 1］に設定しているときは、シャッター速度と絞り値を十字ボタンで設定します。☞「ダイヤル」（P.138）

リアル表示

Mモードで液晶モニタを見て撮影するとき、液晶モニタに表示される被写体の明るさを選択します。

オフ　被写体を確認しやすいように、カメラが明るさを自動的に調整して液晶モニタに表示します。

オン　設定した露出に応じた明るさで被写体が液晶モニタに表示されます。撮影結果に近い画像をあらかじめ液晶モニタで確認しながら撮影することができます。

トップメニュー ▶ [モードメニュー] ▶ [撮影] ▶ [リアル表示] ▶ [オフ] ／ [オン]
☞「メニュー」（P.23）

マイモード撮影

［1マイモード1］～［4マイモード4］の設定で撮影します。［1マイモード1］のみ、あらかじめ設定値が登録されています。［2マイモード2］～［4マイモード4］は設定値を登録しないと選択できません。
☞「マイモード設定」（P.124）

モードダイヤル

トップメニュー ▶ [モードメニュー] ▶ [撮影] ▶ [1/2/3/4] ▶ [1マイモード1] ／ [2マイモード2] ／ [3マイモード3] ／ [4マイモード4]
☞「メニュー」（P.23）

ヒント

- モードダイヤルをに合わせると、自動的にマイモード選択画面が表示されるよう設定することができます。☞「マイモード／SCENE 選択画面」（P.139）

ピント合わせの応用

AF方式

被写体の焦点を合わせる方式を選択します。

iESP 画面の範囲内からピントを合わせる被写体を判断します。被写体が中央にない場合もピントを合わせます。

スポット AFターゲットマーク内の被写体にピントを合わせます。

iESPに適した被写体

スポットに適した被写体

モードダイヤル P A S M My SCENE

1 AF//MFボタンを押してボタンを押します。

「ダイレクトボタン」（P.16）

- ［AF］［マクロ］［S］以外に設定しているときは、を押してもメニューは表示されません。

2 ［AF方式］から［iESP］または［スポット］を選択し、を押します。

フルタイムAF

オン シャッターボタンを半押ししなくても、常にレンズの前のものにピントを合わせます。ピント合わせの時間が短縮され、シャッターチャンスを逃すことなく撮影できます。ムービー撮影中も自動的に被写体にピントを合わせつづけます。

オフ シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。

モードダイヤル P A S M My ムービー SCENE

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［撮影］▶［AF/🌷/MF］▶［フルタイムAF］▶［オン］／［オフ］ ☞「メニュー」（P.23）

ご注意

- フルタイムAFを設定しているときは、電池の消耗が早くなります。
- ムービーモードで［ムービー録音］をオンに設定するとフルタイムAFは働きません。

動体予測AF

前後に移動する被写体の移動距離を予測し、ピントを合わせて撮影します。

モードダイヤル P A S M My SCENE

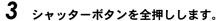
1 AF/🌷/MFボタンを押してコントロールダイヤルを回します。［動体予測AF］を選択してAF/🌷/MFボタンを押します。

☞「ダイレクトボタン」（P.16）

2 AFターゲットマークを被写体に合わせてシャッターボタンを半押しします。

- シャッターボタンを半押ししている間、動体予測AFマークが点滅して動体予測AFが機能しています。

3 シャッターボタンを全押しします。

ご注意

- SCENEモードでに設定している場合は、［動体予測AF］は選択できません。
- 次のような被写体の場合、［動体予測AF］を設定しても機能しない場合があります。

　被写体が暗い／コントラストが低い

AFターゲット移動

AFターゲットマークの位置を移動させて、ピント合わせをするエリアを選択します。

モードダイヤル P A S M My SCENE

1 **［AF方式］を［スポット］に設定します。**

☞「ダイレクトボタン」（P.16）、「AF方式」（P.63）

2 **AF/🌷/MFボタンを押してから十字ボタンを押し、AFターゲットマークをピントを合わせたいエリアに移動させます。**

- ［AF］［🌷マクロ］［S🌷］以外に設定しているときは、十字ボタンを押してもAFターゲットマークの移動はできません。

AFターゲットマーク

3 **撮影します。**

- 電源を切ったりモードダイヤルを操作すると、AFターゲットマークの位置を元（中央）に戻すには、手順2の画面で㊇を押します。

ご注意

- ［デジタルズーム］が［オン］のときは、AFターゲット移動はできません。
- 電源を切ったりモードダイヤルを操作すると、AFターゲットマークは中央に戻ります。

4 より高度な撮影機能

AFイルミネータ

被写体が暗い場合でも、オートフォーカスでのピント合わせを可能にします。

オン（初期設定）　シャッターボタンを半押しすると自動的にAFイルミネータが点灯し、被写体を照らします。
オフ　AFイルミネータは点灯しません。

モードダイヤル P A S M My SCENE ▶

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［設定］▶［AFイルミネータ］▶［オン］／［オフ］
☞「メニュー」（P.23）

ご注意

- 80cm以下の近接撮影では、AFイルミネータを点灯させてもピントが合わない場合があります。

マニュアルフォーカス　MF

オートフォーカスでピント合わせがうまくいかないときは、手動でのピント合わせが可能です。

モードダイヤル P A S M My SCENE

1　AF/🌷/MFボタンを押してコントロールダイヤルを回します。[MF]を選択してAF/🌷/MFボタンを押します。

☞「ダイレクトボタン」（P.16）

- 液晶モニタに距離表示が表示されます。

2 ⏶⏷ を押して、ピント位置を設定します。

- 操作中は中央部が拡大表示されます。ピントが正しく合っているかどうか、確認してください。
- 液晶モニタの左側の距離表示は、目安です。
- 0.8m以下にカーソルを移動させると、自動的に目盛りが20cm～80cmになります。

3 撮影します。

ピントは設定した距離で固定されます。

ヒント

ピント位置を固定しておきたい

→ 手順2でピント位置を決定した後で、OK/MENUを押します。ピント位置が固定され、画面に赤く**MF**と表示されます。

フォーカスロックした位置で、ピント位置を固定させたい

1 液晶モニタが消灯しているときは、[IOI] を押して液晶モニタを点灯させておきます。
2 距離を合わせたいものにAFターゲットマークを合わせて、シャッターボタンを半押しします。
3 シャッターボタンを半押しした状態で**AF/🌷/MF**ボタンを押します。
  - 液晶モニタに距離表示が表示されます。
  - ［MF］に設定され、フォーカスロックをした位置でピント位置が固定されます。
  - オートフォーカスに戻すには、［AF］に設定してください。

距離表示の一番上にカーソルを合わせても、ピントが∞（無限位置）に合わない

→ 液晶モニタを見ながら ⏶⏷ を押して、カーソルの位置を少しずつ調整してください。

至近距離で撮影したい

→ スーパーマクロMFモードで撮影すると、約3cmまで近づいて、マニュアルフォーカスで撮影できます。**AF/🌷/MF**ボタンを押してコントロールダイヤルを回し、［S🌷MF］を選択して**AF/🌷/MF**ボタンを押してください。☞「接近して撮る（マクロ／スーパーマクロ／スーパーマクロMF）」（P.46）

ご注意

- デジタルズームの倍率が2.5倍以上のときは、ピントを合わせている範囲は拡大表示されません。
- 撮影距離を設定した後でズーム操作をすると、設定距離が変わることがあります。再度、ピント位置を設定してください。

測光

被写体の明るさを測るには、以下の4通りの方法があります。

ESP測光 画面の中央部と周辺部を別々に測光し、演算して最適な露出を決定します。

スポット測光（[•]） AF ターゲットマークの範囲を測光し、露出を決定します。逆光などで被写体が暗くなるときに背景の光などに影響されることなく、被写体を適正露出で撮影できます。

マルチ測光（MULTI [•]） 被写体の数カ所（最大8カ所）を測光し、その平均値から最適な露出を決定します。明暗の差の大きい被写体など、適正露出がでにくい場合に有効です。

中央重点測光（[◎]） 画面の中央部に重点をおいた広い範囲を測光し、露出を決定します。同辺部の明るさを影響させたくないときに使用します。

ESP／スポット測光／中央重点測光 ESP [•] [◎]

モードダイヤル P A S M MY 動画 SCENE

1 [◎]ボタンを押してコントロールダイヤルを回します。［ESP］［スポット］［中央重点］から選択して[◎]ボタンを押します。

☞「ダイレクトボタン」（P.16）

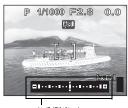
マルチ測光 MULTI [•]

モードダイヤル P A S MY SCENE

1 [◎] ボタンを押してコントロールダイヤルを回します。［マルチ測光］を選択して[◎]ボタンを押します。

☞「ダイレクトボタン」（P.16）

2 測光したいところにAFターゲットマークを合わせて、AELボタンを押します。

- マルチ測光バーが表示されます。
- 最大 8 カ所まで測光を繰り返します。9回目以降の操作は無効です。
- 測光をやり直すには、AELボタンを1秒以上押して MEMO と表示させます。再度 AEL ボタンを押すと、測光値は取り消されます。

例：2つのポイントを測光した場合（AELボタンを2回押した場合）

2回の測光の平均値から算出されたシャッター速度／絞り値。さらにポイントを測光して平均値を出すたびに、ここの数値は更新されます。

平均値を示すバーの中央から、◇が±3以上はなれると、◁▷が赤く表示されます。

ヒント

マルチ測光値を撮影後も記憶させたい（AEメモリ）

→ 手順2で測光した後に、 AEL ボタンを1秒以上押します。 MEMO と表示されます。MEMO が表示されている間、露出は記憶されています。AEメモリを解除するには、再度 AEL ボタンを押します。

測光値が取り消されてしまった

→ 手順2で測光した後に、ボタンやモードダイヤルを操作すると、マルチ測光値が取り消されます。

→ 液晶モニタを消灯すると、マルチ測光値が取り消されます。

AEロック撮影　AEL

被写体のコントラストが強いときなど、適正露出が得られないときに使います。

例：

空が明るいため被写体が暗くなります。

空を外した構図で露出を固定してから、空を入れた構図に戻して撮影します。

モードダイヤル P A S My SCENE

1 測光値をロックしたい構図にして、AELボタンを押します。

☞「ダイレクトボタン」（P.16）

- 測光値が記憶されます。
- AE ロックをやり直したいときは、再度 **AEL** ボタンを押してAEロックを解除します。**AEL**ボタンを押すたびに、ロックと解除が繰り返されます。

AE ロック中は AEL と表示されます。

2 ピントを合わせたいものにAFターゲットマークを合わせて、シャッターボタンを半押しします。

- 緑ランプが点灯します。

3 シャッターボタンを全押しします。

- AEロックは、一回の撮影が終わると自動的に解除されます。

ヒント

ロックした測光値を撮影後も記憶させたい（AEメモリ）

→ 手順1でAEロックした後、または手順2でシャッターボタンを半押しした後に、**AEL**ボタンを1秒以上押します。MEMOと表示されます。MEMOが表示されている間、露出は記憶されています。AEメモリを解除するには、再度**AEL**ボタンを押します。

AEロックをしたのに、解除されてしまった

→ AEロックした後で、ボタンやモードダイヤルを操作しないでください。AEロックが解除されます。

ご注意

- マルチ測光が設定されているときは、AEロックできません。［ESP］または［スポット］、［中央重点］に設定してください。☞「測光」（P.69）
- スーパーコンパネが表示されているときは、AEロックできません。☞「スーパーコンパネ」（P.133）

ISO感度

ISO感度は数値が大きいほど感度が高く、より暗いところ（光量が少ないところ）での撮影が可能になりますが、感度が高くなるにつれ電気的なノイズが増えて画像が粗くなります。

オート	被写体の条件に合わせて自動的に感度が変わります。
80/100/200/400	感度を低くすると、日中の撮影に最適でシャープな画像を撮ることができます。感度が高くなるにつれて、速いシャッター速度で撮影ができます。

モードダイヤル P A S M My SCENE

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［撮影］▶［ISO感度］▶［オート］／［80］／［100］／［200］／［400］ ☞「メニュー」（P.23）

ご注意

- **A**、**S**、**M**モードの場合、［オート］は選択できません。
- ISO感度は銀塩写真のフィルムを基準に設定されていますが､数値は目安です。
- ISO感度がオートに設定されているとき､暗いところでフラッシュを使わずに撮影すると、シャッター速度が遅くなります。この場合、手ぶれを防ぐため、自動的に感度が上がります。
- ISO感度がオートに設定されているとき､被写体が遠くフラッシュ光が届かない場合、自動的に感度が上がります。
- **P**、**A**、**S**モードでは、フラッシュをスローシンクロにしたとき、設定したISO感度により最長シャッター速度が変わります。

露出補正

露出を手動で微調整します。±2.0EVの範囲で設定できます。露出を補正した結果は液晶モニタで確認できます。

1 **ボタンを押してコントロールダイヤルを回します。補正値を設定してボタンを押します。**

☞「ダイレクトボタン」（P.16）

- 補正値は 1/3EV または 1/2EV 刻みで設定できます。☞「露出ステップ」（P.122）

ヒント

- 通常、白い被写体（雪など）を撮影すると実際より暗く写ってしまいますが、＋に補正すると見たままの白を表現することができます。黒い被写体を撮影するときは、逆に–に補正すると効果的です。
- ヒストグラム表示を［オン］に設定しているとき、液晶モニタが点灯中にボタンを押すと、液晶モニタにヒストグラム表示されます。
- 撮影する被写体によっては、カメラが自動的に設定した露出を補正したほうがよいときがあります。

ご注意

- フラッシュを使用すると意図した明るさ（露出）で撮影できないことがあります。
- 撮るものの周囲が極端に明るいときや極端に暗いときは、露出補正で補正しきれないときがあります。

ホワイトバランス

被写体は光源によって色が変わります。たとえば、白い紙に晴天時の太陽があたっているとき、夕日があたっているとき、電球の灯りがあたっているときでは、それぞれの白が異なります。ホワイトバランスを調整することにより、このような光源による微妙な色の違いを見たままの色に表現することができます。
以下のホワイトバランスはそれぞれ補正することもできます。また補正したホワイトバランスを登録することも可能です。

オート　光源によらず、全体の色のバランスを自動的に調整します。

プリセット1　屋外で撮影するとき、光源に応じてホワイトバランスを選択します。
- **日陰**（）　日陰での撮影
- **曇天**（）　曇天時の撮影
- **晴天**（）　晴天時の撮影
- **夕日**（）　夕日があたっているときの撮影

プリセット2　屋内で撮影するとき、光源に応じてホワイトバランスを選択します。
- **蛍光灯1**（）　昼光色 (6700K) * の蛍光灯の灯りのもとでの撮影。昼光色の蛍光灯は、主に家庭で使われています。

蛍光灯2（ ）　昼白色（5000K）* の蛍光灯の灯りのもとでの撮影。昼白色の蛍光灯は、デスク上のスタンドなどに一般的に使われています。

蛍光灯3（ ）　白色（4200K）* の蛍光灯の灯りのもとでの撮影。白色の蛍光灯は、オフィスなどで一般的に使われています。

蛍光灯4（ ）　温白色（3500K）* の蛍光灯の灯りのもとでの撮影。

電球（ ）　電球（3000K）* の灯りのもとでの撮影。

* 色温度（K）はあくまでも目安です。正確な色を示すものではありません。

カスタム　ホワイトバランスとその補正値の状態をあらかじめ登録しておくことで、その設定内容を使用することができます。☞「カスタムホワイトバランスを登録する」（P.79）

ワンタッチ　プリセットホワイトバランスでは調整しきれない微妙な色合いを設定します。撮影する光源で照らされた白いものにカメラを向けてホワイトバランスを設定することにより、実際の撮影状況に最適なホワイトバランスをカメラに記憶させることができます。

オートホワイトバランス　WB AUTO

モードダイヤル　P A S M My 動画 SCENE

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［画像］▶［ホワイトバランス］▶［オート］

☞「メニュー」（P.23）

- **P**、**A**、**S**、**M**、My、SCENEモードの場合は、ショートカットメニューから［ホワイトバランス］を選択することができます。

プリセット1／プリセット2ホワイトバランス

モードダイヤル　P A S M My 動画 SCENE

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［画像］▶［ホワイトバランス］▶［プリセット1］／［プリセット2］▶［プリセット1］／［プリセット2］

☞「メニュー」（P.23）

- **P**、**A**、**S**、**M**、My、SCENEモードの場合は、ショートカットメニューから［ホワイトバランス］を選択することができます。

1 **ホワイトバランスを選択し、Ⓞを押します。**

ヒント

- 実際の光源とは異なるプリセットホワイトバランスを選択し、その設定を液晶モニタで確認すると、様々な色調が楽しめます。

カスタムホワイトバランス

モードダイヤル　P A S M My SCENE

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［画像］▶［ホワイトバランス］▶［カスタム］
☞「メニュー」（P.23）

- **P**、**A**、**S**、**M**、My、SCENEモードの場合は、ショートカットメニューから［ホワイトバランス］を選択することができます。

1 **［カスタム1］［カスタム2］［カスタム3］［カスタム4］から選択し、Ⓞを押します。**

- カスタム1は晴天相当に設定されています。
- 未登録のカスタムホワイトバランスは選択できません。☞「カスタムホワイトバランスを登録する」（P.79）

ワンタッチホワイトバランス

モードダイヤル　P A S M My SCENE

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［画像］▶［ホワイトバランス］▶［ワンタッチ］
☞「メニュー」（P.23）

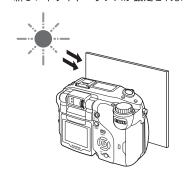
- P、A、S、M、My、SCENEモードの場合は、ショートカットメニューから［ホワイトバランス］を選択することができます。

1 ［実行］を選択し、▷を押します。

2 ワンタッチホワイトバランス画面が表示された状態で、カメラを白い紙に向けます。

- 紙は画面いっぱいになるように置き、影の部分ができないようにしてください。

3 OKを押します。

- 新しいホワイトバランスが設定されます。

ワンタッチホワイトバランス

ご注意

- ワンタッチホワイトバランスでは、紙に反射している光が明るすぎたり暗すぎたりする場合は、適切な設定ができません。
- 特殊な光源下では、ホワイトバランスの効果が発揮できない場合があります。
- オート以外のホワイトバランスに設定して撮影した場合、画像を再生して色を確認してください。
- オート以外のホワイトバランスに設定してフラッシュを発光した場合、液晶モニタで見た色と異なった色で撮影されることがあります。

ホワイトバランスを補正する

ホワイトバランスのオート、プリセット1、プリセット2、ワンタッチごとに補正値を設定して微調整します。

モードダイヤル P A S M My SCENE

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［画像］▶［ホワイトバランス］▶［オート］／［プリセット1］／［プリセット2］／［ワンタッチ］

☞「メニュー」（P.23）

- **P**、**A**、**S**、**M**、My、SCENEモードの場合は、ショートカットメニューから［ホワイトバランス］を選択することができます。

1 ［補正］を選択し、▷を押します。

［プリセット1］ホワイトバランスを補正する場合

2 △▽を押してホワイトバランスを調整し、設定が決まったらOK/MENUを押します。

- 現在のホワイトバランスの値に対し、△を押すたびに青みがかり、▽を押すたびに赤みがかかった画像になります。
- ホワイトバランスはBLUE方向、RED方向ともそれぞれ7段階の調節が可能です。

WB補正バー

カスタムホワイトバランスを登録する

現在設定されているホワイトバランスと補正値を［カスタム1］～［カスタム4］に登録し、カスタムホワイトバランスとして選択できるようにします。

モードダイヤル P A S M My SCENE

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［画像］▶［ホワイトバランス］▶［オート］／［プリセット1］／［プリセット2］／［ワンタッチ］

☞「メニュー」（P.23）

- P、A、S、M、My、SCENEモードの場合は、ショートカットメニューから［ホワイトバランス］を選択することができます。

1 ［登録］を選択し、▷を押します。

［プリセット1］ホワイトバランスを登録する場合

2 ［カスタム1］［カスタム2］［カスタム3］［カスタム4］から選択し、OKを押します。

- 現在設定されているホワイトバランスと補正値が、カスタムホワイトバランスとして登録されました。
- 指定した番号にすでにカスタムホワイトバランスが登録されている場合は、確認の画面が表示されます。新たに登録する場合は［解除する］を選択してOKを押します。

4 より高度な撮影機能

シーンプリセット

目的のシーンにあった画像処理をします。色再現、シャープネス、コントラスト、彩度が調整されます。

モードダイヤル P A S M My 🎥

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［画像］▶［シーンプリセット］▶［標準］／［ポートレート］／［風景］／［夜景］ ☞「メニュー」（P.23）

- ［ポートレート］［風景］［夜景］については 「撮影シーンに合わせた撮影」（P.42）を参照してください。

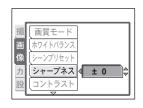
シャープネス

画像の鮮鋭度を調節します。

モードダイヤル P A S M My 🎥 SCENE

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［画像］▶［シャープネス］
☞「メニュー」（P.23）

1 △▽ を押して、±5 段階の範囲で調整します。

- ＋方向に調整　画像の輪郭がよりシャープになり画像が鮮やかになります。プリントなど鑑賞用に適しています。
- －方向に調整　画像の輪郭がソフトになります。パソコンでの加工に適しています。

ご注意

- ＋方向に調整しすぎると、画像にノイズが目立つ場合があります。

4 より高度な撮影機能

コントラスト

画像のコントラスト（明暗の差）を調節します。明暗差の小さい画像にメリハリを出したり、明暗差の大きい画像を柔らかい仕上がりにすることができます。

モードダイヤル P A S M My SCENE

トップメニュー ▶ [モードメニュー] ▶ [画像] ▶ [コントラスト]

☞「メニュー」（P.23）

1 ⊕⊖ を押して、±5 段階の範囲で調整します。

- ＋方向に調整　明暗の差がより大きくなりメリハリのある画質になります。
- －方向に調整　明暗の差がより小さくなり、比較的柔らかい印象の画質になります。パソコンでの加工に適しています。

色相

画像全体の色合いを変化させて調整します。

モードダイヤル P A S M My SCENE

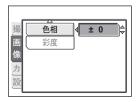
トップメニュー ▶ [モードメニュー] ▶ [画像] ▶ [色相]

☞「メニュー」（P.23）

1 ⊕⊖ を押して、±5 段階の範囲で調整します。

- ＋方向に調整　青空を基準とした場合、緑の色みが増します。
- －方向に調整　青空を基準とした場合、紫の色みが増します。

彩度

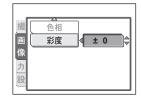
RGB

画像の色の濃さを調節します。

モードダイヤル P A S M SCENE

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［画像］▶［彩度］

☞「メニュー」（P.23）

1 を押して、±5 段階の範囲で調整します。

- ＋方向に調整　色が濃くなります。
- −方向に調整　色が薄くなります。

ノイズリダクション

NR

暗いところの撮影では、CCD にあたる光の量が少なくなるので、遅いシャッター速度で撮影します。長時間露光時はCCD に光があたっていない部分からも信号が発生し、ノイズとして画像に記録されます。ノイズリダクションをオンにすると、カメラが自動的にノイズを軽減してきれいな画像を撮影することができます。

オン

ノイズを軽減します。撮影時間は通常の2倍になります。シャッター速度が1/2秒より遅いときに動作します。

オフ

ノイズを軽減しません。遅いシャッター速度で撮影すると、画像にノイズが目立つ場合があります。

ここでの画像は、単にノイズリダクションの効果を示しているものです。実際の画像とは異なります。

モードダイヤル P A S M My

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［撮影］▶［ノイズリダクション］▶［オン］／［オフ］

☞「メニュー」（P.23）

ご注意

- SCENE モードで に設定していると、［ノイズリダクション］は常に［オン］に固定されます。
- ［ノイズリダクション］を［オン］に設定すると、撮影後にカメラがノイズを取り除く動作をするため、撮影時間が通常の約2倍になります。この間、次の撮影はできません。
- ［ノイズリダクション］が［オン］のとき、連写、高速連写、AF連写、オートブラケット撮影はできません。
- 撮影条件や被写体により効果が出にくい場合があります。

ヒストグラム表示

静止画撮影時に液晶モニタに写っている画像の輝度成分をグラフ化してヒストグラム表示します。画像上に直接黒つぶれ部／白とび部を表示することもできます。
被写体の明るさのコントラストを確認しながら撮影できるので、より厳密に露出をコントロールすることができます。

オフ　ヒストグラムを表示しません。
オン　ボタンを押したときに、ヒストグラムを表示します。☞「露出補正」（P.73）
オン　常にヒストグラムを表示します。
ダイレクト　白とび部／黒つぶれ部を画像上に直接表示します。

例1）**P**モードで［オン］［オン］が選択されたとき

明るい画像のとき

暗い画像のとき

ヒストグラム
ターゲットマーク

赤の枠内に多く入ると、画像は白くとび気味に写ります。

青の枠内に多く入ると、画像は黒くつぶれ気味に写ります。

ヒストグラムの緑色の部分は、ヒストグラムターゲットマーク内の輝度分布です。

例2）**P**モードで［ダイレクト］が選択されたとき

赤い点：白とび部
青い点：黒つぶれ部

１つのエリア内に黒つぶれ部と白とび部の両方がある場合も、青い点で表示されます。

モードダイヤル P A S SCENE

1 ボタンを押して、を押します。

「ダイレクトボタン」（P.16）

2 ヒストグラム表示の種類を選択し、を押します。

ヒント

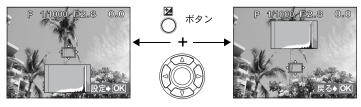
- を押して、通常表示とヒストグラム表示を切り換えることができます。
  「ダイレクトボタン」（P.16）

ご注意

- ヒストグラム表示を［オン］［オン］［ダイレクト］に設定していても、以下のときはヒストグラムやダイレクト表示はしません。
  パノラマ撮影時／マルチ測光中
- 撮影時に表示されたヒストグラムは、再生時に表示されるものとは異なることがあります。

4 より高度な撮影機能

●ヒストグラムターゲットを移動する

撮影モードでヒストグラム表示中に、ボタンを押してから十字ボタンを押すとヒストグラムターゲットを移動できます。
ヒストグラムターゲット移動中に を押すと、移動したヒストグラムターゲットの位置がリセットされます。

罫線表示

罫線を表示します。撮影の構図を決めるときの参考にしてください。

［1］を設定した場合

オフ　罫線を表示しません。
1　縦横に罫線を表示します。
2　対角線の罫線を表示します。

モードダイヤル P A S M My SCENE

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［撮影］▶［罫線表示］▶［オフ］／［1］／［2］
☞「メニュー」（P.23）

? ヒント

- を押して、罫線表示を切り換えます。☞「ダイレクトボタン」（P.16）

! ご注意

- パノラマ撮影の場合は、罫線は表示されません。

5

いろいろな撮影機能

スポーツ観戦や運動会で…
ムービー撮影で大歓声も録音して迫力を保存。シュートやゴールは連写で動きをとらえ、後からベストショットをチョイス。

大自然でも観光地でも…
美しい山並みや壮大な建築物をパノラマ撮影でワイドに撮ってみましょう。

仲間が集まったら…
同窓会、ホームパーティなどのイベントでもセルフタイマーやリモコンを使えば全員で集合写真を撮ることができます。

凝った写真をメニューひとつで…
セピア写真でレトロに、モノクロ写真でシャープに。液晶モニタでイメージを確認しながら撮れます。

ムービー撮影

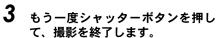
ムービー（動画）を撮影します。
画質モードがSHQの場合、撮影可能時間は最大20秒です。

1 構図を決めます。

- 使用しているカードで記録できる撮影可能時間が液晶モニタに表示されます。
- ズームレバーで被写体を拡大できます。

2 シャッターボタンを全押しして撮影を始めます。

- カードアクセスランプが点滅し、カード記録が始まります。
- ムービー撮影中は マークが赤く点灯します。

3 もう一度シャッターボタンを押して、撮影を終了します。

- 撮影可能時間が0になると、自動的に撮影を終了します。

? ヒント

撮影中、常に被写体にピントを合わせたい

→［ムービー録音］を［オフ］に設定して、［フルタイムAF］を［オン］に設定します。☞「フルタイムAF」（P.63）、「ムービー録音」（P.97）

撮影中、ズームを使いたい

→［デジタルズーム］を［オン］に設定します。☞「デジタルズームを使う」（P.45）

→［ムービー録音］を［オフ］に設定すると、撮影中も光学ズームが使用できます。☞「ムービー録音」（P.97）

ご注意

- 撮影中、カードの状態によっては、撮影可能時間が急激に減ることがあります。この場合は、このカメラでカードをフォーマットしてから使用してください。☞「フォーマット」（P.117）
- 🎥モードでは、フラッシュ、MF（マニュアルフォーカス）は使用できません。

長時間ムービー撮影をする場合のご注意

- HQ、SQ1、SQ2 の画質モードで撮影中は、再度シャッターボタンを押してムービー撮影を終了しない限り、カードの空き容量がなくなるまで撮影が続きます。
- 長時間撮影したムービーは編集できません。（P.109）
- 一度のムービー撮影でカードの空き容量がなくなったときは、その画像を消去するか、パソコンにダウンロードしてから消去して、カードに空きを作ってください。

手ぶれ補正

ムービー撮影時の手ぶれによる画像の揺れを軽減します。
被写体の動きに応じてCCD上で画像を取り込む範囲を動かし、被写体のブレを軽減して記録します。[手ぶれ補正]を[オン]にすると、少し拡大されて撮影されます。

トップメニュー ▶［手ぶれ補正］▶［オフ］／［オン］☞「メニュー」（P.23）

1 撮影します。

手ぶれ補正中に表示されます。

ご注意

- 手ぶれが大きいときや被写体の動きによっては、補正できないことがあります。
- カメラを固定して撮影するときは、［手ぶれ補正］を［オフ］にしてください。被写体の動きにあわせて、画面が動いてしまうことがあります。

連写（高速連写／連写／AF連写／オートブラケット）

連続撮影（連写）には、高速連写、連写、AF 連写、オートブラケット（**BKT**）の4種類があります。連写は、モードメニューのドライブで設定します。
［画質モード］が［TIFF］に設定されているときは、連続撮影はできません。

単写	一度シャッターボタンを押すと、1コマだけ撮影されます。（通常の撮影モード、1コマ撮影）
高速連写	通常の連写より高速で連写できます。記録する画質設定によって連写速度が異なります。 約2.5コマ／秒で2枚
連写	最初の1コマでピント、明るさ（露出）、ホワイトバランスが固定されます。 約1.1コマ／秒で約11枚（HQモード使用時）
AF連写	1コマごとにピントを合わせます。連写速度は遅くなります。
BKT（オートブラケット）	オートブラケット撮影を設定すると、一度シャッターボタンを全押しすると、1コマごとに自動的に露出を変えて連続撮影します。変化させる露出差と連続撮影枚数は、メニューで選択します。ピントとホワイトバランスは最初の1コマで固定されます。

例：**BKT**設定が［±1.0］［×3］の場合

-1.0

0.0

+1.0

高速連写・連写・AF連写

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［撮影］▶［ドライブ］▶［高速連写］／［連写］／［AF連写］
☞「メニュー」（P.23）

• ショートカットメニューから［ドライブ］を選択することができます。

1 **撮影します。**

• シャッターボタンを全押ししている間は連写が続きます。指をはなすと連写は止まります。高速連写は2枚で連写が止まります。
• ファインダを使って撮影してください。連写中、液晶モニタに被写体は表示されません。

オートブラケット撮影 BKT

モードダイヤル P A S MY SCENE

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［撮影］▶［ドライブ］▶［BKT］

☞「メニュー」（P.23）

• ショートカットメニューから［ドライブ］を選択することができます。

1 露出差と撮影枚数を選択し、OK を押します。

• 選択できる露出差は［露出ステップ］の設定により異なります。☞「露出ステップ」（P.122）
• 画像サイズと画質の組み合わせにより、［×3］しか選択できない場合があります。

2 撮影します。

• 設定した枚数の撮影が終わるまで、シャッターボタンを全押しし続けます。途中でやめるときは、シャッターボタンをはなします。

ご注意

• 以下の場合、高速連写・連写・AF連写・オートブラケット撮影はできません。
  SCENEモードで に設定されている場合／［画質モード］が［TIFF］の場合／［ノイズリダクション］が［オン］の場合
• ［画像モード］が［RAW］の場合、［連写］［AF連写］は選択できません。
• 連写モード（高速連写・連写・AF 連写・オートブラケット撮影 ）時は、内蔵フラッシュは発光しません。オートブラケット撮影では外部フラッシュも発光しません。
• **S**、**M**モード以外では、シャッター速度の最長秒時は、1/30秒に設定されています。そのため暗い被写体では露出不足の画像になります。
• **S**モード以外のオートブラケット撮影は、露出差0のときにシャッター速度が1/30より長秒時の場合、1/30秒に固定してブラケット撮影します。
• 連写中、電池の消耗により電池残量マークが点滅すると、撮影を中止してカードに記録を始めます。電池の状態によっては、すべての画像を記録できない場合があります。
• オートブラケット撮影では、カードの空きが設定枚数以上ないと続けて次の撮影することはできません。

セルフタイマー撮影

セルフタイマーを使って撮影します。カメラを三脚にしっかり固定して撮影してください。記念写真などを撮るときに便利です。

モードダイヤル P A S M SCENE

1 **ボタンを押してコントロールダイヤルを回します。［セルフタイマー］を選択してボタンを押します。**

☞「ダイレクトボタン」（P.16）

2 **シャッターボタンを全押しして、撮影します。**

セルフタイマー／リモコンランプ

- ピントと露出はシャッターボタンを半押しした時点で固定されます。
- セルフタイマー／リモコンランプが約10秒間点灯し、さらに約2秒間点滅した後、シャッターが切れます。
- ムービー撮影の場合、再度シャッターボタンを全押しして、撮影を終了してください。
- 作動中のセルフタイマーを中止するには、ボタンを押します。
- セルフタイマーモードは、一回の撮影が終わると自動的に解除されます。

ご注意

- セルフタイマー撮影で連写（連写•AF連写•オートブラケット）すると、設定にかかわらず最大5コマ撮影されます。高速連写は2コマで連写が止まります。

ファンクション撮影（パノラマ／モノクロ／セピア）

パノラマ　当社製のxDピクチャーカードを使うと、パノラマ撮影が簡単に楽しめます。被写体の端が重なるようにして撮影した何枚かの画像を、OLYMPUS Master（付属のCD-ROMに収録）でつなぎ合わせ、1枚のパノラマ合成画像を作成することができます。

モノクロ　白黒に撮影できます。

セピア　セピア色に撮影できます。

パノラマ撮影

モードダイヤル P MY SCENE

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［撮影］▶［ファンクション撮影］▶［パノラマ］

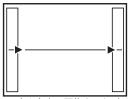
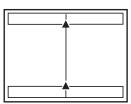
☞「メニュー」（P.23）

1　十字ボタンでつなげる方向を指定します。

- ▷：次の画像を右につなげます。
- ◁：次の画像を左につなげます。
- △：次の画像を上につなげます。
- ▽：次の画像を下につなげます。

左から右へ画像をつなぐ撮影をする場合

2　被写体の端が重なるように撮影します。

- ピント・露出・ホワイトバランスなどは、1枚目で決定されます。1枚目に太陽などの光の強い被写体を入れた撮影などをしないでください。
- 1枚目を撮影した後は、ズーム操作はできません。
- 最大10枚までパノラマ撮影が可能です。
- 10枚撮り終わると警告マーク が表示されます。

下から上へ画像をつなぐ撮影をする場合

端の枠に、前に撮影した画像の合わせるべき部分は残っていません。撮影時には、この枠の画像を覚えていて、次のコマの枠の画像と同じになるように撮影してください。前に撮影した画像の右端（左回りのときは左端）は、次の画像の左端（左回りのときは右端）と同じ画像が撮影できるように構図を設定して撮影してください。

3 パノラマ撮影を終了するには、OK/MENUを押します。

ご注意

- パノラマ合成機能付きのカード以外でパノラマ撮影はできません。
- パノラマ撮影中はフラッシュ、連写（高速連写、連写、AF 連写、オートブラケット）、プログラムシフトは使用できません。
- ［画質モード］を［TIFF］（非圧縮）に設定してパノラマ撮影をすると、同じ画像サイズのJPEG（低圧縮）で記録されます。
- ［画質モード］が［RAW］のとき、パノラマ撮影はできません。
- パノラマ撮影中にモードダイヤルを操作すると、パノラマ撮影は解除され、通常の撮影モードに戻ります。
- パノラマ合成はカメラ本体ではできません。パノラマ合成画像を作成する場合は、OLYMPUS Masterをご使用ください。

モノクロ・セピア

モードダイヤル P A S M My 動画 SCENE

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［撮影］▶［ファンクション撮影］▶［モノクロ］／［セピア］

☞「メニュー」（P.23）

ご注意

- ［モノクロ］［セピア］を設定すると、［ホワイトバランス］［WB 補正］［彩度］［色相］の設定はできません。

リモコン撮影（別売）

別売のリモコン（RM-1）を使って撮影できます。記念写真を撮るときや、夜景撮影など、カメラに触れないでシャッターを切りたい場合に便利です。

モードダイヤル P A S M My SCENE

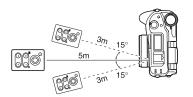
1 **カメラを三脚などでしっかり固定させます。**

2 **ボタンを押してコントロールダイヤルを回します。［リモコン］を選択してボタンを押します。**

☞「ダイレクトボタン」（P.16）

3 **リモコンのシャッターボタンを押します。**

- ピントと露出が固定されます。カメラのセルフタイマー／リモコンランプが点滅し、シャッターが切れます。

5 いろいろな撮影機能

ヒント

リモコンのシャッターボタンを押してもセルフタイマー／リモコンランプが点滅しない

→ カメラから離れすぎているため、リモコン信号が届いていません。カメラに近づいて、再度リモコンのシャッターボタンを押してください。

→ リモコン信号が混信しています。リモコンの取扱説明書にしたがってチャンネルを変えてください。

リモコンを使ってカメラのズーム操作をしたい

→ リモコンをカメラの受信窓に向けてリモコンのWまたはTボタンを押します。操作中はセルフタイマー／リモコンランプが点滅します。

リモコンモードを解除したい

→ リモコンモードは撮影後も自動的には解除されません。手順2にしたがって［オフ］に設定してください。

ご注意

- リモコン受信窓に強い光があたると、リモコンの届く距離が短くなったり、撮影ができなくなることがあります。
- リモコン撮影で連写をする場合は、リモコンのシャッターボタンを押し続けてください。リモコンの受信状態が悪くなると、連写が途中で終了してしまうことがあります。
- リモコンを使用して再生する方法は、リモコンの取扱説明書をお読みください。

リモコンの作動時間を変更する

リモコンのシャッターボタンを押してからシャッターが切れるまでの時間を設定します。

オート　リモコンのシャッターボタンを押すと、すぐにシャッターが切れます。
3秒　リモコンのシャッターボタンを押すと、約 3 秒後にシャッターが切れます。

1 **ボタンを押してを押します。**

- ［オフ］または［セルフタイマー］に設定されているときは、を押してもメニューが表示されません。

2 **［オート］または［3秒］を選択し、を押します。**

スチル録音

静止画撮影時に音声を録音します。シャッターが切れてから約0.5秒後に録音を開始し、約4秒間録音します。
スチル録音をオンに設定すると、撮影後、毎回自動的に録音します。

モードダイヤル P A S M My SCENE

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［撮影］▶［スチル録音］▶［オン］／［オフ］

☞「メニュー」（P.23）

1 シャッターボタンを押して録音が始まったら、カメラのマイクを録音する対象に向けます。

ヒント

- スチル録音／ムービー録音した画像は再生したときに液晶モニタに［♪］が表示されます。録音した画像を再生すると、音声がスピーカから出力されます。音量は調節することができます。☞「再生音量」（P.128）
- 静止画再生中に、音声をあとから録音することができます。また、録音済みの音声を録音し直すこともできます。☞「音声の録音」（P.108）

ご注意

- 録音対象がカメラから1m以上はなれると、きれいに録音されない場合があります。
- 録音中は撮影ができません。
- 以下の場合は、録音できません。
  ［画質モード］が［TIFF］に設定されている場合／連写（高速連写・連写・AF連写・オートブラケット）が設定されている場合／パノラマ撮影
- 録音中にボタン操作などを行うと、その音が録音されてしまうことがあります。
- カードの空き容量が不足している場合は、録音できないことがあります。

ムービー録音

ムービー撮影と同時に音声を録音します。

モードダイヤル

トップメニュー ▶ [ムービー録音] ▶ [オン] ／ [オフ] ☞「メニュー」(P.23)

ご注意

- ［ムービー録音］が［オン］に設定されていると、ムービー撮影中は、光学ズームが固定されます。ムービー撮影中にズームを使いたいときは、［デジタルズーム］を［オン］に設定してください。［ムービー録音］を［オフ］に設定すると、ムービー撮影中、光学ズームとデジタルズームの両方が働きます。
- 録音対象がカメラから1m以上はなれると、内蔵の録音マイクではきれいに録音されない場合があります。

アクセサリー（別売）

別売の専用コンバージョンレンズ、防水プロテクタをカメラに取り付けて撮影する際に設定します。

コンバージョンレンズ
防水プロテクタ

モードダイヤル P A S M My SCENE

トップメニュー ▶ [モードメニュー] ▶ [撮影] ▶ [アクセサリ] ▶ [オフ] ／ [] ／ [] ☞「メニュー」(P.23)

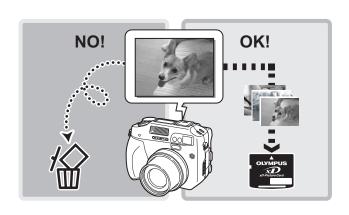
ご注意

- レンズにフィルタを取り付けた状態で、コンバージョンレンズ、または防水プロテクタを使うことはできません。
- コンバージョンレンズを取り付けた場合、内蔵フラッシュの光はけられます。フラッシュを使用するときは外部フラッシュを使用してください。
- コンバージョンレンズ、または防水プロテクタを取り付けた場合、ピント合わせに時間がかかることがあります。
- コンバージョンレンズと防水プロテクタを同時に使用するときは、[]を選択してください。

6

再生

フィルムを使うカメラでは、撮影した写真は現像するまで見ることができません。できあがった写真を見て失敗作！とがっかりしたことはありませんか？　ボケた風景写真や目をつぶってしまった写真。ちゃんと撮れたか自信がなくて何度も同じような写真を撮ってしまったり。これでは、大切な思い出を安心して記録することができませんね。
デジタルカメラではどうでしょう。デジタルカメラなら撮影後すぐに再生できます。シャッターボタンを押したら、その場で撮った画像を確認しましょう。うまく撮れなかったら、その場で消してしまえばよいのです。さあ、失敗を恐れず、どんどんシャッターボタンを押しましょう！

1コマ再生

- 液晶モニタが点灯し、最後に撮影した画像が表示されます。

1　十字ボタンまたはコントロールダイヤルで、見たい画像を表示します。

- **十字ボタン**
  ▷：次の画像を表示
  ◁：1コマ前の画像を表示
  △：10コマ前の画像を表示
  ▽：10コマ先の画像を表示
- **コントロールダイヤル**
  右に回す：次の画像を表示
  左に回す：1コマ前の画像を表示

ヒント

- 撮影モードで**QUICK VIEW**ボタンを押しても、再生することができます。

ご注意

- 3分以上何も操作をしないとスリープモード（待機状態）になり、液晶モニタが消灯します。

6 再生

クローズアップ再生

液晶モニタに表示される画像を2倍、3倍、4倍、5倍、6倍、7倍と段階的に拡大表示します。

1　拡大したい静止画を表示します。

2 ズームレバーをT側（🔍）に回します。

- 回すたびに段階的に拡大表示されます。
- 拡大表示中に十字ボタンを押すと、その方向に画像をずらして表示することができます。
- 拡大表示中にコントロールダイヤルを回すと、別の画像を同じ拡大率で表示することができます。
- W側に回すと1倍の大きさに戻ります。

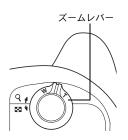
画像の左側が表示されます。

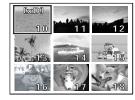
ご注意

- 🎥のついた画像は、拡大できません。
- 拡大した状態で画像を保存することはできません。

インデックス再生

複数の画像を一度に表示します。表示するコマ数は4、9、16分割から選ぶことができます。☞「インデックス分割数」（P.101）

1 **ズームレバーをW側（▦）に回します。**

- 十字ボタンを押して画像を選択します。
  - ◁：1つ前のコマへ移動。
  - ▷：1つ次のコマへ移動。
  - △：上のコマへ移動。
  - ▽：下のコマへ移動。

- インデックス再生中、コントロールダイヤルを回すとインデックス画面のページを切り換えます。

- ズームレバーをT側に回すと1コマ再生に戻ります。☞「1コマ再生」（P.99）

インデックス分割数

インデックス再生のコマ数を4コマ、9コマ、16コマから選択します。

モードダイヤル ▭ P A S M My SCENE ▶

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［設定］▶［インデックス表示］▶［4］／［9］／［16］
☞「メニュー」（P.23）

スライドショー

カードに記録されている静止画像を1枚ずつ自動的に再生します。ムービーコマは、最初のフレームのみが静止画と同じように再生されます。
静止画を選択してトップメニューを表示してください。

トップメニュー ▶ [スライドショー] ☞「メニュー」(P.23)

- スライドショーがスタートします。
- Ⓞを押すと、スライドショーが終了します。Ⓞを押すまでスライドショーが繰り返されます。

ご注意

- 長時間スライドショーを行う場合は、ACアダプタ（別売）のご使用をおすすめします。電池をお使いの場合、30分経過するとスリープモード（待機状態）になり、自動的にスライドショーが終了します。

回転再生

カメラを縦に構えて撮影した画像は、横向きに表示されます。このような横向きの画像を回転して縦向きに表示します。時計方向に90度、反時計方向に90度の回転ができます。

モードダイヤル ▶

1　1 コマ再生中またはインデックス再生中に、 ボタンを押します。

☞「ダイレクトボタン」(P.16)

- ボタンを押すたびに、画像が反時計方向に90度、時計方向に90度、元の位置の順に回転します。

ご注意

- 次の画像は回転再生できません。
  ムービー／プロテクトされた画像／パソコンで編集した画像／他のカメラで撮影した画像
- 電源を切っても、画像が回転された状態は記録されます。

ムービーの再生

ムービーを再生します。早送りやコマ送り再生をすることができます。
🎥マークの付いた画像を選択してトップメニューを表示してください。

トップメニュー ▶［ムービー再生］ ☞「メニュー」（P.23）

- ムービーが再生されます。再生が終わるとムービーの先頭に戻り、ムービー再生メニューが表示されます。
- ［再スタート］を選択すると、もう一度再生します。［終了］を選択すると、再生モードに戻ります。

●ムービー再生中の操作

ムービー録音した画像は液晶モニタに［♪］が表示されます。△▽を押して、再生中に音量を調節することができます。

△：音量を大きくします。
▽：音量を小さくします。
▷：押すたびに再生速度が1倍から2倍、20倍、1倍に変わります。
◁：逆再生します。押すたびに逆再生の速度が1倍から2倍、20倍、1倍に変わります。
OK/MENU：一時停止し、コマ送りの状態になります。

再生時間/録画時間

●コマ送りの操作

△：ムービーの先頭のコマを表示します。
▽：ムービーの末尾のコマを表示します。
▷：ムービーのコマが進みます。押し続けると再生します。
◁：ムービーのコマが戻ります。押し続けると逆再生します。
OK/MENU：ムービー再生メニューが表示されます。

ご注意

- カードアクセスランプが点滅しているときは、カードからカメラへの画像の読み出しが行われています。画像の読み出しには時間がかかることがあります。カードアクセスランプの点滅中は、絶対にカードカバーを開けないでください。撮影した画像が破壊されるだけでなく、カードが破壊され使用できなくなる場合があります。

静止画の編集

撮影した静止画を編集して別の画像として保存します。以下の編集を行うことができます。

RAW編集	RAW データ形式で記録した画像にホワイトバランスやシャープネスなどの画像処理を行って、TIFF やJPEGの別の画像として保存します。撮影後に結果を確かめながら、自分のイメージに近い画像にすることができます。☞P.104
リサイズ	画像サイズを640 × 480、または320 × 240 に変更して、別の画像として保存します。☞P.106
トリミング	画像の一部を拡大して、別の画像として保存します。☞P.106
赤目補正	人物をフラッシュ撮影すると目が赤く写ることがありますが、これを補正して、別の画像として保存します。☞P.108

RAW編集

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［編集］▶［RAW編集］

☞「メニュー」（P.23）

6 再生

1 コントロールダイヤルで編集したい画像を選択し、Ⓞを押します。

• RAW 編集の画像は、画質モードが［RAW］で記録された画像を選択してください。

2 設定する項目から詳細内容を選択し、Ⓞを押します。

3 必要なすべての項目を設定したら㊟を押します。

- RAW編集で設定可能な項目は、以下のとおりです。

項目	詳細設定	参照頁
画質モード	TIFF／SHQ／HQ／SQ1／SQ2	P.33
露出補正	±2	P.73
ホワイトバランス	オート／プリセット1／プリセット2／カスタム／ワンタッチ*	P.74
WB補正	RED7～BLUE7	P.78
シーンプリセット	標準／ポートレート／風景／夜景	P.80
シャープネス	±5	P.80
コントラスト	±5	P.81
色相	±5	P.81
彩度	±5	P.82
ファンクション撮影	オフ／モノクロ／セピア	P.92
トリミング	—	P.106

*撮影時のホワイトバランスの設定が［ワンタッチ］の場合のみ選択できます。

4 画像を保存するカードを選択し、㊟を押します。

- カメラに挿入されているカードが1種類のときは、この手順はありません。
- 選択したカードの空き容量が不足するときは、設定画面に戻ります。

5 ［決定］を選択し、㊟を押します。

- 作成中を示すバーが表示され、画像が保存された後、手順1に戻ります。
- RAW 編集された画像は元の画像とは別の画像として保存されます。
- RAW 編集を再度設定するときは［再設定］、中止するときは［中止］を選択し、㊟を押します。

リサイズ

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［編集］▶［リサイズ］

☞「メニュー」（P.23）

1 コントロールダイヤルで編集したい画像を選択し、OK/MENUを押します。

2 画像サイズを選択し、OK/MENU を押します。

3 画像を保存するカードを選択し、OK/MENUを押します。

- カメラに挿入されているカードが1種類のときは、この手順はありません。
- 選択したカードの空き容量が不足するときは、設定画面に戻ります。

4 ［決定］を選択し、OK/MENUを押します。

- 作成中を示すバーが表示され、画像が保存された後、手順1に戻ります。
- リサイズされた画像は元の画像とは別の画像として保存されます。
- リサイズをやめるときは［中止］を選択してOK/MENUを押してください。

ご注意

- 次の場合はリサイズできません。
  ムービー／RAWで記録した画像／パソコンで編集した画像／カードの空き容量が不足している場合／他のカメラで撮影した画像
- 撮影時の画像サイズが640 × 480の場合、［640 × 480］の設定はできません。

トリミング

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［編集］▶［トリミング］

☞「メニュー」（P.23）

1 コントロールダイヤルで編集したい静止画を選択し、OK/MENUを押します。

2 十字ボタン、ズームレバー、コントロールダイヤルを使って、トリミングの位置とサイズを決めます。

- ▲▼◀▶を押してトリミングする位置を移動し、ズームレバーをW側またはT側に動かしてトリミングのサイズを決めます。
- コントロールダイヤルでトリミング枠の縦と横を選択します。
- 画像サイズが3072 × 2304、または3072 × 2048の場合は、3:2のトリミングサイズが選択できます。

3 OK/MENUを押します。

4 画像を保存するカードを選択し、OK/MENUを押します。

- カメラに挿入されているカードが1種類のときは、この手順はありません。
- 選択したカードの空き容量が不足するときは、設定画面に戻ります。

5 ［決定］を選択し、OK/MENUを押します。

- 作成中を示すバーが表示され、画像が保存された後、手順1に戻ります。
- トリミングされた画像は元の画像とは別の画像として保存されます。
- トリミングをやり直すときは［再設定］を選択してOK/MENUを押し、手順2からやり直してください。
- トリミングをやめるときは［中止］を選択してOK/MENUを押してください。

ご注意

- 次の場合はトリミングできません。

  ムービー／RAWで記録した画像／カードの空き容量が不足している場合
- トリミングした画像を印刷した場合、粗くなることがあります。

赤目補正

赤目補正する静止画を選択してトップメニューを表示してください。

モードダイヤル ▶

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［編集］▶［赤目補正］

☞「メニュー」（P.23）

1 ［スタート］が表示されたら、OK/MENUを押します。

- ［処理中］バーが表示された後、補正する部分が青い枠で囲まれた画像が表示されます。

2 OK/MENUを押します。

- ［処理中］バーが表示され、補正された画像が別の画像として保存されます。
- 青枠が表示されない場合は、赤目補正できません。

ご注意

- 次の場合は赤目補正できません。
  ［RAW］または［TIFF］で記録した画像
- 画像によっては赤目補正できないことがあります。また、目以外の部分が補正されることがあります。

音声の録音

撮影済みの静止画に音声を録音（アフレコ）します。また、録音済みの音声を新たに録音し直すこともできます。録音できる時間は1画面につき約4秒間です。
音声を録音したい静止画を選択しておきます。

トップメニュー ▶［録音］

☞「メニュー」（P.23）

1　録音が開始されますので、カメラの録音マイクを録音したい対象に向けます。

- 録音中を示すバーが表示されます。

ご注意

- 録音対象がカメラから約1m以上はなれると、きれいに録音されない場合があります。
- 録音済みの画像に再度録音した場合は、前の音声が消えて新しい音声のみ残ります。
- カード残量がない場合（警告画面が表示されるカード）では、録音できないことがあります。
- 録音中にボタン操作をすると操作音が録音されることがあります。
- 一度録音したら音声のみを消すことはできません。音声を入れず（無音状態）再録音してください。

ムービーの編集

撮影したムービーからインデックスを作成したり、編集することができます。

インデックス作成　作成したムービーの内容が一目でわかるようにムービーを9分割して画面に表示し、1つの画像として保存（インデックス作成）します。
☞「インデックス作成」（P.110）

ムービー編集　撮影したムービーから必要な部分を切り出して編集します。
☞「ムービー編集」（P.111）

🎥のついた画像を選択してトップメニューを表示してください。

インデックス作成

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［編集］▶［インデックス作成］

☞「メニュー」（P.23）

1 インデックスの先頭のコマを選択し、OKを押します。

- 上：ムービーの先頭のコマへジャンプします。
- 下：ムービーの末尾のコマへジャンプします。
- 右：コマが進みます。押し続けるとムービーを再生します。
- 左：コマが戻ります。押し続けるとムービーを逆再生します。

2 手順1と同様にインデックスの後尾のコマを選択し、OKを押します。

3 画像を保存するカードを選択し、OKを押します。

- カメラに挿入されているカードが1種類のときは、この手順はありません。
- 選択したカードの空き容量が不足するときは、設定画面に戻ります。

4 ［決定］を選択し、OKを押します。

- 作成中を示すバーが表示され、ムービーから抜き出された9コマの画像がインデックス表示された後、再生モードに戻ります。作成された画像は新規の画像として保存されます。
- コマ指定をやり直す場合は［再設定］を選択してOKを押します。手順1からやり直します。
- インデックス作成をやめるときは［中止］を選択してOKを押してください。

6 再生

ヒント

- インデックス作成された画像は、ムービー撮影時の画質とは異なる静止画として保存されます。

ムービー撮影時の画質モード	インデックス画像の画質
SHQ, HQ	SQ1（2048 × 1536ピクセル：高画質）
SQ1, SQ2	SQ2（1024 × 768ピクセル：高画質）

ご注意

- ムービーの記録時間により、自動的に抜き出される画像の間隔は異なります。
- インデックス作成されるコマ数は、9コマです。
- カードの空き容量が不足しているときは作成することはできません。

ムービー編集

モードダイヤル ▶

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［編集］▶［ムービー編集］

☞「メニュー」（P.23）

1 残したい部分の先頭のコマを選択し、OKを押します。

△：ムービーの先頭のコマへジャンプします。

▽：ムービーの末尾のコマへジャンプします。

▷：コマが進みます。押し続けると再生します。

◁：コマが戻ります。押し続けると逆再生します。

2 手順1と同様に残したい部分の最後のコマを選択し、OKを押します。

3 画像を保存するカードを選択し、OK/MENUを押します。

- カメラに挿入されているカードが1種類のときは、この手順はありません。
- 選択したカードの空き容量が不足するときは、設定画面に戻ります。

4 ［決定］を選択し、OK/MENUを押します。

- コマ指定をやり直す場合は［再設定］を選択してOK/MENUを押します。手順1からやり直します。
- インデックス作成をやめるときは［中止］を選択してOK/MENUを押してください。

5 ［新規作成］または［上書き保存］を選択し、OK/MENUを押します。

新規作成　編集したムービーを新しいムービーとして保存します。

上書き保存　編集したムービーを元のムービーの名前で保存します。元のムービーは失われます。

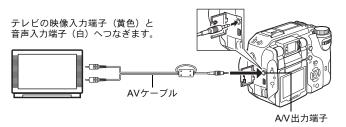
- 作成中を示すバーが表示され、編集されたムービーが新規作成または上書き保存された後、再生モードに戻ります。

ご注意

- カードの空き容量が不足している場合は、［新規作成］は選択できません。
- 記録時間の長い動画の編集には時間がかかることがあります。

テレビ再生

付属のAVケーブルでテレビに接続して画像を再生します。静止画とムービーの両方の再生ができます。

1 カメラとテレビの電源を切り、付属のAVケーブルでカメラのA/V出力端子とテレビのビデオ入力端子を接続します。

2 テレビの電源を入れて［ビデオ入力］に設定します。

- ビデオ入力の設定方法については、テレビの取扱説明書をご覧ください。

3 カメラの電源を入れます。

- 最後に撮影した画像がテレビに表示されますので、十字ボタンで表示する画像を選択します。

ヒント

- テレビで再生する場合は、ACアダプタ（別売）のご使用をおすすめします。
- クローズアップ再生、インデックス再生、スライドショー等の再生機能が可能です。

ご注意

- カメラのビデオ信号が、お使いのテレビの映像信号に合っていることを確認してください。☞「ビデオ出力」（P.113）
- AVケーブルを接続すると、カメラの液晶モニタの表示は消えます。
- テレビとの接続には必ず付属のAVケーブルをご使用ください。
- テレビにより画像が画面中央からずれることがあります。

ビデオ出力

お使いのテレビの映像信号に合わせて、［NTSC］または［PAL］を選択します。海外でテレビに接続して再生するときに、設定を合わせてください。［ビデオ出力］はAVケーブルを接続する前に選択してください。間違った映像（ビデオ）信号を選択すると、テレビで画像が正しく再生できません。

モードダイヤル P A S M My SCENE ▶

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［設定］▶［ビデオ出力］▶［NTSC］／［PAL］

☞「メニュー」（P.23）

? ヒント

主な国と地域のテレビ映像信号
カメラをテレビに接続する前に、あらかじめご確認ください。
NTSC　日本、北米、台湾、韓国
PAL　　ヨーロッパ諸国、中国

画像のコピー

xDピクチャーカードとコンパクトフラッシュまたはマイクロドライブ間で画像をコピーします。両方にカードが入っていないと、このメニューは選択できません。
選択されているカードがコピー元になります。コピー元を変更する場合はカード切り換えボタンを押して変更してください。☞「使用するカードを切り換える」（P.40）

全コマ　　カードに記録されている全ての画像をコピーします。
選択コマ　画像を選択してコピーします。

モードダイヤル ▶

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［編集］▶［コピー］

☞「メニュー」（P.23）

- ムービーを選択した状態でメニューを表示すると、以下の手順になります。
  トップメニュー ▶［コピー］

1 ［全コマ］または［選択コマ］を選択し、▷を押します。

●［全コマ］を選択

確認の画面が表示されますので、［実行］を選択して㊫を押します。
- コピーが実行され、メニューが終了します。
- コピーをやめるときは［中止］を選択して㊫を押してください。

●［選択コマ］を選択

再生画面が表示されますので、コピーするコマをコントロールダイヤルを使って選択し、Ⓞを押します。
- コピーが実行されます。
- 複数のコマをコピーする場合は、この操作を繰り返します。
- コピーを終了する場合はⓐを押します。

ご注意

- 同じカード内での画像のコピーはできません。

画像を保護する

残しておきたい大切な画像は、プロテクト（保護）を設定してください。プロテクトされた画像は1コマ消去／全コマ消去で消去できませんが、フォーマットを行うとすべて消去されます。

モードダイヤル ▶

1 プロテクトをかけたい画像を選択し、O‑ボタンを押します。

☞「ダイレクトボタン」（P.16）、「1コマ再生」（P.99）

- プロテクトを解除するには、再び O‑ ボタンを押します。

プロテクトされると表示されます。

6 再生

画像を消去する

撮影した画像を消去します。再生している1コマのみを消去する1コマ消去とカード内のすべての画像を消去する全コマ消去があります。

ご注意

- 消去したい画像がプロテクトされている場合は消去できません。画像のプロテクトを解除してから消去してください。
- 消去した画像は元に戻せません。消去する前に、大切なデータを消さないように十分に注意してください。☞「画像を保護する」（P.115）

1コマ消去

1 **消去したい画像を選択し、ボタンを押します。**

☞「ダイレクトボタン」（P.16）、「1コマ再生」（P.99）

- ［1コマ消去］画面が表示されます。

2 **［消去］を選択し、を押します。**

- 画像が消去され、メニューが終了します。
- 1コマ消去をやめるときは［中止］を選択してを押すか、再びボタンを押してください。

全コマ消去

カード内のすべての画像を消去します。

トップメニュー ▶ ［モードメニュー］ ▶ ［カード］ ▶ ［全コマ消去］

☞「メニュー」（P.23）

6 再生

1 ［消去］を選択し、OK/MENUを押します。

- すべての画像が消去されます。

フォーマット

カードをフォーマットします。フォーマットとは、カードをこのカメラで書き込みできるように初期化することです。当社製以外のカードやパソコンでフォーマットしたカードを使用する場合は、必ずこのカメラでフォーマットしてください。

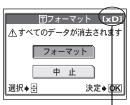
フォーマットするとプロテクトをかけた画像を含むすべてのデータは消去されます。すでに使用しているカードをフォーマットするときは大切なデータが記録されていないことを確認してください。

モードダイヤル　P A S M My SCENE ▶

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［カード］▶［フォーマット］

☞「メニュー」（P.23）

1 ［フォーマット］を選択し、OK/MENUを押します。

- 画面に処理中のバーが表示され、フォーマットされます。

フォーマットしようとしているカードが表示されます。

ご注意

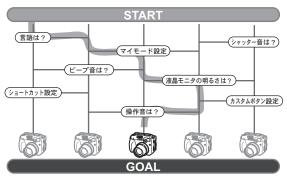
- フォーマット中は絶対に次のことをしないでください。カードが使用できなくなるおそれがあります。

  カードカバーを開ける／電池を取り外す／ACアダプタの抜き差しをする（カメラに電池が入っている、いないにかかわらず絶対にしないでください。）

6 再生

7

設定

撮ってすぐ見る、これがデジタルカメラの大きな特徴であり、便利なところです。
でも、デジタルカメラの便利さはそれだけではありません。カメラを“自分仕様”にカスタマイズすることができる、これもデジタルカメラならではの特徴です。
たとえば、電源を ON にすると自分が撮影した画像が起動画面として表示される…。オリジナル感いっぱいです。
海外の友人が使うときは、言語を切り換えてあげてください。
よく使う機能はメニューで選ぶよりボタンの方が簡単ですよね。だったらカスタムボタンに登録して使いましょう。
これらの機能を活用するかどうかで、ぐーんと使い勝手が違ってくるはず。ぜひ試してみてください。

外見は同じでも“あなただけのカメラ”が完成！

オールリセット

設定した項目をリセットして初期値に戻します。

モードダイヤル P A S M My SCENE ▶

1 ボタンとボタンを同時に3秒以上押します。

●リセットされる項目

機能名	初期設定	参照頁	機能名	初期設定	参照頁
絞り値	F2.8	P.57	リアル表示	オフ	P.62
シャッター速度	1/1000	P.59	画質モード	HQ	P.33
プログラムシフト	リセット	P.57	WB補正	補正なし	P.78
露出補正	0.0	P.73	シーンプリセット	標準	P.80
ヒストグラムターゲット	中央	P.85	液晶モニタ	オン（点灯）	P.20
フラッシュ	オート	P.47	カード切り換え	xD	P.40
フラッシュ補正	0.0	P.51	ドライブ	単写	P.89
AF／／MF	AF	P.46、63、66	BKT設定	±1.0、3枚	P.90
AFターゲット	中央	P.65	アクセサリ	オフ	P.97
測光	ESP	P.69	ISO感度	オート	P.72
AEロック（マルチ測光）	オフ	P.71	フラッシュ選択	内蔵+外部	P.52
セルフタイマー／リモコン	オフ	P.91、94	スレーブ	1	P.55
フルタイムAF	オフ	P.63	スローシンクロ	先幕効果	P.51
AF方式	iESP	P.63	ホワイトバランス	オート	P.74
スチル録音	オフ	P.96	ノイズリダクション	オフ	P.82
ファンクション撮影	オフ	P.92	光学ズーム	ワイド	P.44
ヒストグラム表示	オフ	P.83	デジタルズーム	オフ	P.45
罫線表示	オフ	P.85	シャープネス	±0	P.80

機能名	初期設定	参照頁	機能名	初期設定	参照頁
コントラスト	±0	P.81	TIFF設定	3072 × 2304	P.35
色相	±0	P.81	SHQ・HQ設定	3072 × 2304	P.35
彩度	±0	P.82	SQ1設定	1600 × 1200 標準	P.35
JPEG記録設定	HQ	P.38	SQ2設定	640 × 480 標準	P.35

設定保持

電源を切った後も、変更した設定値を保持するかどうか選択します。設定保持が適用される機能については次頁の表を参照してください。
設定保持の［しない］［する］の設定は、すべてのモードで共通です。いずれかのモードで設定保持を［する］に設定すると、撮影モード、再生モードにかかわらず、適用されます。

しない　電源を切ると変更した設定値は初期設定に戻ります。（初期状態）
例：［画質モード］を［SQ1］に変更しても［設定保持］が［しない］に設定されていると、電源を入れ直したときに初期設定の［HQ］に戻ります。

する　電源を切っても変更した設定値は保持されます。

モードダイヤル P A S M SCENE

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［設定］▶［設定保持］▶［する］／［しない］
☞「メニュー」（P.23）

ご注意

- マイモードの設定およびモードメニューの設定タブの機能（設定保持、、ビープ音など）は、設定保持が［しない］に設定されていても初期設定に戻りません。

●［設定保持：しない］で設定が元に戻る機能とその設定

機能名	初期設定	参照頁
絞り値	F2.8	P.57
シャッター速度	1/1000	P.59
プログラムシフト	リセット	P.57
露出補正	0.0	P.73
フラッシュ	オート	P.47
フラッシュ補正	0.0	P.51
AF／／MF	AF	P.46、63、66
測光	ESP	P.69
セルフタイマー／リモコン	オフ	P.91、94
液晶モニタ*	オン（点灯）	P.20
カード切り換え	xD	P.40
光学ズーム	ワイド	P.44
ドライブ	単写	P.89
BKT設定	±1.0、3枚	P.90
ISO感度	オート	P.72
フラッシュ選択	内蔵+外部	P.52
スレーブ	1	P.55
スローシンクロ	先幕効果	P.51
ノイズリダクション	オフ	P.82
デジタルズーム	オフ	P.45
フルタイムAF	オフ	P.63

機能名	初期設定	参照頁
AF方式	iESP	P.63
スチル録音	オフ	P.96
アクセサリ	オフ	P.97
ファンクション撮影	オフ	P.92
ヒストグラム表示	オフ	P.83
M mode リアル表示	オフ	P.62
画質モード	HQ	P.33
ホワイトバランス	オート	P.74
WB補正	補正なし	P.78
シーンプリセット	標準	P.80
シャープネス	±0	P.80
コントラスト	±0	P.81
色相	±0	P.81
彩度	±0	P.82
JPEG記録設定	HQ	P.38
TIFF設定	3072 × 2304	P.35
SHQ・HQ設定	3072 × 2304	P.35
SQ1設定	1600 × 1200 標準	P.35
SQ2設定	640 × 480 標準	P.35
罫線表示	オフ	P.85

* 撮影モードで電源を入れたときの液晶モニタのオン／オフを設定します。

露出ステップ

露出補正・フラッシュ補正の設定幅を［1/3EV］［1/2EV］から選択できます。設定変更に応じて、露出補正・フラッシュ補正・シャッター速度・絞り値に設定できる値が変わります。

モードダイヤル P A S M SCENE

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［設定］▶［露出ステップ］▶［1/3EV］／［1/2EV］

☞「メニュー」（P.23）

言語切替

液晶モニタのメニュー表示やエラーメッセージを日本語でなく、他の言語にすることができます。日本語に戻すこともできます。

モードダイヤル P A S M SCENE

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［設定］▶［ ］

☞「メニュー」（P.23）

1 表示したい言語を選択し、OK/MENU を押します。

ヒント

表示する言語を増やしたい

→ OLYMPUS Masterを使って、表示する言語を増やすことができます。詳しくはOLYMPUS Masterのオンラインヘルプをご覧ください。

日時設定

日付・時刻を設定します。日時の情報は画像とともに記録され、日時の情報をもとにファイル名が付けられます。

モードダイヤル P A S M SCENE

トップメニュー ▶ [モードメニュー] ▶ [設定] ▶ [日時設定]

☞「メニュー」(P.23)

日時設定
2004 . 01 . 01
年 月 日
00 : 00
選択 設定 決定 OK

日時設定
2004 . 01 . 01
00 : 00
選択 設定 決定 OK

1 日付の順序を、[年-月-日]、[月-日-年]、[日-月-年] から選択し、▷を押します。

- 年の設定に移動します。
- 以下の画面は［年-月-日］に設定した場合です。

2 [年] を△▽を押して設定し、▷で次の項にすすみます。

- ◁を押すと、1つ前の項目に戻ります。
- ［年］の上 2 桁は固定されています。

3 同様の操作を繰り返し、時刻まで入力します。

- カメラの時間表示は24時間表示です。午後2時は14:00と表示されます。

4 OKを押します。

- 0秒の時報に合わせてOKを押すと、正確に時間を合わせられます。

ご注意

- 電池を抜いた状態で約3日放置すると、日時の設定は初期設定に戻ります（当社試験条件による）。また、カメラに電池を入れていた時間が短い場合は、これよりも早く日時の設定が解除されます。大切なものを撮る前には、日時の設定が正しいことを確認してください。
- 日時設定が解除されると、カメラの電源を入れたときに液晶モニタに警告画面が表示されます。☞「エラーコード」(P.174)

マイモード設定

撮影に関する機能を自由に設定し、マイモードとして登録します。撮影時に設定した内容をそのままマイモードとして登録することもできます。マイモードを設定してモードダイヤルをMyにすると、その設定で撮影することができます。☞「マイモード撮影」（P.62）
マイモード設定は、［My1マイモード1］～［My4マイモード4］まで4種類のパターンが設定できます。［My1マイモード1］のみ初期値が設定されています。

●マイモード設定が適応される項目

マイモード設定が可能な項目	初期値	参照頁	マイモード設定が可能な項目	初期値	参照頁
P/A/S/M/SCENE	P	P.13	セルフタイマー／リモコン	オフ	P.91、94
絞り値	F2.8	P.57	デジタルズーム	オフ	P.45
シャッター速度	1/1000	P.59	ノイズリダクション	オフ	P.82
露出補正	0.0	P.73	ファンクション撮影	オフ	P.92
モニタ*1	オン	P.20	アクセサリ	オフ	P.97
ズーム位置*2	27mm	—	スチル録音	オフ	P.96
フラッシュ	オート	P.47	罫線表示	オフ	P.85
フラッシュ補正	0.0	P.51	ヒストグラム表示	オフ	P.83
フラッシュ選択	内蔵＋外部	P.52	mode リアル表示	オフ	P.62
スローシンクロ	先幕効果	P.51	画質モード	HQ	P.33
AF/🌷/MF	AF	P.46、63、66	ホワイトバランス	オート	P.74
AF方式	iESP	P.63	シーンプリセット	標準	P.80
フルタイムAF	オフ	P.63	シャープネス	±0	P.80
ドライブ	単写	P.89	コントラスト	±0	P.81
ISO感度	オート	P.72	色相	±0	P.81
測光	ESP	P.69	彩度	±0	P.82

*1 電源を入れたときの液晶モニタのオン／オフを設定します。
*2 Myモードでのズーム位置の設定は、27mm/35mm/55mm/80mm/110mmの中から選択できます。（表示されるズーム位置は35mmカメラの焦点距離換算値です。）

モードダイヤル P A S M SCENE

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［設定］▶［マイモード設定］

☞「メニュー」（P.23）

1 **マイモード設定の種類を選択し、を押します。**

現設定 現在のカメラの設定を一括して登録します。

クリア 現在登録されている設定を初期値に戻します。

カスタム 1つずつ機能を登録します。

- ［1/2/3/4］画面が表示されます。

2 **設定するマイモードの No. を選択し、を押します。**

●手順1で［現設定］を選択

3 **［登録］を選択し、を押します。**

- 選択したマイモードに現在のカメラの設定が登録されます。

●手順1で［クリア］を選択

3 **［クリア］を選択し、を押します。**

- 選択したマイモードに登録されている設定がクリアされます。
  何も登録されていないとマイモード撮影で選択できません。

●手順1で［カスタム］を選択

3 **マイモードに設定するカスタム設定項目を選択し、Ⓓを押します。**

- カスタム設定項目については、「マイモード設定が適応される項目」(P.124）を参照してください。

カスタム設定項目の設定を変更し、㉂を押します。

- 設定内容が保存されます。
- 必要に応じて他のカスタム設定項目の設定も変更します。

4 **すべての設定が終了したら㉂を押します。**

- 手順2の画面に戻ります。

ご注意

- ［現設定］で設定を登録したときに、ズームの位置がずれる場合があります。ズームの位置は、［マイモード設定］内の［ズーム位置］の5つの設定値のうち、現在使用しているズームの設定値に近い値になります。

音

カメラが発する音の音色や音量を設定します。

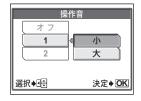
操作音

メニュー選択などボタン操作をしたときに発する操作音の音色を2種類から選びます。さらに、それぞれの音量を［小］［大］から選択できます。音を消す場合は［オフ］に設定してください。

モードダイヤル P A S M My 🎥 SCENE ▶

トップメニュー ▶ [モードメニュー] ▶ [設定] ▶ [音] ▶ [操作音]

☞「メニュー」(P.23)

1 [オフ] または [1] [2] を選択します。[1] [2] の場合は、さらに [小] または [大] を選択して OK/MENU を押します。

ご注意

- [1] [2] を選択してもピントが合ったときの音色は変わりませんが、音量は [オフ] [小] [大] の設定にしたがって変わります。

シャッター音

シャッターボタンを押して撮影したときに発するシャッター音の音色を2種類から選びます。さらに、それぞれの音量を [小] [大] から選択できます。音を消す場合は [オフ] に設定してください。

モードダイヤル P A S M My 🎥 SCENE ▶

トップメニュー ▶ [モードメニュー] ▶ [設定] ▶ [音] ▶ [シャッタ音]

☞「メニュー」(P.23)

1 [オフ] または [1] [2] を選択します。[1] [2] の場合は、さらに [小] または [大] を選択して OK/MENU を押します。

ビープ音

カメラが発する警告音の音量を［小］［大］から選択できます。音を消す場合は［オフ］に設定してください。

モードダイヤル P A S M SCENE

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［設定］▶［音］▶［ビープ音］

☞「メニュー」（P.23）

1 ［オフ］または［小］［大］を選択して OK を押します。

再生音量

静止画の音声メモやムービー再生時の音量、電源を入れたり切ったりするときの音量を設定します。5段階の音量が設定できます。

モードダイヤル P A S M SCENE

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［設定］▶［音］▶［再生音量］

☞「メニュー」（P.23）

1 △▽を押して音量を設定し、OK を押します。

ここに設定すると音声は再生されません。

PW ON/OFF設定

電源を入れたとき［PW ON設定］と切ったとき［PW OFF設定］に表示される画面と音をそれぞれ設定します。自分で画像を登録して設定することもできます。☞「画面登録」（P.129）

モードダイヤル P A S M My SCENE ▶

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［設定］▶［PW ON/OFF設定］▶［PW ON設定］／［PW OFF設定］ ☞「メニュー」（P.23）

1 ［画面］から［オフ］または［1］［2］を選択し、◁を押します。

オフ　画面表示なし（初期設定）

1　画面表示あり

2　登録した画像。登録されていないと、何も表示されません。

PW ON設定の時

2 ［音］から［オフ］または［1］［2］を選択し、◁を押します。

オフ　無音（初期設定）

1／2　音あり

- 音量は再生音量で設定した音量です。☞「再生音量」（P.128）

PW ON設定の時

3 ㊝を押します。

7 設定

画面登録

電源を入れたとき［PW ON］と切ったとき［PW OFF］に表示される画面をそれぞれ登録します。カードに保存されている画像を登録します。登録した画面を表示するときは［PW ON設定］または［PW OFF設定］を行います。☞「PW ON/OFF設定」（P.129）

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［設定］▶［PW ON/OFF設定］▶［画面登録］▶［PW ON］／［PW OFF］ ☞「メニュー」（P.23）

- すでに画像が登録されている場合は、登録済みの画像を解除して新たに画像を登録するかどうか確認するメッセージが表示されます。画面を登録する場合は［解除する］を選択し、OK/MENUを押します。［解除しない］を選ぶとメニューに戻ります。

1 登録する画像を選択し、OK/MENUを押します。

2 ［決定］を選択し、OK/MENUを押します。

- 画面登録され、メニューに戻ります。

PW ON画面に登録するとき

ご注意

- このカメラで正しく再生できない画像は、画面登録できません。

モニタ調整

液晶モニタの明るさを見やすいように調整します。

モードダイヤル P A S M My 動画 SCENE 再生

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［設定］▶［モニタ調整］

☞「メニュー」（P.23）

1 液晶モニタを見ながら明るさを調整し、設定が決まったらOK/MENUを押します。

- △を押すと明るくなり、▽を押すと暗くなります。

レックビュー

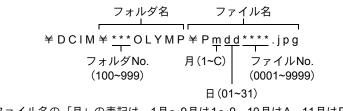
撮影した直後に画像を液晶モニタに表示するかどうか設定します。

オフ 記録中の画像は表示されません。次の撮影のために被写体を追いながら撮影する場合に便利です。
オート 撮影した画像をカードに記録中に表示します。撮影した画像の簡単なチェックに便利です。レックビュー中でもすぐに次の撮影に入れます。
3秒／5秒／10秒 撮影した画像を表示する時間を指定します。

モードダイヤル P A S M MY SCENE ▶

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［設定］▶［レックビュー］▶［オフ］／［オート］／［3秒］／［5秒］／［10秒］
☞「メニュー」（P.23）

ファイル名メモリー

記録される画像には、ファイル名とそのファイルが入るフォルダ名がカメラ内部で自動的に生成されます。ファイル名とフォルダ名はそれぞれファイルNo.（0001~9999）、フォルダNo.（100~999）を含み、以下のように付けられます。

ファイル名の「月」の表記は、1月～9月は1～9、10月はA、11月はB、12月はCとなります。

フォルダNo.とファイルNo.の付け方は、［リセット］［オート］の2種類あります。パソコンで画像を取り込む際に、扱いやすい方をお選びください。

リセット カードを入れ換えたときにフォルダNo.、ファイルNo.が両方ともリセットされます。フォルダNo.は「No.100」に、ファイルNo.は「No.0001」に戻ります。カード別に画像を管理するときに便利です。
オート カードを入れ換えても、フォルダNo.、ファイルNo.とも前のカードから継続されます。複数のカードを管理するときでも、ファイル名が重複することがありません。すべての画像を通し番号で管理するのに便利です。

7 設定

モードダイヤル P A S M My SCENE

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［設定］▶［ファイル名メモリー］▶［リセット］／［オート］

☞「メニュー」（P.23）

ご注意

- ファイルNo.が9999を超えるとファイルNo.は0001に戻り、フォルダNo.が変わります。
- 最大のフォルダNo.999、ファイルNo.9999に達すると、カードに残量があっても撮影可能枚数が0になり撮影できません。新しいカードに取り換えてください。

ピクセルマッピング

CCDと画像処理機能のチェックを同時に行います。この機能は、すでに工場出荷時に調整済みのため、お買い上げ後すぐに調整する必要はありません。調整は、年に一度を目安とし、最適な効果を得るため、撮影・再生直後より1分以上時間を空けて実行します。

モードダイヤル P A S M My SCENE

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［設定］▶［ピクセルマッピング］

☞「メニュー」（P.23）

1 ［スタート］が表示されたら、OK/MENUを押します。

- ピクセルマッピング実行中のバーが表示されます。終了するとモードメニューに戻ります。

ご注意

- 処理中にカメラの電源を切ってしまった場合は、必ずもう一度このチェックを行ってください。

m/ft設定

マニュアルフォーカスモード時の画面に表示される距離の単位を選択します。

m　長い距離はメートル、短い距離はセンチで表示します。
ft　長い距離はフィート、短い距離はインチで表示します。

モードダイヤル P A S M My SCENE ▶

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［設定］▶［m/ft設定］▶［m］／［ft］

☞「メニュー」（P.23）

スーパーコンパネ

撮影モード時、液晶モニタにコントロールパネルの表示内容をより見やすく表示します。

モードダイヤル P A S M My SCENE ▶

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［設定］▶［スーパーコンパネ］▶［オン］／［オフ］

☞「メニュー」（P.23）

ヒント

- 〔IOI〕を押してスーパーコンパネ表示を切り換えます。☞「ダイレクトボタン」（P.16）

ご注意

- マクロ撮影やデジタルズームなど、液晶モニタを使って撮影する機能に設定されているときは、液晶モニタに被写体が表示されます。

USB

付属のUSBケーブルをカメラに接続する前に、カメラに接続する対象をパソコン、またはプリンタのどちらかに設定します。

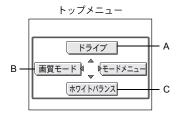
PC USB ケーブルでカメラとパソコンを接続して、パソコンに画像を転送するときに使用します。☞「カメラをパソコンに接続する」(P.164)

プリント USB ケーブルでカメラと PictBridge 対応プリンタを接続するときに選択します。パソコンを使わずに直接画像をプリントできます。「カメラをプリンタに接続する」(P.142)

モードダイヤル P A S M My SCENE ▶

トップメニュー ▶ [モードメニュー] ▶ [設定] ▶ [USB] ▶ [PC] ／ [プリント]
☞「メニュー」(P.23)

ショートカット設定

静止画撮影モード（**P**/**A**/**S**/**M**/My/SCENE）のトップメニューのショートカットメニュー（A、B、C）を登録します。
使用頻度の高い機能をショートカットメニューとして登録しておくと、ダイレクトにその機能の設定画面までジャンプできるので便利です。

初期値
A: ドライブ
B: 画質モード
C: ホワイトバランス

ショートカットメニューに登録できる機能	参照頁	ショートカットメニューに登録できる機能	参照頁
ドライブ	P.89	罫線表示	P.85
ISO感度	P.72	ヒストグラム表示	P.83
フラッシュ	P.47	mode リアル表示	P.62
AF/🌷/MF	P.46、63、66	My 1/2/3/4	P.62

7 設定

ショートカットメニューに登録できる機能	参照頁	ショートカットメニューに登録できる機能	参照頁
AF方式	P.63	SCENE	P.42
フルタイムAF	P.63	画質モード	P.33
測光	P.69	ホワイトバランス	P.74
セルフタイマー／リモコン	P.91、94	シーンプリセット	P.80
デジタルズーム	P.45	シャープネス	P.80
ノイズリダクション	P.82	コントラスト	P.81
ファンクション撮影	P.92	色相	P.81
アクセサリ	P.97	彩度	P.82
スチル録音	P.96		

ショートカットメニューを登録する

トップメニュー A、B、Cの位置のショートカットメニューを登録します。

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［設定］▶［ショートカット設定］

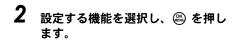
☞「メニュー」（P.23）

1 ［A］または［B］［C］を選択し、▷を押します。

2 設定する機能を選択し、OK/MENUを押します。

ご注意

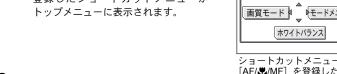
- 各モードで異なった登録をすることはできません。

7 設定

ショートカットメニューを使う

設定したショートカットメニューを使用します。

1 **Ⓞを押してトップメニューを表示します。**

- 登録したショートカットメニューがトップメニューに表示されます。

ショートカットメニュー Aに［AF/🌷/MF］を登録した場合

2 **ショートカットメニューを選択します。**

- 設定した機能の設定画面までジャンプします。

カスタムボタン設定

カスタムボタンに使用頻度の高い機能を登録します。カスタムボタンに登録すると、メニューから画面を表示するのではなく、カスタムボタンを押して直接、設定画面を表示することができます。
設定画面では、コントロールダイヤルで設定項目を選択してⓄを押すと、それぞれの詳細設定画面に進みます。そこでさらに、十字ボタンやⓄを押して詳細設定をすることができます。

カスタムボタンに設定できる機能	設定内容	参照頁
ドライブ	単写、高速連写、連写、AF連写、BKT	P.89
ISO感度	オート、80～400	P.72
フラッシュ選択	内蔵＋外部、外部、スレーブ	P.52
スローシンクロ	先幕効果、赤目・先幕効果、後幕効果	P.51

カスタムボタンに設定できる機能	設定内容	参照頁
フルタイムAF	オフ、オン	P.63
デジタルズーム	オフ、オン	P.45
ノイズリダクション	オフ、オン	P.82
ファンクション撮影	オフ、パノラマ、モノクロ、セピア	P.92
スチル録音	オフ、オン	P.96
ムービー録音	オフ、オン	P.97
罫線表示	オフ、1、2	P.85
ヒストグラム表示	オフ、±オン、オン、ダイレクト	P.83
マイモード選択	My1～My4	P.62
画質モード	RAW、TIFF、SHQ、HQ、SQ1、SQ2	P.33
ホワイトバランス	オート、プリセット1、プリセット2、カスタム、ワンタッチ	P.74
シーンプリセット	標準、ポートレート、風景、夜景	P.80
シャープネス	-5～±0～+5	P.80
コントラスト	-5～±0～+5	P.81
色相	-5～±0～+5	P.81
彩度	-5～±0～+5	P.82

カスタムボタンに機能を登録する

モードダイヤル P A S M My SCENE ▶

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［設定］▶［カスタムボタン設定］

☞「メニュー」（P.23）

1 設定する機能を選択し、OK を押します。

ご注意

- 各モードで異なった登録をすることはできません。

7 設定

カスタムボタンを使う

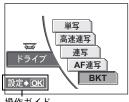
モードダイヤル P A S M My SCENE

1 **ボタンを押します。**

- 登録した機能がメニュー表示されます。

2 **コントロールダイヤルを回して設定します。**

- ボタンはダイレクトボタンと同じように使うことができます。☞「ダイレクトボタン」（P.16）
- 画面下に操作ガイドが表示される場合は、さらに詳細な設定が可能です。

例）［ドライブ］を登録した場合

ダイヤル

コントロールダイヤルやダイレクトボタンの働きを変更することができます。

標準 ダイレクトボタンを1度押すと、指をはなしてもメニューが表示され続けます。コントロールダイヤルを回して設定します。もう一度ダイレクトボタンを押すと撮影画面に戻ります。

カスタム1 ダイレクトボタンを繰り返し押すと、設定値が切り替わります。ダイレクトボタンだけで設定できます。何も操作せずに3秒経過すると、メニュー表示は自動的に消えます。

カスタム2 ダイレクトボタンを押している間だけメニューが表示されます。ダイレクトボタンを押しながらコントロールダイヤルを回して設定します。

モードダイヤル P A S M [My] [ムービー] SCENE [▶]

トップメニュー ▶ [モードメニュー] ▶ [設定] ▶ [ダイヤル] ▶ [標準] ／ [カスタム1] ／ [カスタム2]

☞「メニュー」(P.23)

ご注意

- [カスタム1] を選択した場合、以下の機能は十字ボタンで操作します。
  - 露出補正 (**P**、**A**、**S**、**SCENE**、[ムービー]モード)：◁▷ ☞「露出補正」(P.73)
  - シャッター速度 (**S**、**M**モード)：△▽ ☞「シャッター優先撮影」(P.59)
  - 絞り値 (**A**、**M**モード)：**A**モード△▽、**M**モード◁▷ ☞「絞り優先撮影」(P.57)
- コントロールダイヤルと十字ボタンの動作は、ダイヤルの設定にかかわらず撮影モードによって異なります。
- [カスタム 1] を設定したことによりダイレクトボタンで設定できなくなった機能は、メニューから設定することができます。

マイモード／SCENE選択画面

モードダイヤルを[My]または**SCENE**に合わせたとき、自動的にマイモード選択画面またはSCENE選択画面を液晶モニタに表示するかどうか設定します。マイモードやSCENEをその都度変更しながら撮影する場合に便利です。

オン　モードダイヤルを[My]に合わせると、マイモード選択画面が表示されます。**SCENE**に合わせると、SCENE選択画面が表示されます。

オフ　モードダイヤルを[My]または**SCENE**に合わせても、液晶モニタにマイモード選択画面またはSCENE選択画面は表示されません。

モードダイヤル P A S M [My] SCENE [▶]

トップメニュー ▶ [モードメニュー] ▶ [設定] ▶ [[My]／SCENE選択画面] ▶ [オン] ／ [オフ]

☞「メニュー」(P.23)

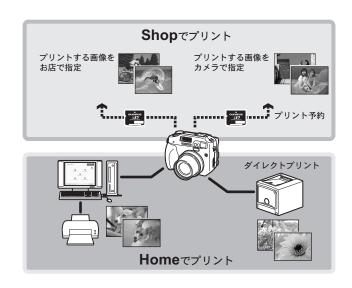
ヒント

- マイモードとSCENEの設定を変更したい場合は、メニューからも設定することができます。☞「マイモード撮影」(P.62)、「撮影シーンに合わせた撮影」(P.42)

7 設定

8

プリントする

撮影した画像をプリントしましょう。
お店でプリントする方法と、自分でプリンタを使ってプリントする方法があります。
お店でプリントする時は、カードにプリント予約をしておくと便利です。プリント予約は、あらかじめプリントする画像や枚数をカードに設定しておく方法です。
自分でプリントする時は、デジタルカメラを専用プリンタに直接接続して印刷する方法（ダイレクトプリント）と、パソコンに取り込んでパソコンに接続されたプリンタで印刷する方法があります。

ダイレクトプリント（PictBridge）

ダイレクトプリントについて

カメラをPictBridge対応プリンタにUSBケーブルで接続して、撮影した画像を直接プリントすることができます。プリントする画像の選択やプリント枚数の設定は、カメラとプリンタを接続した状態で、カメラの液晶モニタを見ながら操作します。また、プリント予約の設定内容を使って、プリントすることもできます。☞「プリント予約（DPOF）」（P.151）
お使いのプリンタがPictBridgeに対応しているかどうかは、プリンタの取扱説明書でお確かめください。

PictBridgeとは…異なるメーカーのプリンタとデジタルカメラを接続し、画像を直接プリントすることを目的とした規格です。

標準設定とは…PictBridge対応プリンタには、それぞれプリント条件の標準設定があります。各設定画面（P.143～147）で［凸標準設定］を選択すると、この設定にしたがってプリントされます。標準設定の内容については、お使いのプリンタの取扱説明書をご覧になるか、プリンタメーカーにおたずねください。

ヒント

- プリントできる用紙の種類、用紙やインクカセットの取り付け方については、お使いのプリンタの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- 電源にはACアダプタ（別売）のご使用をおすすめします。電池をご使用の場合は、十分に充電された電池をお使いください。プリンタと通信中にカメラが動作を停止すると、プリンタが誤動作したり、画像データを壊すことがあります。
- RAWデータおよびムービーはプリントできません。
- USB ケーブルを取り付けているときは、カメラはスリープモード（待機状態）になりません。

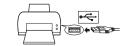
カメラをプリンタに接続する

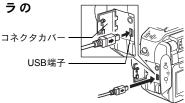
付属のUSBケーブルで、カメラをPictBridge対応プリンタに接続します。

1 カメラの［USB］を［プリント］に設定します。

☞「USB」（P.134）

- プリントしたい画像を記録してあるカードをあらかじめ選択しておいてください。

2 プリンタの電源を入れて、プリンタのUSBポートに、カメラに付属の専用USBケーブルを差し込みます。

- プリンタの電源の入れ方およびUSBポートの位置は、お使いのプリンタの取扱説明書でご確認ください。

3 専用USBケーブルをカメラのUSB端子に差し込みます。

4 カメラの電源を入れます。

- カメラの液晶モニタが点灯し、［しばらくお待ちください］と表示された後、プリントモード選択画面が表示されます。プリントの設定はカメラの液晶モニタを見ながら操作します。☞「プリントする」（P.143）に進みます。

ご注意

- ［USB］が［PC］に設定されていると、プリントモード選択画面は表示されません。USBケーブルを抜いて、手順1からやり直してください。

プリントする

カメラをPictBridge対応プリンタに接続すると、カメラの液晶モニタにプリントモード選択画面が表示されます。この画面でプリントモードを選択して、プリントします。選択できるプリントモードは、以下のとおりです。

プリントモード選択画面

プリント	選択した画像をプリントします。
全コマプリント	カードの中の全画像をプリントします。
マルチプリント	1枚の用紙に同じ画像を複数レイアウトして、プリントします。
全コマインデックス	カードの中の全画像を一覧にして、インデックス形式でプリントします。
予約プリント	プリント予約の内容にしたがってプリントします。あらかじめプリント予約された画像が無いときは、選択できません。☞「プリント予約（DPOF）」（P.151）

プリントモードや各設定の内容について

使用できるプリントモード、用紙サイズなどの設定項目は、お使いのプリンタによって選択できる項目が異なる場合があります。詳しくは、プリンタの取扱説明書をご覧ください。

簡単なプリント方法

一番簡単なプリント方法を使って、1枚プリントしてみましょう。選択した画像が1枚、お使いのプリンタの標準的な設定でプリントされます。日付やファイル名はプリントされません。

プリントモード選択画面 ▶ [プリント] ☞「メニュー」（P.23）

1 サイズ、フチの設定は何も変更せずに、㊍を押します。

- プリント用紙設定画面が表示されないときは、手順2に進みます。
- 用紙サイズとフチの設定については☞「用紙サイズとフチの設定」（P.144）を参照してください。

8 プリントする

2 **◁▷、またはコントロールダイヤルでプリントする画像を選択し、OK/MENUを押します。**

- プリント画面が表示されます。

3 **［プリント］を選択し、OK/MENUを押します。**

- プリントが開始されます。
- ［中止］を選択してOK/MENUを押すとプリントモード選択画面に戻ります。
- プリントが終了すると手順2に戻ります。手順2、3を繰り返して、プリントを続けることができます。

●用紙サイズとフチの設定

プリントする用紙サイズとフチの設定は、プリント用紙設定画面で設定します。

用紙サイズ　お使いのプリンタで使用できる用紙サイズから選択できます。
フチ　フチの有無を選択できます。マルチプリントモードの場合、フチの選択はありません。
　有り（□）　用紙の周辺に余白をつけてプリントします。
　無し（□）　用紙いっぱいにプリントします。
分割数　マルチプリントモードの場合のみ選択できます。分割数はお使いのプリンタの種類によって異なります。

1 **プリント用紙設定画面で用紙サイズを選択し、▷を押します。**

2 **フチの有無を選択し、OK/MENUを押します。**
マルチモードの場合は、分割数を選択し、OK/MENUを押します。

ご注意

- プリント用紙設定画面が表示されない場合、用紙サイズとフチ、または分割数の設定は標準設定になります。

プリントモードを選択してプリントする

プリントモードは、プリントモード選択画面で選択します。選択したプリントモードによって、設定できる内容が一部異なります。

プリントモード選択画面 ▶［プリント］／［全コマプリント］／［マルチプリント］／［全コマインデックス］／［予約プリント］

☞「メニュー」（P.23）

1 プリント用紙設定画面で設定したい項目を選択し、OK/MENU を押します。

☞「用紙サイズとフチの設定」（P.144）

- マルチプリントモードの場合、フチの有無ではなく分割数の設定を選択できます。
- 全コマインデックスモードの場合、フチの選択はありません。
- プリント用紙設定画面が表示されないときは［標準設定］が適用されます。

プリントモード／マルチプリントモードの場合→手順２へ進みます。
全コマプリントモードの場合→手順４へ進みます。
全コマインデックスモード／予約プリントモードの場合→手順6へ進みます。

2 ◁▷、またはコントロールダイヤルでプリントする画像を選択し、OK/MENU を押します。

- ズームレバーをW側に回すと、インデックス表示されます。インデックスから画像を選択することもできます。

3 予約方法を選択します。

1枚予約　選択している画像を標準設定で予約します。プリント枚数は1枚です。

詳細予約　選択している画像のプリント枚数を設定してプリント予約します。日付やファイル名の付加、画像のトリミングなどの設定もできます。

●1枚予約する

① を押します。

- が表示されている画像のときにを押すと、予約が解除されます。

予約マークが表示されます。

② 手順5へ進みます。

●詳細予約する

① を押します。

② 設定したいプリント情報設定項目を選択してを押し、それぞれの項目を設定します。

プリント枚数 プリント枚数を設定します。枚数は10枚まで設定できます。

日付（） ［有り］を選択すると、画像に日付がプリントされます。

ファイル名（） ［有り］を選択すると、画像にファイル名がプリントされます。

トリミング（） 撮影した画像の一部を拡大してプリントします。
「トリミングするには」（P.148）

- マルチプリントモードでは、［日付］［ファイル名］の設定はできません。

③ プリント情報の設定が終了したら、を押します。

- 手順2の画面に戻ります。
- 複数の画像をまとめてプリントまたはマルチプリントするときは、手順2と手順3の［1枚予約］と［詳細予約］を繰り返して、プリントする画像をすべて選択します。
- マルチプリントモードでは、が表示されます。

設定状態が表示されます。
④ 手順5へ進みます。

8 プリントする

4 設定したいプリント詳細情報を選択して㋩を押し、それぞれの項目を設定します。

- プリント情報設定ができないプリンタの場合は、プリント情報設定画面が表示されず手順6へ進みます。
- プリント枚数は各1枚です。

日付（◷）　［有り］を選択すると、画像に日付がプリントされます。

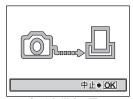
ファイル名（FILE）　［有り］を選択すると、画像にファイル名がプリントされます。

5 ㊙を押します。

6 ［プリント］を選択し、㊙を押します。

- プリントを開始します。
- プリントが終了すると、プリントモード選択画面に戻ります。
  ☞「ダイレクトプリントを終了する」（P.149）

●プリントを途中で中止するには

プリンタへデータを転送中に㊙を押すと、プリント続行、または中止の選択画面が表示されます。プリントを中止するには、［中止］を選択し、㊙を押します。

データ転送中の画面

トリミングするには

プリントモード／マルチプリントモードの詳細予約でトリミングを設定するときは、以下の手順で行います。

1 十字ボタンとズームレバーを使って、トリミングの位置とサイズを決めます。

- △▽◁▷を押してトリミングする位置を移動します。
- ズームレバーをW側またはT側に動かして、トリミングのサイズを横長小、横長大、縦長小、縦長大から選びます。
- コントロールダイヤルでトリミング枠の縦と横を選択します。
- 画像サイズが3072 × 2048の場合は、3:2のトリミングサイズが選択できます。
- すでにトリミングが設定されている場合は、トリミング画面が表示されますので、［再設定］を選択し、OKを押します。

2 OKを押します。

3 ［決定］を選択し、OKを押します。

決定	設定されているトリミングを保存します。
再設定	再度トリミングをし直します。→手順1に戻ります。
解除	設定されているトリミングを解除します。

- OKを押すとトリミングが設定され、プリント情報設定画面に戻ります。

ご注意

- プリントされる画像の大きさは、プリンタの設定によります。トリミングの範囲が小さいと、プリントするときの拡大率が大きくなるため、プリント画像は粗くなります。
- 詳細な拡大プリントを行う場合は、TIFF、SHQ、HQの画質モードでの撮影をおすすめします。

ダイレクトプリントを終了する

プリントが終了したら、カメラをプリンタから取り外します。

1 プリントモード選択画面で、◁を押します。

- ［電源オフしてください］というメッセージが表示されます。

2 カメラの電源を切ります。

3 カメラからUSBケーブルを抜きます。

4 プリンタからUSBケーブルを抜きます。

エラーコードが表示されたときは

ダイレクトプリント設定中およびプリント中にカメラの液晶モニタにエラーコードが表示されたときは、以下のように対応してください。
対処方法については、お使いのプリンタの取扱説明書もご覧ください。

液晶モニタ表示	原因	こうしましょう
接続されていません	カメラがプリンタに正しく接続されていません。	カメラとプリンタを正しく接続し直してください。
用紙がありません	用紙切れです。	用紙をプリンタに補充してください。
インクがありません	インク切れです。	インクをプリンタに補充してください。
紙づまりです	用紙が詰まっています。	詰まった用紙を取り除いてください。
プリンタの設定が変更されました	プリンタ側で用紙カセットを取り出すなどの操作をした。	プリントの設定中には、プリンタの操作はしないでください。
プリンタエラーです	エラーが発生しました。	カメラとプリンタの電源を切り、プリンタの状態を確認してから再度電源を入れ直してください。

ヒント

- その他のエラーコードが表示されたときは、「エラーコード」（P.174）をご確認ください。

プリント予約（DPOF）

プリント予約とは

プリント予約とは、カード内の画像にプリントする枚数や日付を印刷する指定を記憶させることです。
プリント予約をすると、DPOF対応のプリンタやDPOF対応のプリントショップで簡単にプリントすることができます。DPOFとは、デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録するための規格です。プリントショップや家庭でのプリントアウトで自動プリントが可能なように、プリントしたい画像や枚数などの指定をカードに記録します。

プリント予約した画像は以下の方法でプリントできます。

DPOF対応のプリントショップでプリントする

予約されている内容にしたがってプリントできます。

DPOF対応のプリンタでプリントする

パソコンを使わずに、専用プリンタから直接プリントできます。詳しくはお使いのプリンタの取扱説明書をご覧ください。PCカードアダプタが必要な場合もあります。

DPOFを使用せずにプリントサービスを利用される方へ

プリントショップなどのプリントサービスをご利用になる場合は、プリントする画像は必ずファイル番号で指定してください。コマ番号で指定すると間違った画像がプリントされる場合があります。
（例）　FILE 100–0016
フォルダの通し番号　画像の通し番号

ヒント

撮影時の画質モードとプリントの関係

パソコンやプリンタの解像度には一般的に1インチあたりの点（ピクセル）の数が用いられ、dpi（dot per inch）で示されます。同じ画像をプリントしても、プリント時のdpiの値を大きくすることでより鮮明に印刷することができますが、撮影された画像のピクセル数は変わらないため、実際に印刷されるサイズは小さくなります。その画像を拡大してプリントすることもできますが、画質は粗くなります。
プリントすることを前提として撮影するときや、大きいサイズでプリントしたいときは、撮影時の画質モードをできるだけ高いものに設定することをおすすめします。☞「画質について」（P.33）

ご注意

- 他の DPOF 機器で設定された DPOF 予約内容をこのカメラで変更することはできません。予約した機器で変更してください。
- 他の機器で DPOF 予約されているファイルがある場合、このカメラで新たにDPOF予約を行うと、以前に予約した内容は消去されます。
- カードに空き容量が少ないと予約できない場合があります。[カード残量がありません] と表示されます。
- DPOF予約で予約できる枚数は、1枚のカードにつき999枚までです。
- [この画像は再生できません] と表示される画像でも、プリント予約を設定できることがあります。その場合、1 コマ再生だとプリント予約マーク（凸）は表示されません。複数の画像を表示（インデックス表示）しているときは、凸マークが表示され、プリント予約を確認できます。
- プリンタまたはプリントショップにより、一部機能が制限されることがあります。
- [TIFF] で記録された画像は、プリントできない場合があります。
- [RAW] で記録された画像は、DPOF予約できません。
- プリント予約は、カードに予約を記録するときに時間がかかることがあります。

全コマ予約／1コマ予約

プリント予約は、全コマ予約と1コマ予約のどちらかを選択することができます。

全コマ予約　カードの中の全画像をプリント予約します。プリントする枚数や撮影日時のプリントを指定することができます。

1コマ予約　選択した画像のみをプリント予約します。プリントする画像を表示してプリント枚数や撮影日時のプリント、トリミングを設定することができます。

1 凸ボタンを押します。

☞「ダイレクトボタン」（P.16）

- のついた画像はプリント予約できません。
- すでにプリント予約した画像がある場合は、その予約設定を残すか解除するかを選択する画面が表示されます。

8 プリントする

2 ［全コマ予約］または［1コマ予約］を選択し、OKを押します。

- **1コマ予約の場合**→手順3へ進みます。
- **全コマ予約の場合**→手順5へ進みます。

3 プリント予約したいコマを十字ボタンまたはコントロールダイヤルを使って選択し、OKを押します。

4 プリント予約したい内容に応じて、項目を選択します。

1コマ予約メニュー画面

詳細予約 プリント枚数、情報プリント、トリミングを設定します。予約が設定され、手順5へ進みます。

1枚予約 プリント枚数が1枚に設定され、手順3の画面に戻ります。情報プリント、トリミングの設定はありません。
☞「1コマ予約を終了するには」（P.154）

予約解除 表示されている画像のプリント予約を解除します。
☞「プリント予約の解除」（P.156）

予約終了 プリント予約を終了します。
☞「1コマ予約を終了するには」（P.154）

5 ［プリント枚数］［情報プリント］［トリミング］から選択し、▷を押します。

- 全コマ予約の場合、［トリミング］は設定できません。

1コマ予約画面

6 プリント枚数、情報プリント、トリミングの設定を行います。

●プリント枚数を設定するには

プリント枚数を設定し、OK/MENUを押します。

△：枚数が増えます。

▽：枚数が減ります。

●情報プリントを設定するには

［無し］［日付］［時刻］を選択し、OK/MENUを押します。

無し　画像のみプリントされます。

日付　プリント予約したすべての画像に撮影年月日が付加されてプリントされます。

時刻　プリント予約したすべての画像に撮影時刻が付加されてプリントされます。

●トリミングをするには

☞「トリミング」（P.155）

7 プリント枚数、情報プリント、トリミングの設定後、OK/MENUを押すと、プリント予約が設定されます。

- 表示されている画像に 凸 マークが表示されます。
- 全コマ予約の場合は、再生画面に戻ります。
- 1コマ予約の場合は、手順3の画面に戻ります。他の画面を続けてプリント予約するときは、手順3～7を繰り返します。

●1コマ予約を終了するには

1コマ予約メニュー画面で［予約終了］を選択すると、カードプリント予約画面に戻ります。画面下の操作ガイドにしたがって再生画面に戻ってください。

トリミング

撮影した画像の一部を拡大してプリントします。

1 1コマ予約画面で［トリミング］を選択し、▷を押します。

☞「全コマ予約／1コマ予約」（P.152）

- すでにトリミングが設定されている場合は、トリミング画面が表示されますので、［再設定］を選択し、OK/MENUを押します。

2 十字ボタン、ズームレバー、コントロールダイヤルを使って、トリミングの位置とサイズを決めます。

- △▽◁▷ を押してトリミングする位置を移動します。
- ズームレバーをW側またはT側に動かして、トリミングのサイズを横長小、横長大、縦長小、縦長大から選びます。
- コントロールダイヤルでトリミング枠の縦と横を選択します。
- 画像サイズが3072 × 2048の場合は、3:2のトリミングサイズが選択できます。

3 OK/MENUを押します。

4 ［決定］を選択し、OK/MENUを押します。

決定　設定されているトリミングを保存します。1コマ予約画面に戻ります。

再設定　再度トリミングをし直します。→手順2に戻ります。

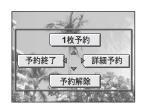
中止　設定されているトリミングを解除します。1コマ予約画面に戻ります。

8 プリントする

5 OKボタンを押すとプリント予約が設定されて画像の選択に戻りますので、再びOKボタンを押します。

6 ◁を押して［予約終了］を選択します。

- カードプリント予約画面に戻りますので、画面下の操作ガイドにしたがって再生画面に戻ってください。

ご注意

- プリントされる画像の大きさは、プリンタの設定によります。トリミングの範囲が小さいと、プリントするときの拡大率が大きくなるため、プリント画像は粗くなります。
- 詳細な拡大プリントを行う場合は、TIFF、SHQ、HQの画質モードでの撮影をおすすめします。
- 元の画像はトリミングされていません。トリミングに対応していないプリンタでは、通常のプリントになります。
- トリミングを設定した画像を回転再生しないでください。トリミングで指定した範囲が変わります。

プリント予約の解除

カード内の画像のプリント予約を解除します。
すべてのプリント予約を解除する方法と、選んだ画像のプリント予約だけを解除する方法があります。

●すべての予約の解除

1 プリントボタンを押します。

☞「ダイレクトボタン」（P.16）

2 ［解除する］を選択し、OKボタンを押します。

- プリント予約した画像がない場合は、この画面は表示されません。
- ◁を押すと再生画面に戻ります。

●1コマ予約の解除

1 **ボタンを押します。**

☞「ダイレクトボタン」（P.16）

2 **［解除しない］を選択し、㊙を押します。**

- プリント予約した画像がない場合は、この画面は表示されません。

3 **［1コマ予約］を選択し、㊙を押します。**

4 **プリント予約を解除したいコマを十字ボタンまたはコントロールダイヤルを使って選択し、㊙を押します。**

- 1コマ予約メニュー画面が表示されます。

5 **［予約解除］を選択します。**

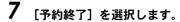
- プリント予約が解除され、手順4の画面に戻ります。

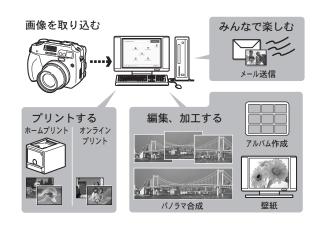
6 **他に予約解除する画面がない場合は、㊙を押します。**

- 1コマ予約メニュー画面が表示されます。

7 **［予約終了］を選択します。**

- カードプリント予約画面に戻りますので、画面下の操作ガイドにしたがって再生画面に戻ってください。

9

パソコン接続

撮影した画像をパソコンで利用してみましょう。
お好みの画像を選んでプリントするだけではありません。アプリケーションソフトを使って取り込んだ画像を日付別、目的別などに整理する、画像を編集・加工する、さらにインターネットを利用し、メールに画像を添付して送るなど、カメラの楽しみがどんどん広がります。
パソコンならではの画像の表示方法もありますね。スライドショーやカメラアルバムを作ったり、デスクトップの壁紙にして楽しんだりできます。

操作の流れ

カメラをパソコンにUSBケーブルで接続して、カメラのカードに保存されている画像を付属のOLYMPUS Masterを使ってパソコンに取り込みます。以下のものを準備して操作をはじめてください。

OLYMPUS Master CD-ROM　USBケーブル

USBポートを装備したパソコン

ヒント

パソコンに取り込んだ画像を活用するには

→ グラフィックソフトを使用して画像を処理する場合は、必ずパソコンに取り込んでから行ってください。ソフトウェアによってはファイル（画像）がカードの中にある状態で画像処理（画像の回転など）を行うと、ファイルが壊れる可能性があります。

USB接続でカメラのデータを取り込めないとき

→ PCカードアダプタ（別売）をお使いいただくと画像を取り込める場合もあります。詳しくは裏表紙に記載の「ホームページによる情報提供について」をご参照ください。

ご注意

- カメラをパソコンに接続して使用するときは、AC アダプタ（別売）のご使用をおすすめします。電池をご使用の場合は残量をご確認ください。パソコンとの接続中（通信中）は、自動的に電源が切れません。電池の残量がなくなると、カメラは途中で動作を停止します。カメラが動作を停止すると、パソコンが誤動作したり、パソコンとカメラの通信中の場合は画像データ（ファイル）を壊すことがあります。
- 誤動作の原因になりますので、パソコンとの接続中はカメラの電源を切らないでください。
- USB ハブを経由してカメラを接続すると、ハブとパソコン間の相性によって動作が不安定になることがあります。この場合は、ハブを使用しないでパソコンとカメラを直接接続してください。

付属のOLYMPUS Masterを使う

画像の編集・管理を行うために付属のCD-ROMからOLYMPUS Masterをインストールしましょう。

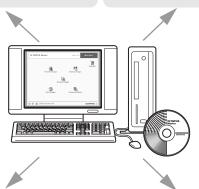
OLYMPUS Masterとは

OLYMPUS Masterはデジタルカメラで撮影した画像をパソコンで楽しむためのアプリケーションソフトウェアです。パソコンにインストールすると、以下のようなことができます。

画像を整理・管理する
カレンダー形式で表示して画像を管理します。撮影日時やキーワードから、目的の画像をすばやくみつけることができます。

カメラやメディアから画像を取り込む

画像を見る・ムービーを見る
スライドショーを楽しんだり、サウンドを再生することもできます。

画像を編集する
画像の回転や反転、トリミング、サイズ変更などの編集ができます。

フィルタ機能、補正機能で画像を補正する

パノラマ写真を作る
パノラマモードで撮った画像を使ってパノラマ写真を作成します。

プリンタを使ってプリントする
インデックスプリントやカレンダー、ポストカードなど多彩なプリントが楽しめます。

RAW画像を現像する

上記以外の機能や操作方法については、OLYMPUS Masterの「ヘルプ」および取扱説明書をご覧ください。

OLYMPUS Masterをインストールする

お使いのパソコンのOSをご確認の上、インストールしてください。
新しいOSへの対応についてはオリンパスホームページ(http://www.olympus.co.jp)でご確認ください。

●動作環境について

Windows

OS	Windows 98SE/Me/2000 Professional/XP
CPU	Pentium III 500MHz以上
RAM	128MB以上（256MB以上を推奨）
ハードディスク容量	300MB以上
コネクタ	USBポート
モニタ	1024 × 768ドット以上、65,536色以上

ご注意

- OSがプレインストールされているパソコンのみ、動作対象となります。
- Windows 2000 Professional/XPでインストールする場合は、管理者権限を所有するユーザーでログオンしてください。
- QuickTime 6以上、Internet Explorerがインストールされている必要があります。
- Windows XPは、Windows XP Professional/Home Editionに対応しています。
- Windows 2000は、Windows 2000 Professionalにのみ対応しています。
- Windows 98SEをお使いの場合、USBドライバが自動的にインストールされます。

Macintosh

OS	Mac OS X 10.2以降
CPU	Power PC G3 500MHz以上
RAM	128MB以上（256MB以上を推奨）
ハードディスク容量	300MB以上
コネクタ	USBポート
モニタ	1024 × 768ドット以上、32,000色以上

ご注意

- USBポートが標準装備されていないMacintoshでは、パソコンとカメラをUSB接続した場合の動作を保証いたしません。
- QuickTime 6以上、Safari 1.0以上がインストールされている必要があります。
- 次の操作を行う時は、必ずメディアを取り出す手順（ゴミ箱にドラッグ＆ドロップ）を先に行ってください。この手順を行わずに操作すると、パソコン動作が不安定になり、再起動が必要となる場合があります。
  - カメラとパソコンの接続ケーブルを抜く
  - カメラの電源を切る
  - カメラのカードカバーを開ける

Windowsの場合

1 CD-ROMドライブにCD-ROMを入れます。

- OLYMPUS Masterセットアップ画面が表示されます。
- 表示されない場合は、「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックし、CD-ROM アイコンをクリックしてください。

2 「OLYMPUS Master」ボタンをクリックします。

- QuickTime インストール用の画面が表示されます。
- QuickTimeはOLYMPUS Masterを動作させるために必要です。すでにQuickTime 6以上がインストールされている場合は表示されません。手順4に進んでください。

3 「次へ」ボタンをクリックし、画面のメッセージに沿って操作を行います。

- 途中、使用許諾契約の画面が表示されたら、契約文をお読みのうえで「同意します」ボタンをクリックします。
- OLYMPUS Masterインストール用の画面が表示されます。

4 画面のメッセージにしたがって操作を行います。

- 途中、使用許諾契約の画面が表示されたら、契約文をお読みのうえで「はい」ボタンをクリックします。

- 途中、ユーザー情報入力画面が表示されたら、「名前」「OLYMPUS Masterシリアル番号」を入力し、お住まいの国を選択して「次へ」ボタンをクリックします。シリアル番号はCD-ROMのパッケージに貼ってあるシールをご覧ください。
- 途中、DirectXの使用許諾画面が表示されたら、契約文をお読みのうえで「はい」ボタンをクリックします。
- Adobe Readerをインストールするかどうか確認する画面が表示されます。Adobe ReaderはOLYMPUS Masterの取扱説明書を見るために必要です。すでにAdobe Readerがインストールされている場合は表示されません。

5 Adobe Readerをインストールする場合は「OK」ボタンをクリックします。

- インストールしない場合は「キャンセル」ボタンをクリックします。
- Adobe Readerインストール用の画面が表示されます。画面のメッセージに沿って操作を行ってください。
- 続いて、蔵衛門体験版のインストールを行うかどうか確認する画面が表示されます。蔵衛門体験版をインストールする場合は「はい」ボタンをクリックします。

6 画面のメッセージにしたがって操作を行います。

- インストール完了画面が表示されたら、「完了」ボタンをクリックします。

7 再起動を求める画面が表示されたら、「今すぐコンピュータを再起動する」を選択して「OK」ボタンをクリックします。

- パソコンが再起動します。
- CD-ROMは、CD-ROMドライブから取り出して保管してください。

Macintoshの場合

1 CD-ROMドライブにCD-ROMを入れます。

- CD-ROMのウィンドウが表示されます。
- 表示されない場合は、デスクトップのCD-ROMアイコンをダブルクリックします。

2 「インストーラ」アイコンをダブルクリックします。

インストーラ

- OLYMPUS Masterのインストーラが起動します。
- 画面のメッセージに沿って操作を行ってください。
- 途中、使用許諾契約の画面が表示されたら、契約文をお読みのうえで「続ける」ボタン、「同意します」ボタンをクリックします。
- インストール完了画面が表示されます。

3 「終了」ボタンをクリックします。

- 最初の画面に戻ります。

4 「再起動」ボタンをクリックします。

- パソコンが再起動します。
- CD-ROMは、CD-ROMドライブから取り出して保管してください。

カメラをパソコンに接続する

付属のUSBケーブルで、カメラをパソコンに接続します。

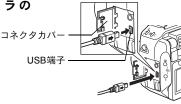
モードダイヤル

1 カメラの［USB］を［PC］に設定します。

☞「USB」（P.134）

2 パソコンのUSBポートに、カメラに付属の専用USBケーブルを差し込みます。

- USBポートの位置はお使いのパソコンの取扱説明書でご確認ください。

3 専用USBケーブルをカメラのUSB端子に差し込みます。

4 カメラの電源を入れます。

5 パソコンがカメラを新しい機器として認識します。

- Windows 98SE/Me/2000の場合
  はじめてカメラとパソコンを接続したときは、パソコンがカメラを認識する動作を自動的に行います。設定終了のメッセージが表示されたら、「OK」ボタンをクリックしてメッセージを終了してください。カメラは「リムーバブルディスク」として認識されます。
- Windows XPの場合
  パソコンに接続すると、画像ファイルの操作を選択する画面が表示されます。OLYMPUS Masterで画像を取り込みますので、「キャンセル」ボタンをクリックします。
- Mac OS Xの場合
  画像ファイルは通常iPhotoというアプリケーションで管理されます。はじめてカメラを接続するとiPhotoが起動しますので、iPhotoを終了させOLYMPUS Masterを起動してください。

ご注意

- パソコンに接続中は、カメラとしての機能は一切動作しません。

OLYMPUS Masterを起動する

Windowsの場合

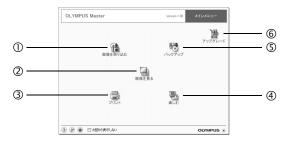
1 デスクトップの「OLYMPUS Master」アイコン をダブルクリックします。

- メインメニューが表示されます。
- 最初の起動時、メインメニューの前にユーザー登録画面が表示されます。画面の案内にしたがって必要な情報を入力してください。

Macintoshの場合

1 「OLYMPUS Master」フォルダ内の「OLYMPUS Master」アイコン をダブルクリックします。

- メインメニューが表示されます。
- 最初の起動時、メインメニューの前にユーザー情報入力画面が表示されますので、「名前」「OLYMPUS Masterシリアル番号」を入力し、お住まいの国を選択してください。
- ユーザー情報入力画面に続いて、ユーザー登録画面が表示されます。画面の案内にしたがって必要な情報を入力してください。

●OLYMPUS Masterのメインメニュー

① **「画像を取り込む」ボタン**
画像をカメラまたはメディアから取り込みます。

② **「画像を見る」ボタン**
ブラウズウィンドウが表示されます。

③ **「プリント」ボタン**
プリントメニューが表示されます。

④ **「楽しむ」ボタン**
楽しむメニューが表示されます。

⑤ **「バックアップ」ボタン**
画像をバックアップします。

⑥ **「アップグレード」ボタン**
OLYMPUS Master Plusへアップグレードできるウィンドウが表示されます。

●OLYMPUS Masterを終了するには

1 メインメニューで「閉じる」ボタン をクリックします。

- OLYMPUS Masterが終了します。

カメラの画像をパソコンで表示する

取り込んで保存する

カメラの画像をパソコンに保存します。

1 OLYMPUS Masterメインメニューで「画像を取り込む」ボタン をクリックします。

- 取り込み元選択メニューが表示されます。

2 「カメラから」ボタン をクリックします。

- 取り込み元ウィンドウが表示されます。カメラ内のすべての画像が一覧表示されます。

3 画像ファイルを選択し、「取り込み」ボタンをクリックします。

- 取り込み完了のメッセージが表示されます。

4 「今すぐ画像を見る」ボタンをクリックします。

- ブラウズウィンドウに取り込んだ画像が表示されます。
- ブラウズウィンドウの「メニュー」をクリックすると、メインメニューに戻ります。

ご注意

- 画像の取り込み中はカメラのカードアクセスランプが点滅します。点滅している間は絶対に以下のことをしないでください。
  - カードカバーを開ける
  - 電池を取り外す
  - ACアダプタを抜き差しする

●カメラを取り外すには

カメラの画像をパソコンに取り込んだら、カメラを取り外すことができます。

1 カメラのカードアクセスランプが消えていることを確認します。

カードアクセスランプ

2 USBケーブルを抜く準備をします。

Windows 98SEの場合

1「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックして、「リムーバブルディスク」アイコンを右クリックし、メニューを表示させます。
2 メニューの「取り出し」をクリックします。

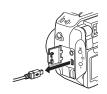
Windows Me/2000/XPの場合

1 システムトレイに表示されている「ハードウェアの取り外し」アイコン をクリックします。
2 表示されたメッセージをクリックします。
3「デバイスは安全に取り外すことができます」というメッセージが表示されたら、「OK」ボタンをクリックします。

9 パソコン接続

Macintoshの場合

1 デスクトップの「名称未設定」（ または「NO_NAME」）アイコンをドラッグすると「ゴミ箱」アイコンが「取り出し」アイコンに変わりますので、そのまま「取り出し」アイコンの上にドロップしてください。

3 カメラからUSBケーブルを抜きます。

ご注意

- Windows Me/2000/XPの場合：「ハードウェアの取り外し」をクリックした際、「カメラを停止できません」という警告画面が表示される場合があります。その場合は、カメラの画像データを読み込み中でないこと、またカメラの画像ファイルを開いていたアプリケーションが起動していないことを確認してください。確認後、「ハードウェアの取り外し」の操作を再度行い、その後ケーブルを外してください。

静止画／ムービーを見る

1 OLYMPUS Masterメインメニューで「画像を見る」ボタン をクリックします。

- ブラウズウィンドウが表示されます。

2 見たい静止画のサムネイルをダブルクリックします。

9 パソコン接続

- ビューモードに切り換わり、画像が拡大されます。
- ブラウズウィンドウの「メニュー」をクリックすると、メインメニューに戻ります。

●ムービーを見るには

1 **ブラウズウィンドウで見たいムービーのサムネイルをダブルクリックします。**

- ビューモードに切り換わり、ムービーの1コマ目が表示されます。

2 **ムービー表示部下側の再生ボタン をクリックするとムービーが再生されます。**

コントローラ各部の名称とはたらきは以下のとおりです。

	項目	詳細
1	再生スライダー	スライダーを移動して、任意のフレームを指定できます。
2	時間表示	再生中の経過時間が表示されます。
3	再生（一時停止）ボタン	ムービーを再生します。再生中は一時停止ボタンになります。
4	1フレーム戻るボタン	1つ前のフレームを表示します。
5	1フレーム進むボタン	次のフレームを表示します。
6	停止ボタン	再生を停止し、先頭のフレームに戻ります。
7	繰り返しボタン	ムービーが繰り返し再生されます。
8	ボリュームボタン	ボリューム調整スライダーが表示されます。

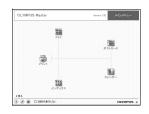
プリントする

フォト、インデックス、ポストカード、カレンダーなどのプリントメニューがあります。ここではフォトプリントを例に説明します。

1 **OLYMPUS Masterメインメニューで「プリント」ボタン をクリックします。**

- プリントメニューが表示されます。

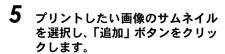
2 「フォト」ボタン をクリックします。

- フォトプリントウィンドウが表示されます。

3 フォトプリントウィンドウの「プリンタ設定」ボタンをクリックします。

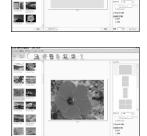
- プリンタ設定画面が表示されますので、必要に応じてプリンタの設定を行います。

4 プリントするレイアウトやサイズなどを選択します。

- 日付または日時を入れてプリントしたいときは、「撮影日印刷」にチェックをつけて「日付」または「日時」を選択します。

5 プリントしたい画像のサムネイルを選択し、「追加」ボタンをクリックします。

- 選択した画像がレイアウト上にプレビュー表示されます。

6 プリントする部数を設定します。

9 パソコン接続

7 「プリント」ボタンをクリックします。

- プリントが開始されます。
- フォトプリントウィンドウの「メニュー」をクリックすると、メインメニューに戻ります。

OLYMPUS Masterを使用せずにパソコンに画像を取り込んで保存する

このカメラはUSBストレージクラスに対応しています。OLYMPUS Masterを使用せずに付属のUSBケーブルでカメラとパソコンを接続し、画像を取り込んで保存することもできます。接続できるパソコンの環境は以下のとおりです。

Windows：Windows 98SE/Me/2000 Professional/XP

Macintosh：Mac OS 9.0-9.2/X

ご注意

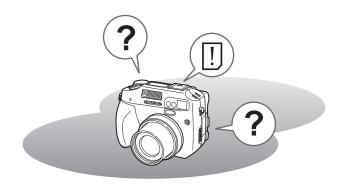
- Windows 98SEをお使いの場合は、USBドライバのインストールが必要です。カメラとパソコンをUSBケーブルで接続する前に、付属のOLYMPUS Master CD-ROMの、以下のフォルダのファイルをダブルクリックしてください。
  （お使いのパソコンのドライブ名）：¥USB¥INSTALL.EXE
- USB端子を装備していても、以下の環境では正常な動作は保証いたしません。
  - Windows 95/98/NT 4.0
  - Windows 95/98からアップグレードしたWindows 98SE
  - Mac OS 8.6以前（ただし、工場出荷時にUSB端子、USB MASS Storage Support 1.3.5を装備したMac OS 8.6は動作確認がされています。）
  - 拡張カードなどでUSB端子を増設したパソコン
  - 工場出荷時にOSがインストールされていないパソコンおよび自作パソコン

付録

10

オリンパスからのお知らせです。

- カメラを操作中エラーメッセージが表示されたとき
- パワースイッチを押しても電源が入らず途方にくれたとき
- 大事なカメラの保管方法が知りたいとき
- 取扱説明書で使われている用語の意味を知りたいときなどなど。そんなときぜひご一読ください。

困ったときは

エラーコード

コントロールパネル	液晶モニタ表示	原因	こうしましょう
---	カードを認識できません	カードが入っていません。またはカードが奥までしっかりと入っていません。	カードを入れてください。またはカードを正しく入れ直してください。それでもこの表示が消えないときはカードをフォーマットしてください。フォーマットできない場合、このカードはご使用になれません。
-E-	このカードは使用できません	カードに問題があります。	このカードは使用できません。新しいカードを入れてください。
-P-	書き込み禁止になっています	カードが書き込み禁止になっています。	パソコンを使って読み取り専用の設定がされています。再度パソコンを使って設定を解除してください。
0	撮影可能枚数が0です	カードの撮影可能枚数、または時間が0のため、撮影できません。	カードを交換するか、不要な画像を消してください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。
0	カード残量がありません	カードに空き容量がなく、プリント予約やファンクション撮影など新たな記録をすることができません。	カードを交換するか、不要な画像を消してください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。
000	画像が記録されていません	カードに記録画像がないため画像が再生できません。	カードに画像が記録されていません。撮影してから再生してください。
表示なし	この画像は再生できません	選択した画像に問題があり、再生できません。	パソコンの画像ソフトなどで再生してください。それでも再生できない場合は、画像ファイルの一部が壊れています。
-0-	カードカバーが開いています	カードカバーが開いています。	カードカバーを閉めてください。

コントロールパネル	液晶モニタ表示	原因	こうしましょう
表示なし	日時を設定してください	はじめてカメラを使用するときや長時間電池を抜いていたときには、日時が初期設定に戻っています。	日時を設定してください。
-F-	カードセットアップ [xD] 電源オフ フォーマット 選択 決定 OK	カードがこのカメラで使用できません。またはカードがフォーマットされていません。	• 別のカードに交換するか、カードをフォーマットしてください。 • ［電源オフ］を選択し、OK MENU を押して新しいカードを入れてください。 • ［フォーマット］を選択し、OK MENU を押してフォーマットを実行します。フォーマットすると、カード内のデータはすべて消去されます。
表示なし	ズームエラー	レンズに無理な力が加わり、動いてしまいました。	パワースイッチを一度OFFにして、カメラの電源を入れなおしてください。

トラブルシューティング

●準備操作

原因	こうしましょう	参照ページ
カメラが動かない／ボタンを押しても動作しない		
電源が切れている	パワースイッチをONにして、電源を入れてください。	−
電池残量が少なくなった	電池を充電してください。	−
寒さで電池の性能が一時的に低下した	電池をポケットに入れるなどして温めてからご使用ください。	−
カメラがスリープモード（待機状態）になっている	シャッターボタンやズームレバーを操作してください。	−
パソコンに接続している	パソコンと接続中、カメラは動作しません。	−

●撮影

原因	こうしましょう	参照ページ
シャッターボタンを押しても撮影ができない		
電池残量が少なくなった	電池を充電してください。	−
再生モードになっている	モードダイヤルを▶以外にしてください。	P.13
フラッシュの充電が完了していない	一度シャッターボタンから指をはなし、オレンジランプと⚡（フラッシュ充電）マークの点滅が終わってから撮影してください。	P.47
カードの容量がいっぱいになった	不要な画像を消すか、新しいカードを入れてください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。	P.116
撮影中やカードの書き込み中に電池がなくなった（液晶モニタが消灯した。または電池残量マークのみが点滅している。）	電池を充電してください。（カードアクセスランプが点滅中は、消灯するまでお待ちください。）	−
液晶モニタのメモリゲージがすべて点灯している	メモリゲージの一番上が消灯するまで、お待ちください。	−
カードに問題がある	「エラーコード」でご確認ください。	P.174

原因	こうしましょう	参照ページ
液晶モニタが点灯しない		
モニタオフに設定されている	[IOI] を何度か押して液晶モニタを点灯してください。	P.30
ファインダ、または液晶モニタが見にくい		
視度調節が正しくない	AFターゲットマークがはっきり見えるように調整してください。	P.29
カメラ内が結露*している	電源を切ってしばらくおき、カメラ全体が環境温度になじんで乾燥するのを待ってからお使いください。	―
液晶モニタの明るさの設定が適切でない	［モードメニュー］の［モニタ調整］で液晶モニタの明るさを調整してください。	P.130
太陽光の下である	太陽の光を手などでさえぎるか、ファインダを使って撮影してください。	―
撮影時に液晶モニタの画面に縦スジが入る	晴天下のような明るい被写体にカメラを向けると、画面に縦スジが入ることがあります。故障ではありません。	―
画像ファイルに記録される日付が正しくない		
日時が設定されていない	日時を設定してください。お買い上げ時には日時の設定はされていません。	P.123
電池を抜いて放置していた	電池を抜いた状態で約3日放置すると、日時設定が解除されます。もう一度、日時を設定してください。	P.123
設定した機能が電源を切ると元に戻ってしまう		
［設定保持］が［しない］に設定されている	［モードメニュー］の［設定保持］を［する］に設定してください。	P.120
ピントが合わない		
被写体との距離が近すぎる	被写体との距離をはなして撮影してください。ズームがもっとも広角のときに20cmよりも近づいて撮影するときは、スーパーマクロモードに設定してください。	P.46
被写体が暗い	［モードメニュー］の［AFイルミネータ］を［オン］に設定してください。	P.66
AFが苦手な被写体である	マニュアルフォーカスにして手動でピントを合わせるか、フォーカスロックを使ってピントを合わせてください。	P.31、66
レンズの表面が結露*した	電源を切ってしばらくおき、カメラ全体が環境温度になじんで乾燥するのを待ってからお使いください。	―

原因	こうしましょう	参照ページ
液晶モニタが消灯した		
カメラがスリープモード（待機状態）になっている	シャッターボタンやズームレバーを操作してください。	–
液晶モニタを消灯して電源を切った	［モードメニュー］の［設定保持］が［する］に設定されていると、電源を切る前の状態が記憶されています。液晶モニタを点灯させてから電源を切ってください。	P.30、120
フラッシュが発光しない		
フラッシュが［発光禁止］に設定されている	フラッシュの設定を［発光禁止］以外に設定してください。	P.47
明るい被写体である	フラッシュを強制的に発光させたい場合は、フラッシュモードを［強制発光］に設定してください。	P.47
高速連写・連写・AF連写・オートブラケット撮影が設定されている	高速連写・連写・AF連写・オートブラケット撮影ではフラッシュはご使用になれません。［モードメニュー］の［ドライブ］を［単写］に設定してください。	P.89
ムービー撮影をしている	ムービーモードではフラッシュはご使用になれません。🎥以外の撮影モードにしてください。	P.87
スーパーマクロ撮影をしている	スーパーマクロ撮影ではフラッシュはご使用になれません。［マクロ］を［オフ］または［🌷］に設定してください。	P.46
パノラマ撮影をしている	パノラマではフラッシュはご使用になれません。パノラマ撮影を解除してください。	P.92
電池の消耗が早い		
寒い中で使用している	低温下では電池の性能が低下します。カメラを防寒具や衣類の内側に入れるなどして保温しながら使用してください。	–
電池残量が正しく表示されていない	カメラの消費電力が大きく変化する際、電池残量の警告表示なしで電源が切れる場合があります。電池を充電してください。	–
ファインダ横の緑ランプとオレンジランプが同時に点滅している		
電池の残量がない	電池を充電してください。	–

＊結露：外気が寒いときに空気中にある水蒸気が急速に冷やされて水滴になること。カメラが冷えた状態で急に暖かい部屋などに入れた場合に発生します。

●画像の再生

原因	こうしましょう	参照ページ
撮影した画像のピントが合っていない		
AFが苦手な被写体を撮影した	マニュアルフォーカスにして手動でピントを合わせるか、フォーカスロックを使ってピントを合わせてください。	P.66、31
シャッターボタンを押すときにカメラが動いてしまった（手ぶれ）	カメラを正しく構え、シャッターボタンを静かに押して撮影してください。	P.28
フラッシュが必要な暗い状況で［発光禁止］に設定していた	フラッシュを［発光禁止］以外に設定してください。シャッタースピードが遅くなると手ぶれが起きやすくなります。三脚をご使用になるか、フラッシュを［オート］にして撮影してください。	P.47
被写体が暗い	［モードメニュー］の［AFイルミネータ］を［オン］に設定してください。	P.66
レンズが汚れていた	レンズの汚れを拭きとってください。レンズブロワー（市販）でレンズのほこりを吹き払って、レンズクリーニングペーパー（市販）でやさしく拭いてください。レンズを汚れたままにしておくと、かびが生えることがあります。	P.183
撮影した画像が明るすぎる		
フラッシュの設定が［強制発光］になっていた	［強制発光］以外のフラッシュモードに設定してください。	P.47
中央部に暗いものがある	中央部に暗いものがあると周辺部が明るく写ります。露出補正をアンダー（－）側に設定してください。	P.73
ISO感度が高感度設定になっている	［ISO感度］を［オート］または［80］などの低感度に設定してください。	P.72
A（**M**）モードで小さい絞り値になっている	絞り込んで（絞り値を大きくして）ください。または、**P**モードに設定してください。	P.57
S（**M**）モードで遅いシャッター速度に設定されている	シャッター速度を速くしてください。または、**P**モードに設定してください。	P.59

原因	こうしましょう	参照ページ
撮影した画像が暗い		
フラッシュを指で覆ってしまった	カメラを正しく構え、フラッシュを覆わないように気をつけてください。	P.28
撮りたいものがフラッシュ撮影範囲より遠かった	フラッシュ撮影範囲内で撮影してください。	P.47
フラッシュが［発光禁止］になっていた	フラッシュを［発光禁止］以外に設定してください。	P.47
逆光状態で小さい被写体を撮影した	フラッシュモードを［強制発光］に設定するか、測光を［スポット］に設定して撮影してください。	P.47、69
連写モードで撮影した	連写中はシャッター速度の最長時間が短くなるので、暗い場所では通常よりも暗く写るおそれがあります。［モードメニュー］の［ドライブ］を［単写］に設定してください。	P.89
中央部に明るいものがある	中央部に明るいものがあると全体が暗く写ります。露出補正をオーバー（+）側に設定してください。	P.73
A（**M**）モードで大きい絞り値になっている	絞りを開いて（絞り値を小さくして）ください。または、**P**モードに設定してください。	P.57
S（**M**）モードで速いシャッター速度に設定されている	シャッター速度を遅くしてください。または、**P**モードに設定してください。	P.59
室内で撮影した画像の色がおかしい		
照明の色が影響した	照明に合わせてホワイトバランスを設定してください。	P.74
撮影する構図の中に白の基準になるものがなかった	白いものを入れて撮影するか、フラッシュモードを［強制発光］に設定して撮影してください。	P.47
ホワイトバランスの設定を間違えた	照明に合わせて、もう一度ホワイトバランスを設定し直してください。	P.74
フィルターを使っていた	使用するフィルターによっては、不自然な色になることがあります。ワンタッチホワイトバランスを使用してください。	P.76
画像の一部が暗い		
レンズに指やストラップがかかってしまった	カメラを正しく構え、レンズに指やストラップがかからないように気をつけてください。	P.28

原因	こうしましょう	参照ページ
画像のハレーション部に不自然な色がつく		
紫外線の影響で輝度差の大きい被写体（木漏れ日、夜景での明るい窓の枠、直射日光下の金属の反射など）を撮影すると、発生する場合があります。	専用のUVフィルターを使用します。全体の色再現バランスを崩す場合がありますので、左記の条件下のみでの使用をおすすめします。それでも色がつく場合は、パソコンでレタッチソフトを使用するなどして画像を修正してください。レタッチの方法は、各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。	–
液晶モニタ上で再生できない		
電源が入っていない	モードダイヤルを▶に合わせてから、パワースイッチをONにして、電源を入れてください。	P.13
撮影モードになっている	**QUICK VIEW**ボタンを押すか、モードダイヤルを▶にしてください。	P.13、16
カードに画像が記録されていない	液晶モニタに［画像が記録されていません］と表示されます。撮影してから再生してください。	–
カードに問題がある	「エラーコード」でご確認ください。	P.174
テレビに接続している	AVケーブルを接続しているときは液晶モニタは点灯しません。	P.112
1コマ消去・全コマ消去ができない		
画像がプロテクトされている	O‑┬マークの付いた画像を表示して、O‑┬ボタンを押してプロテクトを解除してください。	P.115
カメラとテレビを接続してもテレビに映像がでない		
カメラの映像出力信号が間違っている	使用する地域の映像信号にビデオ出力の設定を合わせてください。	P.113
テレビの映像信号の設定が間違っている	テレビをビデオ（映像）入力モードにしてください。	P.112
液晶モニタが見にくい		
液晶モニタの明るさの設定が適切でない	［モードメニュー］の［モニタ調整］で液晶モニタの明るさを調節してください。	P.130
太陽光の下である	太陽の光を手などでさえぎるか、ファインダを使って撮影してください。	–
日本語以外の言語で画面表示される		
表示言語が日本語以外に設定されている	言語の設定（ ）を［日本語］に設定してください。	P.122

●パソコンやプリンタとの接続

原因	こうしましょう	参照ページ
プリンタと接続できない		
［USB］の設定が［PC］になっている	［USB］の設定を［プリント］にしてください。	P.142
プリンタがPictBridgeに対応していない	ご使用のプリンタの取扱説明書をご確認ください。または、プリンタメーカーにお尋ねください。	—
パソコンでカメラが認識されない		
USBドライバがインストールできていない	OLYMPUS Masterをインストールしてください。	P.161
カメラの電源が入っていない	モードダイヤルを▶に合わせてから、パワースイッチをONにして、カメラの電源を入れてください。	P.13

アフターサービス

●保証書はお買い上げの販売店からお渡しいたしますので「販売店名・お買い上げ日」等の記入されたものをお受け取りください。もし記入もれがあった場合は、ただちにお買い上げの販売店へお申し出ください。また保証内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

●本製品のアフターサービスに関するお問い合わせや、万一故障の場合はお買い上げの販売店、当社修理センター、またはサービスステーションにご相談ください。取扱説明書にしたがったお取扱いにより、本製品が万一故障した場合は、お買い上げ日より満1ヶ年間「保証書」記載内容に基づいて無料修理いたします。

●保証期間経過後の修理等については原則として有料となります。

●当カメラの補修用性能部品は、製造打ち切り後5年間を目安に当社で保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間後であっても修理可能な場合もありますので、お買い上げの販売店、当社修理センター、またはサービスステーションにお問い合わせください。

●海外で故障・不具合が生じた場合は、オリンパス代理店リストに記載のⓌマークが付いた販売店・サービスステーションまでご依頼ください。

●本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用、および撮影により得られる利益の喪失等）については補償しかねます。また、運賃諸掛かりはお客様においてご負担願います。

●修理品をご送付の場合は、修理箇所を指定した書面を同封して十分な梱包でお送りください。また控えが残るよう宅配便または書留小包のご利用をお願いします。

お手入れ

●カメラのお手入れ

カメラの外側

- 柔らかい布でやさしく拭いてください。汚れがひどい場合は、うすめた低刺激のせっけん水に布を浸して、硬く絞ってから、汚れを拭き取ります。そのあと、乾いた布でよく拭きます。海辺でカメラを使用した場合は、真水に浸した布を硬く絞って拭き取ります。

液晶モニタとファインダ

- 柔らかい布でやさしく拭きます。

レンズ

- レンズブロワー（市販）でほこりを吹き払って、レンズクリーニングペーパーでやさしく拭きます。

カード

- 乾いた柔らかい布で拭きます。

ご注意

- 絶対にベンジンやアルコールなどの強い溶剤や化学雑巾を使わないでください。
- レンズを汚れたままにしておくと、かびが生えることがあります。

●カメラの保管

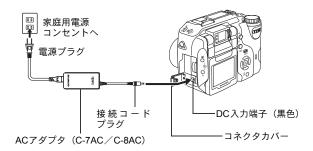
- カメラを長期間使用しないときは、電池やACアダプタ、カードを取り外してから風通しがよく涼しい乾燥した場所に保管してください。
- 保管期間中でも、ときどき電池を入れてカメラの動作を確かめてください。

ご注意

- 薬品を扱うような場所での保管は腐食などの原因になるため避けてください。

別売品について

ACアダプタ（別売）

パソコンに画像をダウンロードするなど、時間がかかる作業を行なう場合には、ACアダプタのご使用をおすすめします。
家庭用コンセントを使う場合は専用のACアダプタ（C-7AC*／C-8AC）が必要です。専用のACアダプタ以外はご使用にならないでください。

*C-7ACは国内専用です。

ヒント

充電器を海外で使用するには

→ 充電器を海外でご使用の際は、ご使用になる地域の電源コンセントにあった変換プラグをご用意ください。変換プラグについては旅行代理店などにお尋ねください。

ご注意

- 電池を使用してカメラをパソコンやプリンタに長時間接続しているとき、途中で電池残量がなくなると画像データにトラブルが生じることがあります。ACアダプタのご使用をおすすめします。なお、接続中には、ACアダプタを抜き差ししないでください。
- カメラの電源が入っているときに電池やACアダプタを抜き差ししないでください。カメラに設定されている設定値や機能にトラブルが生じる場合があります。
- カメラに電池が入っていても電力はACアダプタから供給されます。カメラ内の電池は充電されません。
- ACアダプタの取扱説明書を必ずご覧ください。

パワーバッテリーホルダー

別売のパワーバッテリーホルダー（B-HLD20）を使用すると、リチウムイオン電池2本を使用できるため、長時間撮影が可能になります。カメラへ取り付けるときは、電池カバーを矢印の方向に押して取り外します。
詳しくは、パワーバッテリーホルダーの取扱説明書をご覧ください。

マイクロドライブについてのご注意

マイクロドライブを使用する場合、次の制限がありますので、ご注意ください。また、お使いのマイクロドライブの取扱説明書をよくご覧ください。
大切な撮影には、xDピクチャーカードまたはコンパクトフラッシュのご使用をおすすめします。

使用環境

マイクロドライブは小型軽量のハードディスク・ドライブです。回転系記録媒体なので、他のカードのような固体記録媒体に比べ、振動や衝撃に強くありません。
マイクロドライブを使用する場合は、カメラに振動や衝撃を与えないよう十分注意してください。（特に記録中や再生中にはご注意ください。）

- 記録中にカメラを机の上にゴツンと置いたりしないでください。
- 肩からぶらさげたカメラを何かにぶつけないよう注意してください。
- 工事などで地盤が振動している場所では使用しないでください。
- 悪路を走る自動車など、カメラに激しく振動が伝わる乗り物の上では、使用しないでください。

マイクロドライブの取り扱い

- ラベルにはペンなどで書き込みをしないでください。
- ラベルをはがさないでください。
- ラベルを重ねて貼らないでください。
- 持ち運びや保管の時は、マイクロドライブに同梱される専用保護ケースに入れてください。
- 長時間使用すると熱くなることがあります。取り扱いには十分注意してください。
- 強い磁気のある所へ近づけないでください。
- カバーを強く押さないでください。

カメラの操作

マイクロドライブを使用すると電池の消耗が早くなる場合があります。電池の消耗をおさえるためには、次のことに注意してください。

- 撮影中はなるべく液晶モニタを使用しないでください。
- 特に必要がなければ、xDピクチャーカードは取り出しておいてください。
- スイッチ類を操作してもまったく動作しない場合は、一度電池を抜いて入れなおしてください。
- 電池が消耗しているときにマイクロドライブを使用すると、カメラの電源が入らない場合があります。

［このカードは使用できません］と表示された場合

- 画像の記録や読み出しができなくなった場合は、パソコンでSCANDISKをかけてください。☞「エラーコード」（P.174）

使用できる市販外部フラッシュについて

市販の外部フラッシュをお使いになる前に、下記の事項を必ずご確認ください。

(1) 市販のフラッシュには、シンクロ端子が高圧タイプのものがあります。このようなフラッシュを使用した場合、カメラを故障させる原因になったり、正常に動作しない場合があります。お使いのフラッシュのシンクロ端子の仕様については、フラッシュのメーカーにお問い合わせください。

(2) 市販のフラッシュには、シンクロ端子の極性が逆の機種があり、この場合接続しても発光しません。フラッシュのメーカーへご相談ください。

(3) 外部フラッシュ使用時の露出は、外部フラッシュ側で調節する必要があります。外部フラッシュをオートモードでご使用になる場合は、カメラで設定されているF値とISO感度に合わせることのできる製品をお使いください。

(4) 外部フラッシュのオートF値やISO感度をカメラと同条件に設定しても、撮影条件によっては適正露出にならない場合があります。このような場合は外部フラッシュ側のオートF値かISO値をシフトするか、マニュアルモードで距離を計算してご使用ください。

(5) フラッシュの照射角がレンズの画角をカバーする製品をご使用ください。但し、ワイド側の近距離撮影においては、画面下がけられる場合があります。フラッシュの配光を広げるワイドアダプタが付属されているものが理想的です。

(6) フル発光時の閃光時間が1/200秒以下の製品をご使用ください。
閃光時間が長いものは、光の一部が露出に寄与しなくなる場合があります。

(7) **オリンパスFLシリーズ以外の通信機能付き外部フラッシュ、およびその付属品をお使いになると正常に機能しないだけでなく、故障の原因となることがありますのでご使用にならないでください。**

使用上のご注意

使用条件について

● 本製品には精密な電子部品が組み込まれています。以下のような場所で長時間使用したり放置すると、動作不良や故障の原因となる可能性がありますので、避けてください。
  - 直射日光下や夏の海岸、窓を閉め切った自動車の中、冷暖房器、加湿器のそばなど、高温多湿、または温度・湿度変化の激しい場所
  - 砂、ほこり、ちりの多い場所
  - 火気のある場所
  - 水に濡れやすい場所
  - 激しい振動のある場所

● カメラを落としたりぶつけたりして、強い振動やショックを与えないでください。

● レンズを直射日光に向けたまま撮影または放置しないでください。CCDの退色・焼きつきを起こすことがあります。

● 寒い戸外から暖かい室内に入るなど急激に温度が変わったときは、カメラ内部で結露が発生する場合があります。ビニール袋などに入れてから室内に持ち込み、カメラを室内の温度になじませてからご使用ください。

● カメラを長期間使用しないと、カビがはえるなど故障の原因となることがあります。使用前には動作点検をされることをおすすめします。

● カメラのそばにクレジットカードや磁気定期券、フロッピーディスクなどの磁気の影響を受けやすいものを近づけないでください。データが壊れて使用できなくなることがあります。

● 三脚に取り付ける際は、カメラを回さず、三脚のネジを回してください。

● 本体の電気接点部には手を触れないでください。

● レンズに無理な力を加えないでください。

電池について

● 当社製リチウムイオン電池は、当社デジタルカメラ専用です。他の機器に使用しないでください。

● 電池の（＋）（－）端子は、常にきれいにしておいてください。汗や油で汚れていると、接触不良を起こす原因となります。充電や使用する前に、乾いた布でよく拭いてください。

● 充電式電池をはじめてご使用になる場合、また長時間使用していなかった場合は、ご使用の前に必ず充電してください。

● 一般に電池は低温になるにしたがって一時的に性能が低下することがあります。寒冷地で使用するときは、カメラを防寒具や衣服の内側に入れるなど保温しながら使用してください。低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると性能が回復します。
● リチウムイオン電池の使用推奨温度範囲は以下のとおりです。
  • 放電（機器使用時）：0〜40°C
  • 充電：0〜40°C
  • 保存：–20〜30°C
  上記温度範囲外での使用は、電池性能の低下・寿命の短縮の原因となります。
● 撮影条件、使用環境および電池により、撮影枚数が減少することがあります。
● 長期間の旅行などには、予備の電池を用意されることをおすすめします。海外では地域によって電池の入手が困難な場合があります。
● 使用済みの充電式電池は貴重な資源です。充電式電池を捨てる際には、（+）（–）端子をテープなどで絶縁してから最寄の充電式電池リサイクル協力店にお持ちください。詳しくは社団法人電池工業会のホームページ（http://www.baj.or.jp/recycle/）をご覧ください。

カードについて

● カードは精密電子機器です。曲げたり、衝撃を与えないでください。また静電気には十分ご注意ください。カードに保存しているデータは、不揮発性の半導体メモリ内に保存されますが、間違った扱いをするとデータが破壊されます。
● カードを水に濡らしたり、ほこりの多い場所に放置しないでください。
● 高温多湿の場所でのご使用・保管は避けてください。
● 発熱物・発火物の近くでのご使用は避けてください。
● カードの金属部分に指紋や汚れが付着すると、データの読み書きが正常に行われないことがあります。その場合は、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。
● **カードには寿命があり、長期間使用するうちに書き込みや消去ができなくなります。その場合は、新しいものとお取り換えください。**
● **他の媒体に保存したデータの損害、またカード内のデータ消滅に関し、当社では一切責任を負いかねますのでご了承ください。**

液晶モニタについて

本製品は背面の表示に、液晶モニタを使用しています。

- カメラを太陽などの強い光線に向けると、内部を破損するおそれがあります。
- 液晶モニタは強く押さないでください。画面上ににじみが残り、画像が正しく再生されなくなったり、液晶モニタが割れたりするおそれがあります。万一破損した場合は中の液晶を口に入れないでください。液晶が手足や衣類に付着した場合は、直ちにせっけんで洗い流してください。
- 液晶モニタの画面上下に光が帯状に見えることがありますが、故障ではありません。
- 被写体が斜めのとき、液晶モニタにギザギザが見えることがありますが、故障ではありません。記録される画像には影響ありません。
- 一般に低温になるにしたがって液晶モニタは点灯に時間がかかったり、一時的に変色したりする場合があります。寒冷地で使用するときは、保温しながら使用してください。低温のために性能の低下した液晶モニタは、常温に戻ると回復します。
- **本製品の液晶モニタは、精密度の高い技術でつくられていますが、一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。これらの画素は、記録される画像に影響はありません。また、見る角度により、特性上、色や明るさにむらが生じることがありますが、液晶モニタの構造によるもので故障ではありません。ご了承ください。**

用語解説

位相差検出方式
被写体までの距離を測るのに使用している方法。一対のセンサ列に入射した被写体の像のズレから距離を測定します。

画素数
画像を形成する最小単位の点。画素数が多いほど、サイズの大きな画像を作るのに適しています。

画像サイズ
画像を構成する点（ピクセル）の数で表した画像の大きさのこと。例えば、640 × 480で撮影した画像は、パソコンのモニタの設定が640 × 480のときではモニタ全体に表示されますが、1024 × 768ではモニタの一部分にだけ表示されます。

銀塩写真
ハロゲン化銀を使った、従来からあるフィルムを用いた写真のことをいいます。

けられ
撮影画面内に邪魔なものが入り、被写体が完全に写らないとき、またファインダで覗いたときに、撮影レンズの鏡胴で視野の一部が見えないことも、けられといいます。撮影レンズに不適切なフードを使った場合など、視野の四隅が暗くなることもいいます。

コントラスト検出方式
被写体までの距離を測るのに使用している方法。被写体のコントラストの大小を検出することで、ピントがあったかどうかを検出します。

絞り
レンズを通して入ってくる光量を調節する機構。値が小さいほど光が多く入り、値が大きいほど入る光が少なくなります。そのレンズで使える最小の絞り値にすることを開放するといい、絞り値を大きくするのを絞り込むといいます。

シンクロ端子
外部フラッシュとカメラとの接続のための端子。

スリープモード（待機状態）
電池を節約するためのモード。電源を入れたままカメラを一定時間放置すると、電池を節約するためにカメラは動作を停止します。シャッターボタンや十字ボタンなどの操作をすると、すぐにカメラは動作します。

スレーブフラッシュ
カメラとシンクロコードなどで接続せずに使用するワイヤレスフラッシュ。
カメラ側のフラッシュの発光に同調して発光します。被写体の影のつき方を変えるなど、ライティングに変化をだすことができます。

ESP測光（electro selective pattern）／デジタルESP測光
CCD出力を分割測光によって、周辺と中心部を個別に測光し、演算して露出を決める測光方法。

デュアルオートフォーカス
異なるフォーカス検出方式を併用して行うオートフォーカスのこと。このカメラでは、CCDを用いたコントラスト検出方式と専用センサを用いた位相差検出方式とを使用することで互いの短所を補っています。

バックライト
液晶モニタを背面から照らすための光源。

被写界深度
ある距離にピントを合わせたとき、その距離にある被写体がはっきり写るのと同時に被写体の前後でもピントが合っている範囲があります。このピントの合っている前後の奥行きのことをいいます。

フラッシュブラケット
フラッシュを撮影レンズからはなして使うときに用いる器具。被写体の影のでき方を変えることができます。フラッシュケーブルと併せて使います。

露出
画像が写るために得る光の量。シャッター速度と絞りでレンズを通して入ってくる光の量を調節して、露出を決めます。

●アルファベット順

Aモード（aperture priority mode）
絞り優先AEモード。絞り値は自分で決め、カメラが絞り値にしたがってシャッター速度を変化させ、適正な露出で撮影するモード。

AE（automatic exposure）
自動露出。カメラが自動的に露出を決める方式。このカメラには、絞りとシャッター速度をカメラに任せるPモード、絞り値を決めてシャッター速度をカメラに任せるAモード、シャッター速度を決めて絞り値をカメラに任せるSモードの3種類のAEがあります。Mモードでは、絞り値とシャッター速度の両方を決める必要があります。

CCD（charge coupled device）
レンズを通して入ってきた光りを受けて、電気信号に変換する素子。CCDで受けた光をRGBの信号に変換して、一つの画像を作り出します。

DCF（design rule for camera file system）
電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された、画像ファイルに関する規格。

DPOF（digital print order format）
デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録するフォーマット。画像を保存したカードにプリントしたい画像の指定や、枚数の指定情報を記録することで、DPOF対応の写真店やプリンタでプリントアウトを簡単に行うことができます。

EV（exposure value）
露出値。絞り値がF1、シャッター速度が1秒のときの光量をEV0と規定し、それより絞りを一段絞ったり、シャッター速度を一段早くするごとに、数値は1ずつ多くなります。EVは明るさとISO感度でも表せます。

ISO
国際標準化機構（ISO）の規格で決められた、フィルム感度の表示法。通常「ISO100」のように表記します。数値が大きくなるほど、光に対する感度が強くなり、少ない光でも感光します。

JPEG（joint photographic experts group）
静止画の圧縮方式。このカメラで撮影した写真（画像）は、画質をSHQ／HQ／SQ1／SQ2に設定すると、JPEG形式でカードに記録されます。パソコンに読み込めば、グラフィックス用のアプリケーションソフトで加工したり、インターネット閲覧ソフト（ブラウザ）で見ることができます。

Mモード（manual mode）
シャッター速度と絞り値を、自分で設定して撮影するモード。

NTSC/PAL（National Television Systems Committee/Phase Alternating Line）
テレビの放送方式。NTSCは主に日本、北米、韓国で使用され、PALは主にヨーロッパ諸国や中国で使用されています。

Pモード（program mode）
プログラムAEモード。カメラが自動的に、適正な絞り値とシャッター速度を設定して撮影するモード。

PictBridge
異なるメーカーのプリンタとデジタルカメラを接続し、画像を直接プリントすることを目的とした規格です。

Sモード（shutter speed priority mode）
シャッター速度優先AEモード。シャッター速度を自分で決め、カメラがシャッター速度にしたがって絞り値を変化させ、適正な露出で撮影するモード。

TFT（thin-film transistor）液晶
薄膜で作られたトランジスタを利用したカラー液晶モニタ。

TIFF（tagged image file format）
モノクロやカラーの画像データを保存するためのフォーマット。スキャナ用やグラフィックス用のアプリケーションで扱えます。このカメラでは圧縮しない画像のフォーマットに採用しています。

TTL（through the taking lens）方式
カメラ内部に受光体を置き、レンズを通ってきた光を直接測光する露出調節機構。

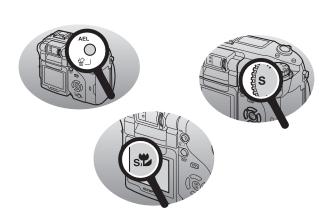
TTL-AUTO
外部フラッシュの機能。ストロボから発光された光を、撮影レンズを通してカメラの受光体で受け、この光量調節信号をストロボ本体に発信して、発光量をコントロールする方式。

資料

11

1章から9章で説明したカメラのすべての機能を網羅的に紹介しています。
カメラのボタンや部位の名前、液晶モニタに表示されるアイコンの名前と意味、トップメニュー・モードメニューの一覧など、必要に応じてご覧ください。
索引もありますので、目次からは見つからない機能や項目が記載されているページを探すときにお使いください。また、「各部の名前」や「メニュー一覧」も索引の役目をはたしますので、有効にご活用ください。

メニュー一覧

● 撮影メニュー（P/A/S/M/Myモード/SCENE）

トップメニュー	タブ	項目	サブメニュー	選択肢	参照頁
モードメニュー	撮影	ドライブ		単写／高速連写／連写／AF連写／BKT	P.89
		ISO感度		オート／80／100／200／400	P.72
		フラッシュ	フラッシュモード	オート発光／赤目軽減／強制発光／SLOW／発光禁止	P.47
			フラッシュ補正	-2.0～+2.0	P.51
			フラッシュ選択	内蔵+外部／外部／スレーブ	P.52
			スローシンクロ	先幕効果／赤目・先幕効果／後幕効果	P.51
		AF/マクロ/MF	フォーカスモード	AF／マクロ／動体予測AF／MF／Sマクロ／SマクロMF	P.46、64、66
			AF方式	iESP／スポット	P.63
			フルタイムAF	オフ／オン	P.63
		測光		ESP／スポット／マルチ測光／中央重点	P.69
		セルフタイマー/リモコン		オフ／セルフタイマー／リモコン	P.91、94
		デジタルズーム		オフ／オン	P.45
		ノイズリダクション※1		オフ／オン	P.82
		ファンクション撮影		オフ／パノラマ／モノクロ／セピア	P.92
		アクセサリ		オフ／コンバージョンレンズ／水中ハウジング	P.97
		スチル録音		オフ／オン	P.96
		罫線表示		オフ／1／2	P.85
		ヒストグラム表示		オフ／露出オン／オン／ダイレクト	P.83
		Mモードリアル表示※2		オフ／オン	P.62
		My 1/2/3/4※3		マイモード1～マイモード4	P.62
		SCENE※4		ポートレート／スポーツ／夜景＆人物／風景／夕日／水中ワイド／水中マクロ	P.42

資料

11

● 撮影メニュー（P/A/S/M/[マイモード]/SCENE）

トップメニュー	タブ	項目	サブメニュー	選択肢	参照頁
モードメニュー	画像	画質モード	RAW	オフ／SHQ／HQ／SQ1／SQ2	P.37
			TIFF	3072 × 2304／2592 × 1944／2288 × 1712／2048 × 1536／1600 × 1200／1280 × 960／1024 × 768／640 × 480	P.37
			SHQ	3072 × 2304／3:2 3072 × 2048	P.37
			HQ	3072 × 2304／3:2 3072 × 2048	P.37
			SQ1	2592 × 1944／2288 × 1712／2048 × 1536／1600 × 1200	P.37
			SQ2	1280 × 960／1024 × 768／640 × 480	P.37
		ホワイトバランス	オート	補正／登録	P.75
			プリセット1	プリセット1／補正／登録	P.75
			プリセット2	プリセット2／補正／登録	P.75
			カスタム	カスタム1～カスタム4	P.76
			ワンタッチ	実行／補正／登録	P.76
		シーンプリセット※1		標準／ポートレート／風景／夜景	P.80
		シャープネス		-5.0～+5.0	P.80
		コントラスト		-5.0～+5.0	P.81
		色相		-5.0～+5.0	P.81
		彩度		-5.0～+5.0	P.82
	カード	フォーマット		フォーマット／中止	P.117
	設定	設定保持		する／しない	P.120
		露出ステップ		1/3EV／1/2EV	P.122
		[言語]		日本語／ENGLISH	P.122
		日時設定			P.123
		マイモード設定		現設定／クリア／カスタム	P.124

● 撮影メニュー（P/A/S/M/My/SCENE）

トップメニュー	タブ	項目	サブメニュー	選択肢	参照頁
モードメニュー	設定	音	操作音	オフ／1／2	P.126
			シャッタ音	オフ／1／2	P.127
			ビープ音	オフ／小／大	P.128
			再生音量	0～5	P.128
		PW ON/OFF設定	PW ON設定	画面／音	P.129
			PW OFF設定	画面／音	P.129
		モニタ調整			P.130
		ビデオ出力		NTSC／PAL	P.113
		レックビュー		オフ／オート／ 3秒／5秒／10秒	P.131
		ファイル名メモリー		リセット／オート	P.131
		ピクセルマッピング		スタート	P.132
		m/ft設定		m／ft	P.133
		AFイルミネータ		オフ／オン	P.66
		スーパーコンパネ		オフ／オン	P.133
		インデックス表示		4／9／16	P.101
		USB		PC／プリント	P.134
		ショートカット設定		A／B／C	P.134
		カスタムボタン設定			P.136
		ダイヤル		標準／カスタム1／ カスタム2	P.138
		My/SCENE選択画面		オフ／オン	P.139
(ドライブ)※5					P.89
(画質モード)※5					P.33
(ホワイトバランス)※5					P.74

※1 SCENEモードでは選択できません。
※2 Mモードでのみ選択できます。
※3 Myモードでのみ選択できます。
※4 SCENEモードでのみ選択できます。
※5 ショートカット設定で登録した機能が表示されます。

● 撮影メニュー（）

トップメニュー	タブ	項目	サブメニュー	選択肢	参照頁
モードメニュー	撮影	ISO感度		オート／80／100／200／400	P.72
		AF//MF	フォーカスモード	AF／マクロ／	P.46、66
			AF方式	iESP／スポット	P.63
			フルタイムAF	オフ／オン	P.63
		測光		ESP／スポット／中央重点	P.69
		セルフタイマー／リモコン		オフ／セルフタイマー／リモコン	P.91、94
		デジタルズーム		オフ／オン	P.45
		ファンクション撮影		オフ／モノクロ／セピア	P.92
		アクセサリ		オフ／／	P.97
	画像	画質モード		SHQ／HQ／SQ1／SQ2	P.37
		ホワイトバランス	オート	補正／登録	P.75
			プリセット1	プリセット1／補正／登録	P.75
			プリセット2	プリセット2／補正／登録	P.75
			カスタム	カスタム1～カスタム4	P.76
			ワンタッチ	実行／補正／登録	P.76
		シーンプリセット		標準／ポートレート／風景／夜景	P.80
		シャープネス		-5.0～+5.0	P.80
		コントラスト		-5.0～+5.0	P.81
		色相		-5.0～+5.0	P.81
		彩度		-5.0～+5.0	P.82
	カード	フォーマット		フォーマット／中止	P.117
	設定	設定保持		する／しない	P.120
		露出ステップ		1/3EV／1/2EV	P.122
				日本語／ENGLISH	P.122
		日時設定			P.123
		音	操作音	オフ／1／2	P.126
			シャッタ音	オフ／1／2	P.127
			ビープ音	オフ／小／大	P.128
			再生音量	0～5	P.128

● 撮影メニュー（🎥）

トップメニュー	タブ	項目	サブメニュー	選択肢	参照頁
モードメニュー	設定	PW ON/OFF設定	PW ON設定	画面／音	P.129
			PW OFF設定	画面／音	P.129
		モニタ調整			P.130
		ビデオ出力		NTSC／PAL	P.113
		ファイル名メモリー		リセット／オート	P.131
		ピクセルマッピング		スタート	P.132
		スーパーコンパネ		オフ／オン	P.133
		USB		PC／プリント	P.134
		ダイヤル		標準／カスタム1／カスタム2	P.138
ムービー録音				オフ／オン	P.97
画質モード				SHQ／HQ／SQ1／SQ2	P.33
手ぶれ補正				オフ／オン	P.88

● 再生メニュー（▶）静止画のとき

トップメニュー	タブ	項目	サブメニュー	選択肢	参照頁
モードメニュー	編集	RAW編集	画質モード	TIFF／SHQ／HQ／SQ1／SQ2	P.104
			露出補正	-2.0～+2.0	P.104
			ホワイトバランス	オート／プリセット1／プリセット2／カスタム／ワンタッチ	P.104
			WB補正	RED7 - BLUE7	P.104
			シーンプリセット	標準／ポートレート／風景／夜景	P.104
			シャープネス	-5.0～+5.0	P.104
			コントラスト	-5.0～+5.0	P.104
			色相	-5.0～+5.0	P.104
			彩度	-5.0～+5.0	P.104
			ファンクション撮影	オフ／モノクロ／セピア	P.104
			トリミング	決定／再設定／中止	P.104
		リサイズ		640 × 480／320 × 240／中止	P.106
		トリミング		決定／再設定／中止	P.106

● 再生メニュー（▶）静止画のとき

トップメニュー	タブ	項目	サブメニュー	選択肢	参照頁
モードメニュー	編集	コピー		全コマ／選択コマ	P.114
		赤目補正		スタート	P.108
	カード	全コマ消去		消去／中止	P.116
		フォーマット		フォーマット／中止	P.117
	設定	設定保持		する／しない	P.120
		露出ステップ		1/3EV／1/2EV	P.122
				日本語／ENGLISH	P.122
		日時設定			P.123
		音	操作音	オフ／1／2	P.126
			シャッタ音	オフ／1／2	P.127
			ビープ音	オフ／小／大	P.128
			再生音量	0～5	P.128
		PW ON/OFF設定	PW ON設定	画面／音	P.129
			PW OFF設定	画面／音	P.129
			画面登録	PW ON／PW OFF	P.129
		モニタ調整			P.130
		ビデオ出力		NTSC／PAL	P.113
		レックビュー		オフ／オート／3秒／5秒／10秒	P.131
		ファイル名メモリー		リセット／オート	P.131
		m/ft設定		m／ft	P.133
		AFイルミネータ		オフ／オン	P.66
		スーパーコンパネ		オフ／オン	P.133
		インデックス表示		4／9／16	P.101
		USB		PC／プリント	P.134
		ショートカット設定		A／B／C	P.134
		カスタムボタン設定			P.136
		ダイヤル		標準／カスタム1／カスタム2	P.138
		My/SCENE選択画面		オフ／オン	P.139
スライドショー					P.102
録音					P.108

● 再生メニュー（▶）ムービーのとき

トップメニュー	タブ	項目	サブメニュー	選択肢	参照頁
モードメニュー	編集	インデックス作成		決定／再設定／中止	P.110
		ムービー編集		決定／再設定／中止	P.111
	カード	全コマ消去		消去／中止	P.116
		フォーマット		フォーマット／中止	P.117
	設定	設定保持		する／しない	P.120
		露出ステップ		1/3EV／1/2EV	P.122
		(言語アイコン)		日本語／ENGLISH	P.122
		日時設定			P.123
		音	操作音	オフ／1／2	P.126
			シャッタ音	オフ／1／2	P.127
			ビープ音	オフ／小／大	P.128
			再生音量	0～5	P.128
		PW ON/OFF設定	PW ON設定	画面／音	P.129
			PW OFF設定	画面／音	P.129
			画面登録	PW ON／PW OFF	P.129
		モニタ調整			P.130
		ビデオ出力		NTSC／PAL	P.113
		ファイル名メモリー		リセット／オート	P.131
		スーパーコンパネ		オフ／オン	P.133
		USB		PC／プリント	P.134
		ダイヤル		標準／カスタム1／カスタム2	P.138
ムービー再生					P.103
コピー				全コマ／選択コマ	P.114

資料

11

初期設定一覧

各機能は工場出荷時には下記のように設定されています。

● **撮影モード**

絞り値	F2.8
プログラムシフト	リセット
シャッター速度	1/1000
光学ズーム	ワイド
液晶モニタ	オン
使用カード	xD
露出補正	0.0
フラッシュモード	**A**、**S**、**M**、**P**、SCENE ：オート発光 ：発光禁止
AF/ /MF	AF
セルフタイマー／リモコン	オフ
測光	ESP
AEL（マルチ測光）	クリア
ドライブ	単写
オートブラケット撮影	±1.0EV、3枚
ISO感度	オート（**A**、**S**、**M**：80）
1/2/3/4	マイモード1
SCENE選択	
フラッシュ補正	0.0
フラッシュ選択	内蔵＋外部
スレーブ	1
スローシンクロ	先幕効果
ノイズリダクション	オフ（ ：オンに固定）
デジタルズーム	オフ
フルタイムAF	オフ
AF方式	iESP
アクセサリ	オフ
ファンクション撮影	オフ
AFターゲット移動	中央
ヒストグラムターゲット移動	中央

資料

11

ヒストグラム表示	オフ
スチル録音	オフ
罫線表示	オフ
mode リアル表示	オフ
ムービー録音	オン
画質モード	A、S、M、P、SCENE ：HQ（3072 × 2304） ：HQ（640 × 480）
JPEG記録設定	HQ
TIFF設定	3072 × 2304
SHQ設定	3072 × 2304
HQ設定	3072 × 2304
SQ1設定	1600 × 1200　標準
SQ2設定	640 × 480　標準
ホワイトバランス	オート
WB補正	補正なし
カスタムWB登録	未登録
シーンプリセット	標準
シャープネス	±0
コントラスト	±0
色相	±0
彩度	±0
露出ステップ	1/3EV
レックビュー	オート
ファイル名メモリー	リセット
m/ft設定	m
ショートカット設定	A：ドライブ、B：画質モード、C：ホワイトバランス
カスタムボタン設定	ドライブ
スーパーコンパネ表示	オフ
シャッタ音	1－小
AFイルミネータ	オン
ダイヤル	標準
/SCENE選択画面	オン
手ぶれ補正	オフ

● 再生モード

プロテクト	オフ
回転再生	0°
プリント予約	オフ
インデックス表示	9
カード切り換え	xD
自動再生	オフ
録音	オフ
再生音量	3

● その他

設定保持	しない
	日本語
PW ON設定	画面：オフ　音：オフ
PW OFF設定	画面：オフ　音：オフ
モニタ調整	標準
日時設定	年月日 2004.01.01 00:00
ビデオ出力	NTSC
USB	PC
ビープ音	大
操作音	1－大
画像登録	なし

撮影モード別設定可能な機能

MYモードでは、選択した撮影モードによって設定可能な機能は異なります。

<table>
<tr><th colspan="2">モード
機能</th><th>P</th><th>A</th><th>S</th><th>M</th><th>SCENE</th><th></th></tr>
<tr><td colspan="2">ズーム</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">デジタルズーム</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">AF方式</td><td colspan="5">○</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">フルタイムAF</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">AFターゲット移動</td><td colspan="5">○</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">AFイルミネータ</td><td colspan="5">○</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">マニュアルフォーカス</td><td colspan="5">○</td><td>–</td></tr>
<tr><td rowspan="7">フラッシュモード</td><td>オート発光</td><td colspan="2">○</td><td colspan="2">–</td><td>○</td><td>–</td></tr>
<tr><td>赤目軽減発光</td><td colspan="2">○</td><td colspan="2">–</td><td>○</td><td>–</td></tr>
<tr><td>強制発光</td><td colspan="2">○</td><td colspan="2">–</td><td>○</td><td>–</td></tr>
<tr><td>先幕効果</td><td colspan="5">○</td><td>–</td></tr>
<tr><td>先幕・赤目効果</td><td colspan="2">○</td><td colspan="2">–</td><td>○</td><td>–</td></tr>
<tr><td>後幕効果</td><td colspan="5">○</td><td>–</td></tr>
<tr><td>発光禁止</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">フラッシュ補正</td><td colspan="5">○</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">スローシンクロ</td><td colspan="5">○</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">フラッシュ選択</td><td colspan="5">○</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">スポット測光</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">マルチ測光</td><td colspan="3">○</td><td>–</td><td>○</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">中央重点測光</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">測光ターゲット移動</td><td colspan="5">○</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">動体予測AF</td><td colspan="4">○</td><td>○※1</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">マクロ撮影</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">スーパーマクロ撮影</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">スーパーマクロMF撮影</td><td colspan="5">○</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">セルフタイマー撮影</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">高速連写・連写・AF連写</td><td colspan="5">○※2</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">オートブラケット撮影</td><td colspan="3">○</td><td>–</td><td>○</td><td>–</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="2">モード
機能</th><th>P</th><th>A</th><th>S</th><th>M</th><th>SCENE</th><th></th></tr>
<tr><td rowspan="3">ファンクション
撮影</td><td>パノラマ</td><td>○</td><td colspan="3">–</td><td>○</td><td>–</td></tr>
<tr><td>モノクロ</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td>セピア</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">Mモードリアル表示</td><td colspan="3">–</td><td>○</td><td colspan="2">–</td></tr>
<tr><td colspan="2">アクセサリ</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">ヒストグラム表示</td><td colspan="5">○</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">ヒストグラム
ターゲット移動</td><td colspan="5">○</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">スチル録音</td><td colspan="5">○</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">ムービー録音</td><td colspan="5">–</td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="2">手ぶれ補正</td><td colspan="5">–</td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="2">画質モード</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">ISO感度</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">露出補正</td><td colspan="3">○</td><td>–</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">ホワイトバランス</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">WB補正</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">カスタムWB登録</td><td colspan="5">○</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">シャープネス</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">コントラスト</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">色相</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">彩度</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">シーンプリセット</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">ノイズリダクション</td><td colspan="4">○</td><td colspan="2">–</td></tr>
<tr><td colspan="2">設定保持</td><td colspan="6">○※3</td></tr>
<tr><td colspan="2">露出ステップ</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">言語設定</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">PW ON設定</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">PW OFF設定</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">レックビュー</td><td colspan="5">○</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">罫線表示</td><td colspan="5">○</td><td>–</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>モード
機能</th><th>P</th><th>A</th><th>S</th><th>M</th><th>SCENE</th><th></th></tr>
<tr><td>ビープ音</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td>シャッタ音</td><td colspan="5">○</td><td>－</td></tr>
<tr><td>操作音</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td>マイモード設定</td><td colspan="5">○</td><td>－</td></tr>
<tr><td>ファイル名メモリー</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td>ピクセルマッピング</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td>モニタ調整</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td>日時設定</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td>m/ft設定</td><td colspan="5">○</td><td>－</td></tr>
<tr><td>ビデオ出力</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td>ショートカット設定</td><td colspan="5">○</td><td>－</td></tr>
<tr><td>カスタムボタン設定</td><td colspan="5">○</td><td>－</td></tr>
<tr><td>スーパーコンパネ</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td>USB</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td>ダイヤル</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td>My/SCENE選択画面</td><td colspan="5">○</td><td>－</td></tr>
</table>

○：設定可能　　－：設定不可

※1 、、、モードをのぞく
※2 モードをのぞく
※3 Myモードをのぞく

資料

11

各部の名前

カメラ

セルフタイマー／リモコンランプ
☞P.91, P.94
フラッシュ ☞P.47
AF イルミネータ ☞P.66
リモコン受信窓 ☞P.94
OLYMPUS
ファインダ窓
ストラップ取付部
録音マイク
☞P.96, 97
AF センサ
レンズ
専用フィルタ（別売）を装着できます。

A/V OUT (MONO)
USB
DC IN 6.5V
A/V 出力端子
（A/V OUT（MONO））☞P.112
USB 端子 ☞P.142, 164
DC 入力端子 ☞P.184
コネクタカバー ☞P.142, 164, 184
スピーカ

フラッシュモードボタン（⚡）☞P.17, 18, 47, 51, 52
露出補正ボタン（☒）☞P.17, 18, 51, 73
液晶モニタ ☞P.20, 22, 29, 130, 212
ファインダ ☞P.29
オレンジランプ ☞P.50
AF ターゲットマーク ☞P.29, P.31
緑ランプ ☞P.31
視度調節ダイヤル ☞P.29
AEL ボタン（AEL）☞P.19, 71
消去ボタン（🗑）☞P.22, 116
パワースイッチ
コントロールダイヤル
☞P.14, P.16
QUICK VIEW ボタン ☞P.20
液晶モニタボタン（▭INFO）
☞P.20, 22, 212
カードアクセスランプ ☞P.168
カードカバー
カード切り換えボタン（CF/xD）
☞P.20, 22, 40
OK/ メニューボタン（OK MENU）☞P.23, 25
十字ボタン（△▽◁▷）☞P.23, 25, 99
AEL
QUICK VIEW
INFO
OK
MENU
CF/
xD
ON• OFF• POWER
OLYMPUS

AF ／マクロ／ MF ボタン（AF/🌷/MF）
☞P.18, 46, 63, 64, 65, 66

ホットシュー ☞P.52

コントロールパネル ☞P.210

シャッターボタン ☞P.31

ズームレバー（T/W・▦ Q）
☞P.44, 99, 100

カスタムボタン
（⎙） ☞P.19, 136

プリント予約ボタン
（⎙） ☞P.21, 152

モードダイヤル ☞P.13

セルフタイマー／リモコンボタン
（⏲/リモコン） ☞P.19, 91, 94

回転再生ボタン（⎗） ☞P.21, 102

測光ボタン（[◉]） ☞P.18, 69

プロテクトボタン（O-π） ☞P.21, 115

コントロールパネル／スーパーコンパネの表示

	項目	表示例	参照頁
1	電池残量	、	–
2	撮影モード	P、A、S、M、、、、、、、、、	P.13, P.42
3	シャッター速度 プログラムシフト	4ooo（1/4000秒）～15" プログラムシフト時はSが表示されます。	P.59 P.57
4	絞り値	F2.8～F11	P.57
5	アクセサリ		P.97
6	露出補正値 フラッシュ補正値 露出状態	-2.0～+2.0	P.73 P.51 P.60
7	ノイズリダクション	NR	P.82
8	AEロック AEメモリ	AEL AEL M	P.71 P.72
9	マクロ スーパーマクロ	（点灯） （点滅）	P.46 P.46
10	マニュアルフォーカス スーパーマクロMF	MF（点灯） MF （点滅）	P.66 P.46
11	フラッシュモード	、、、SLOW、SLOW	P.47
12	連写（ドライブ）	HI、、AF、BKT	P.89
13	フラッシュ補正		P.51
14	セルフタイマー		P.91
15	リモコン		P.94

各部の名前

資料

11

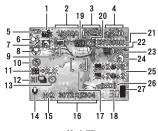
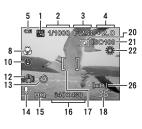
	項目	表示例	参照頁
16	録音	🎙	P.96, 97, 108
17	画質 画像サイズ	RAW、TIFF、SHQ、HQ、SQ 3072 × 2304、2592 × 1944、1024 × 768、640 × 480 など	P.33 P.35
18	撮影可能枚数・撮影可能時間 エラーコード	30、36" -E-	P.35 P.174
19	メモリゲージ	▮、▮、▯、▯	—
20	測光	[•]、[(•)]、MULTI[•]	P.69
21	ISO感度	ISO	P.72
22	WB補正	B1～B7、R1～R7	P.78
23	ホワイトバランス	WB	P.74
24	色相	RGB-5～+5	P.81
	彩度	RGB -5～+5	P.82
	シャープネス	Ⓢ -5～+5	P.80
	コントラスト	Ⓒ -5～+5	P.81
25	シーンプリセット	、、	P.80
26	フォルダ番号	001	—
27	使用カード	xD 、CF	P.40

ヒント

- スーパーコンパネでのみ表示されるものもあります。
- コントロールパネルの表示形式は、スーパーコンパネの表示形式と異なる場合があります。

液晶モニタの表示

画面に表示される情報量は、[IOI]を押すたびに切り換えることができます。下の画面は詳細撮影情報を表示したときの画面です。☞「ダイレクトボタン」(P.16)

●撮影モード

静止画

ムービー

	項目	表示例	参照頁
1	撮影モード	P、A、S、M、My1、[ムービー]、[ポートレート]、[スポーツ]、[夜景&人物]、[風景]、[夜景]、[風景&人物]、[水中]	P.13, P.42
2	シャッター速度	15"～1/4000	P.59
3	絞り値	F2.8～F11	P.57
4	露出補正 露出状態	–2.0～+2.0 –3.0～+3.0	P.73 P.61
5	電池残量	[電池]、[電池]	—
6	緑ランプ	○	P.31, 71
7	フラッシュ発光予告 手ぶれ警告・ フラッシュ充電	⚡ 点灯 ⚡ 点滅	P.51 P.50
8	マクロ スーパーマクロ マニュアルフォーカス スーパーマクロMF 動体予測AF	[マクロ] S[マクロ] MF MF S[マクロ] [動体予測]AF	P.46 P.46 P.66 P.46 P.64
9	ノイズリダクション	NR	P.82
10	フラッシュモード	[赤目]、⚡、[発光禁止]、⚡SLOW1、[赤目]⚡SLOW、⚡SLOW2	P.47

	項目	表示例	参照頁
11	フラッシュ補正	–2.0～+2.0	P.51
12	ドライブ(静止画の場合) 手ぶれ補正（ムービーの場合）	、HI、、AF、BKT	P.89 P.88
13	セルフタイマー リモコン		P.91 P.94
14	録音		P.96, 97, 108
15	画質	RAW、TIFF、SHQ、HQ、SQ1、SQ2	P.33
16	画像サイズ	3072 × 2304、2592 × 1944、1024 × 768、640 × 480 など	P.35
17	AFターゲットマーク	[ ]	P.31
18	撮影可能枚数 撮影可能時間	30 00:36"	P.35 P.87
19	AEロック AEメモリ	AEL MEMO	P.71
20	測光	、	P.69
21	ISO感度	ISO 80、ISO 100、ISO 200、ISO 400	P.72
22	ホワイトバランス	、、、、1～4、、C1～C4、	P.74
23	WB補正	B1～B7、R1～R7	P.78
24	シーンプリセット	、、	P.80
25	色相	RGB -5～+5	P.81
	彩度	RGB -5～+5	P.82
	シャープネス	-5～+5	P.80
	コントラスト	-5～+5	P.81
26	使用カード	［xD］、［CF］	P.40
27	メモリゲージ	、、、	—

●再生モード

静止画

ムービー

	項目	表示例	参照頁
1	電池残量	、	—
2	使用カード	[xD]、[CF]	P.40
3	プリント予約・枚数 ムービー	×10	P.152 P.103
4	録音		P.96, 97
5	プロテクト		P.115
6	画質	RAW、TIFF、SHQ、HQ、SQ1、SQ2	P.33
7	画像サイズ	3072 × 2304、2592 × 1944、1024 × 768、640 × 480など	P.35
8	絞り値	F2.8～F11	P.57
9	シャッター速度	15"～1/4000	P.59
10	露出補正	-2.0～+2.0	P.73
11	ホワイトバランス	WB AUTO、、、、、1～4、、	P.74
12	ISO感度	ISO 80、ISO 100、ISO 200、ISO 400	P.72
13	日時	'05.02.16　15:30	P.123
14	ファイル番号 再生時間／撮影時間	FILE 100-0030 0"／20"	P.151 P.103

ご注意

- ムービーの場合、画像を選択して表示したときと、ムービー再生中で表示内容が異なります。

索引

カメラ各部の参照先については、「各部の名前」をご覧ください。

英数／記号

あ行

索引

資料

11

か行

さ行

ま行

や行

ら行

わ行

資料

11

お問い合わせいただく前に（お願い）

●より迅速、正確にお答えするために、お手数ですが以下の内容をあらかじめご確認ください。
●FAXまたは郵便でお問い合わせいただく場合は、必ずご記入ください。
●問題が発生したときの症状・表示されたメッセージ・症状の再現性など：パソコンが関係する問題は、とくに正確な状況把握が難しいので、お手数ですができるだけくわしくお知らせください。

●お名前（フリガナ）

●連絡先：郵便番号

ご住所（自宅か会社のいずれかを明記願います）

電話番号/FAX

E-mail

●製品名（型番）：

●シリアル番号（製品底面に記載されています）：

●お買い上げ日：

＊以下は、カメラをパソコンと接続してご使用、またはソフトウェアをご使用の場合にお確かめください。
●ご使用のパソコンの種類：

パソコンメーカー・型番等

●メモリの容量　ハードディスクの空き容量：

●OS名とバージョン：
（Windows）コントロールパネル–システム–デバイスマネージャーの内容

（Mac OS）コントロールパネルや機能拡張の内容

●その他接続されている周辺機器名：

●問題のご使用アプリケーションソフト名とバージョン：

●問題のご使用弊社ソフト名とバージョン

OLYMPUS®

オリンパスイメージング株式会社

〒163-0914　東京都新宿区西新宿2の3の1 新宿モノリス

● ホームページによる情報提供について

製品仕様、パソコンとの接続、OS対応の状況、Q&Aなどの各種情報を当社のホームページでご提供しております。
オリンパスホームページ（**http://www.olympus.co.jp/**）から「お客様サポート」→「映像・情報分野」→「デジタルカメラ／プリンタ」へ進み、ご利用ください。

● 電話等でのご相談窓口

カスタマーサポートセンター

フリーダイヤル

0120-084215

携帯電話・PHSからは0426-42-7499

FAX　0426-42-7486

調査等の都合上、回答までにお時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

営業時間　平日　9：30～21：00
土・日・祝日　10：00～18：00
（年末年始、システムメンテナンス日を除く）

● 修理に関するお問い合わせ、修理品ご送付先

TEL 0266-26-0330　FAX 0266-26-2011

〒394-0083　長野県岡谷市長地柴宮3-15-1
オリンパス岡谷修理センター
営業時間9:00～17:00
（日曜、夏期・年末年始休業、システムメンテナンス日を除く）

● 国内サービスステーション（修理受付窓口）

東　京 〒101-0052 千代田区神田小川町1の3の1　小川町三井ビル（オリンパスプラザ内） Tel.03（3292）3403
札　幌 〒060-0034 札幌市中央区北4条東1の2の3　札幌フコク生命ビル Tel.011（231）2320
仙　台 〒981-3133 仙台市泉区泉中央１の13の4　泉エクセルビル Tel.022（218）8421
名古屋 〒460-0003 名古屋市中区錦2の19の25　日本生命広小路ビル Tel.052（201）9571
大　阪 〒542-0081 大阪市中央区南船場2の12の26　オリンパス大阪センター Tel.06（6252）6995
広　島 〒730-0013 広島市中区八丁堀16の11　日本生命広島第2ビル Tel.082（228）3821
福　岡 〒810-0004 福岡市中央区渡辺通3の6の11　福岡フコク生命ビル Tel.092（761）4466
※ 土・日曜、祝日および年末年始・夏期休暇は原則として休業させていただきます。オリンパスプラザ内の東京サービスステーションは土曜も営業しております。

Printed in Japan
1AG6P1P2383　VM051602